

書翰の部

- 一、赤松新
 - 1 慶応二年七月四日 京摂形勢如何ヤムヲ得ズ御仕官カ 広島・防長形勢 長崎着 戸塚寮へ入込ミ予定 諸色高ク諸藩ヨリ書生入込ミ 修業困難 今年中ニハ少シハ読メルヨウニナリタシ 薩州越前へ入説表裏 撞着 英仏対立兵庫開港ニツキ当地ニテ各国協議 薩州シキリニ英ニ取入ル 魯蝦夷地蚕食テレガラフヲ全世界へ敷ク計画トイウ ソノ他
 - 2 慶応二年一〇月一日 土生玄豊方食客トナル書生蘭学者ニテ志望ニ相違 井上・阪田ノ配意ニヨリ明日ヨリ緒方洪哉 塾ニ寄宿 当月初メボードインヲ閑斐公招待 公ヲ初メ御当主外八里計リモ出駕ニテ受診 至ル処人群レヲナシ信ズルコト鬼神ノゴトシ マンスヘル フロブレッキ 大樹公益薨去一橋公 宣下先生御上京御仕官カ 小倉戦況
- 二、赤松莞爾
 - 1 明治 年四月五日 亡父十三回忌石碑設立 碑文起草依頼
- 三、秋月墨水
 - 1 明治 年一〇月二七日 中村楼園基会来駕乞ウ
 - 2 年一二月一三日 コノワター樽所望
- 四、安藤定格
 - 1 明治一〇年五月二〇日 春來四区裁判所設置繁忙 当地薩賊彷徨ノ暴徒多シ 板ノ西郷ニ党セザル西郷ノ江藤・前原ニ与セザルニ同ジ 明治創業ノ功臣挂冠末路一轍ニ出ズ 板ノ立志社ニ示セル告諭教唆ニ等シ谷少将守城ノ功第一 阪田諸潔 岩崎川路少将ニ属シ戦地 司法ノ地震同氏ノ為メ賀スベシ 自分帰京延引 所長ニ随行出京ノツモリ 高知厭倦 堅山・堀・丹羽・山成・山本・馬越恭平
 - 2 明治一〇年 九月 八日 近況報告 賊魁授首本月ヲ出デザルベシ 去月片岡健吉他一〇名就縛県下人心恟々 県吏過半ハ立志社員ノトコロ当節排除他県人赴任
 - 3 明治 年 二月二三日 大原公碑銘相談
 - 4 年 五月 二日 楠碑一条オ尋ネ拝承 新堂八日祠ヨリ山手碑モ移スベシ 基金・記文ソノ他
 - 5 年 八月 九日 (前文欠) 御帰隠ノ御意向ノヨシ 孝明天皇御扇記認メ感謝
 - 6 明治一七年 一月一日 (阪谷次雄宛) 先夫子建碑具体案報知乞ウ
- 五、青山勇号、雷巖 延光ノ子
 - 1 明治 年 九月二〇日 本日成島柳北氏及宝丹某来話 オ目ニカケタキ物モアリ来会願ウ
 - 2 明治 年 四月一三日 明治詩文 四三、四集供覧
 - 3 明治 年一二月一九日 来ルニ三日秋月氏来話ノ約 重野氏参会ノ筈 御来会願ウ
 - 4 明治 年一二月一二日 依田氏来春当連中へ加入希望 劇評回覧
 - 5 明治 年 七月 九日 明治詩文四六号ヨリ同九号供覧 右会計拝受恐縮 昨日水哉楼会ハ差シ支エナラン 世良・自分出席
 - 6 明治 年一二月一九日 拙文オ直シクダサレ感謝
 - 7 明治 年 月 六日 洋々之社回章落掌 残恙オ尋ネ奉謝 両三日加養出勤可ナラン

○ 8年 月 九日 記事本末ト酒史新編持合セナシ 刀剣録ト桜史献呈

• 六、浅井吉兵衛

○ 1 明治一〇年一月五日 増補外史事件ノコト 文章軌範読本板下及ビ草稿ノコト 長三洲出版ノ際香坡・藍田追善ニツイテノ意向 大坂博覧場ニテ興行予定 ソノ他

• 七、浅野長勲

○ 1 明治二年 三月一九日 議定職拜命滞京 相談ノ義アリ上京サレタシ

• 八、馬場毅号、空齋、不知齋 津山藩儒

○ 1 明治一二年 八月二五日 平信

• 九、江木繁太郎名、寂号、鰐水 福山藩儒

○ 1 嘉永六年 七月 七日 浦賀ノコト紛々 実説ト思フ所供覧 六月三日異船四艘共和政治所コロヒヤノ船カ 一船箭ノ如ク江戸海ニ入り金川沖ニ止リタリ 一日四艘トモ江戸海ニ乗込ミ大師河原沖ニ至ル 一日出帆本牧細川・佃島黒田皆火消装束 品川上陸ナレバ小大名マデ皆登城 浦賀ニテ戦トナレバ若年寄・老中皆出陣ノヨシ 石川和介ヨリ一書ナク不明 主人海防掛リ且ツ首相臣子ノ心配才察シ願ウ 願ノ趣ハ互市カ八丈島借用トカー向不明 土州人漂海記御返却乞ウ

○ 2 嘉永六年 九月二五日 小生多事蝸集心常ニ阿墨ニアリ 来春三月迄ハ落付マジ 寡君ノ評ドコニテモ悪シトカ 寡君コレ迄予防ノ策ナキハ失策 僕ト石川等西洋書講究ヲ命ゼラレタルハ海防ニ意ナキニ非ズ 水府老公ヲ推轂 江川県令ヲ拔擢海防ニ奮発 老中方ニ和ヲ主トスル説アリ 和ノ説流行互市ヲ評ストナラネバヨシ 上田伊賀侯・姫路侯ノコト

○ 3 嘉永六年 一月 四日 古賀先生百俵加恩布衣ニ昇進 長崎ニ赴キ魯使節ヘ応対 筒井紀伊守・川地左衛門尉君同行先生ニハ藤森・片山等随行之ヲ聴キ驚喜 神辺ニ先生ヲ迎エンツモリ 神辺止宿ナレバ道兄到ルヤ否ヤ

○ 4 安政元年 三月二七日 道中浜松ニテ異船八艘神奈川沖ヘ乗込ミト聞キ急ギ江戸ヘ入ル 江戸静謐廟堂ハ議論沸騰 老中方夜度々登城 武備整ワズ無謀ノ一戦林則除ガ轍 小生ノ意見ハ権策ハ措キ全策ヲ用イ度シ門田亮佐福山引越シ仰付ケラレ氣ノ毒 極内密異船ニ上リ蒸汽船ヲ観ル 此船ニ乗リ阿墨俄羅斯ヘ行ケバー 興古賀先生相変ラズ西学研究 異船乗込一件糸井ヨリ差上グベシベルリノ似顔オ目ニカケン

○ 5 安政元年 一月 一五日 此度誠之館建立 儒業モトヨリ兵学並ニ西洋学モ寺地強平担当ナレドソノ世話役 明日ハ誠之館発会式 出席者千八百人入門者百人許ナリ 兼松ハ追々ヨロシ 古賀先生下田ノ危難実説 下田八分程津波ニトラレ古賀先生着服俣山ニ逃上リ魯船モ難儀 船沈没乗組五百人西浦上陸 公儀オマカナイトイウ

○ 6 安政五年 一月二六日 (矢島鎚六郎他七名宛) 年賀 東海道東行所見 東都変化鉄砲 武芸衰微 雁鍋店盛行 時世ノ変化三月中ニアルカ 堀田閣老・川路阿墨応接ニツキ西上 東歸三月中ナラン

○ 7 安政六年 一〇月 一日 姫路藩岩橋生島貞一郎書齋ス 松山ノコト聞クベシ 此生諸国ノ形勢・改革ヲ探査 今ニ不改革愍ムベシ 尾藩剣術第一漢学ハ次洋学又ソノ次笑ウベシ 小生ヘ書生オ預ケ申出 父母ノ国貴藩ノ人ナレバ暫ラクオ世話セン 左武郎家内妊娠 分娩後西歸 自分文学ノ跡ハ左武郎 享仏戦争

○ 8 安政六年 一二月 一六日 江戸本丸焼焚トカ 有名家斬殺 会津公・因備二公モ天誌トカ 尊兄・自分口禍心スベシ 山路熊太郎ヨリ書道森田先生ヘ合力ノコト 節翁ヘハ内密 何分風塵外ノ人物 永住方取計イ願イタシ

○ 9 万延元年 三月一九日 五十川基御用召ニテ七人扶持表御医師拜命 小生重キ荷ヲ下ロシタ心地 江都外桜田ノ大變事実ナラン 三日朝槍ヲ雪ニ伏セ駕輿訴ノ体ニテ槍ニテ衝突ノ趣

○ 10 万延元年 閏三月二〇日 別紙秘冊卓介ヨリ来タリ 明朝好便アリト聞キ供覧 御覽済ミ後返却願ウ

○ 11 文久元年 六月 六日 寡君東親中大病着府危篤一藩悲嘆 俄羅志日本・西北満州・古肅慎ノ地奪取ノコト我邦ノ深憂 宮原寿三郎英仏派遣ノ由 卓介一件

- 12 文久 元年 六月一三日 寡君〔阿部正教〕棄館 嗣アリ幸イ 江都東禅寺春マデ弊藩警衛 郡山・西尾藩ト交代 水浪士襲撃事件 不幸中ノ一幸 対馬ノ事憤嘆 魯船修覆二事寄セ無法数十人上陸番人拉致 長崎奉行其地出張 魯満州・沿海ヲ取り東方日本ヲ窺イ 対州碇泊ハ兵端ヲ開カン下心 魯狄ノ強大英仏モ及バズ 清朝合従国ヲ保スベクモ清人学者西洋ノ長ヲ用ユルヲ知ラズ 松山侯 閣老ニ止リナバ策モアラン
- 13 文久 二年 七月 日 文久二年七月舟遊 東坡先生赤壁前遊ヲ追想スルノ詩
- 14 文久 二年 八月二七日 虚狼流行重陽後ニハ下火ナラン 御出浮妙後事塾生ニ申付ケ肝要 一橋公内命ノ疑ハ免ガレズ御西遊マデニハ鎮西ノ形勢探索シ置カン 江戸ノコトオ聞キアラン御老中下リノ達ノミ 中山・岩倉・正親町三条・久我・少将内侍落髮 蟄居ノヨシ 薩州上書ソノ外密事江戸へ通ゼシ為メ 九条家宇野玄蕃島田同様梟首ノ噂 大原勅使近頃ハ薩ト不和ノヨシ 賄賂ヲ 取りシトカ
- 15 文久 二年 閏八月一三日 糸井送別会虚狼病流行ノ為メ御欠席止ムヲ得ズ 糸井モ出立見合せ然ルベケレド官途自由ヲ得ズ 兄ノ西遊モ見合せ然ルベシ 伝染病ナレバ伝染ノ地方へ行カヌガ上策 九州ノ形勢根本ノ薩摩へハ行カレマジ 行ケバ危殆保シ難シ 探索ハ兄ノ如キ高名家ノ任ニ非ズ 御上洛ノ時期不明
- 16 文久 三年 六月一〇日 国事艱難 北虜強大北海古肅慎ヲ并シ朝鮮ニ到ラン 本邦累卵ノ危機 誠之館記鳴謝 貴評アリガタシ 卓弟ノコト 松陰養子ノコト (後文欠)
- 17 元治 元年 一月二一日 老兄芸州招聘ノコト マタ弊藩へ招聘待遇石川帰來相談ノツモリ 自分老兄トハ兄弟同様ノ交ワリ打明ケテ相談セネバナラズ 芸州カ弊藩カ老兄ノ心次第 旧■馬関ニテ薩摩蒸気船打沈メラル コノ四日ニ又一艘打沈メ 神祝ハ神力 隊僧ハ僧兵隊力士・百姓ハ郷勇隊本氣ニ攘夷ノ構エ 長州八百敗不携トイウベシ
- 18 慶応 元年 一月一七日 旧冬上京 当年在宅ノツモリ 水戸千三百人中山道ヲ押上リ合渡川ヨリ谷汲川ヲ経テ越前へ出ツ 橋公 征討 加州永原甚七郎周旋 加州へオ預ケ
- 19 慶応 元年 四月 六日 上国形勢風説気懸リ 月末頃会见希望 養母十七年法事倅ヲオ返シ願ウ 新聞御覧ニ入ル 兵庫港開港ノ閣老ノ書翰訳ヲ載ス 京都ノ形勢鎖港攘夷イカナル議論ニナルヤ 篤太夫ナル人講武館ニテ一見 言ヲ交エズ此頃ハ妄リ二人ニ交ワズ
- 20 慶応 元年一〇月 五日 森田葆庵帰藩 火事見舞感謝 老兄並ニ丈介君ノコト葆庵へ話ス 諸藩招聘応ゼザレバ六ヶ敷カラン 葆庵何トカ申出サンサナクバ帰レヌ勢ナリ 丈介君芸藩遊学料ノ一件 ソウデモセズバ外へ取ラレル心配ナリ 大坂去ル二日頃大変更トカ 攘位讓位トナリニ閣マタ攘位サルノ風聞 天下ノ形勢測ルベカラズ 明日蒸気船ニテ帰府ハ評判
- 21 慶応 元カ年 月 日 (無署名) 因藩ヨリ兄ヲ聘スルトカ 芸州ニモ同ジ意向アリ 森翁殉節録ヲ修ムル説議論合ワズ 長州征伐ノ命彦根正使ノ説紛々 宮原圭介・真之介ヨリ申来リタル様子ニテハ大變 乾吉・五十川基ノコト
- 22 慶応 二カ年 一月一一日 年賀 去冬尾道ヨリ芸州へ出デ山陰道廻リ三次駅ニテ越年 一橋公・松山侯ノ諸賢集リ春ニハ陽気挽回カ 三次引込ミテハ京摂・広島共ニ状勢不明 糸井亮介 三島貞一郎
- 23 慶応 二カ年 二月一一日 倅乾吉入塾御礼 長州トカク不穩 一挙討滅ハ容易ナレ共後害懸念 説得降伏セシメントメ遅々 芸州 国境へ派兵 岩国城後ノ山へ火ヲ放チ攻メ入りノ計画 火付ケ浪士内通トカ 岡山藩内乱ノ風評如何 倉敷去冬ノ變後不明 一説ニ 森田門人共トハ虚評ナラン
- 24 慶応 二年 五月 五日 寡君近ク帰国 先日酔中桑名藩士ニ揮毫「先戦後和当今時勢」ト書キ大失敗 何トカオ取上ゲ願イタシ オ上洛ノ模様再征長如何 長州英仏ヲ城下へ迎工響応トカ 時勢变革ノ際諸侯再征ニ献言アルトカ 長州奇兵隊農兵訓練ノ風聞 長士備前へ入込ムトノウワサ虚説ナラン 玉島大筆ノコト
- 25 慶応 三カ年一二月二二日 オ掛合イノ件々拜承 雲崖同道オ出掛ケ妙 先生御托駕ナレバ大丈夫ナラン 笠井媒ノ儀承知 笠井ヨリノ吉答オ届ケ 県令上坂先日ノ件梅監辺迄八達セシヤノ趣 拜謝 作州播州ノ一揆 十津川屯集所々不穩
- 26 慶応 三カ年一二月一六日 天下ノ事公平ヲ称スレド私有リ 兄ノ皇国公平ノ字ハ実ニ出デン 自分等ハ私アルヲ免レズ 上国ノ

形勢我が備ノ憂ノミ 天下ヲ憂エズニハ非ズ孤立ノ小国憂ウベシ 独り福山ノミナラズ 御地代官其外憂慮アラン 尾道ノコトオ聞キナラン 芸兵七百長人千四五百追々薩船モ来ルベシ 其情計ルベカラズ 上様挙動合点行カズ 諸藩ノ言ヲ用イズ松山侯心配 憎ムベキハ薩摩芋ナリ 浜田・小倉等ハ氣ヲ落シ憐ムベシ 恃ムベキハ尾老公・越前公ナリ

- 27 明治 元カ年 一月二日 芸侯聘問ノコト 橋本へハ急ニハ行カズト申送レリ 山陽道豊カナルハ芸州 兄ヲ芸へ勤ムルハ父母ノ国ノ為メ又幕府ノ為メナリ
- 28 明治 元年 二月一五日 去年長州兵屯集以来憂懼百端 九日突如敵襲城後ニ迫ル 止ムヲ得ズ砲發榴弾碎ケ公柩前ニ及ブ 長兵大砲数十發小銃数ヲ知ラズ 城中損傷ナシ河野来レド会ウ暇ナシ幸ニ兩児全シ 松山開城ト聞ク 江都事情如何
- 29 明治 元年 五月一九日 寡君一一日朝江戸出帆 一二日夜半鞆浦着 家中六百余人陪乘 阿墨ノ蒸汽船ヲ雇イカクハ速カナリ 一五日阿船歸ル 五十川基此ノ船ニテ江戸行 残りノ者乗セ歸ル予定 五十川真之助無事 家人郷引取り勝手故郷スルカ 古賀先生無事ナレ共御身上減禄男賈太暇ヲヤルトカ 三枚橋・黒門辺ニテ榊原士劇戦 山内ノ彰義隊大小ヲ棄テ髪ヲ変エテ町人ニ混入 一説ニ亀千代様ヨリオサトシアリ豪傑離散セシトカ 官軍江戸ニ満チテ平穩大焼ハ虚説 小田原会津入説 動揺問罪ノ官軍差向クノ風聞 徳川ノ行末氣ノ毒 歸ラヌ軍ヲスルヨリ和睦外夷ニ対スル上様ノ尊意ナルベシ
- 30 明治 元年 六月一三日 江戸一五日形勢見物シテ歸リタル者ノ咄 積衰ノ士氣嘆ズベシ 唱義隊官軍へ喧嘩ヲ売り暗殺 上野へ籠城 一五日本未明広小路ニテ小迫合イ谷中砲戦唱義隊一時ニ互解 幕府ノ禍士氣不振ニアリ 天下ノ形勢中興絶望 芸備連和人民ヲ安ズルニ如カズ 兄ハ芸侯ノ聘ニ応ズベシ 学政改革ナレバ出ルガ宜ロシ
- 31 明治 元カ年 六月一三日 一橋ノ俸ハ俸ノミ 君臣ノ約ヲ辞スルニアラズ 芸州ノ応聘ニ何ノ障碍モナシ 速ニ応聘願ウ芸藩モ改革中学政ナド相談アルベシ
- 32 明治 元カ年 六月一九日 芸藩へノ御応接心配 オ手紙ニテ事情了承 一橋府へノコト心掛リ 御処置温厚ヲ失セズ感服 芸州ハ自分父母ノ邦笠仕尽力願ウトコロ 御刀ノコト拝承糸井ト相談刀匠へ命ゼン
- 33 明治 元カ年 六月二五日 刀ノコシラヘ糸井ト相談 当時高値品ナシ 柄巻・目貫賜刀ニ取りカヘ フダン差シハ別ニコシラエルベシ 賜刀相応ニセズバ芸藩ニ対シ相イ濟マズ
- 34 明治 元カ年 月 日 コノ人微官故芸藩兄ノ待遇シカト知ラズ 大概三〇人扶持位追々加増 春水・杏坪始メハ五口後ニ三百石始メヨリ二百三百デハ跡が困難故ニ三十口ナラント申セリ
- 35 明治 元カ年 月 七日 柄巻替出来 切羽二金キセソノ外ノコト
- 36 明治 二カ年 六月一三日 兄常ニ鹿洞ノ説ヲ主張 君臣義アリノ説諸藩ノ聘ヲ固辞ソノ実ヲ見ズ 葉公ノ竜ノゴトク似テ非ナルカ 芸公重使ヲ馳セ重恩厚シ 天下ノ形勢非常 然ルニ兄ハ蒲柳トイイ興讓館ノ旧義ヲ拳グ 館ハコレ村落庄官子弟ノ為メ ソノ教育ニ先生ヲ用イズモハや鹿洞ノ辞葉公ノ竜ト変ラズ 鹿洞ノ説自ラ行ウベシ
- 37 明治 二カ年 八月一六日 (坂谷夫人宛) 先生上京御苦勞 オ手紙アリオ元氣ノモヨウ 芸州モ難儀ノトコロ又百姓騒動オ留守中御心配ナラン 八月中先生オ歸リノヨシ
- 38 明治 三カ年 五月一八日 老瀬マタ多忙西洋兵書学ブニ堪エズ ナオ隊中司令士・嚮導・伍長マデ兵法ヲ授ケズテハ実用ニ立タズ 操練ハ兵隊ノ学 兵学校学校ト一所ニ開カルベシ 長州ハ如何ナリタルや鎮定力岩国襲撃ノ説アリ 東京御免仕合セ
- 39 明治 三年 八月二六日 五十川左武郎近日帰国 国政改革ノコトニ参ジ人心不服 半途帰省中姦起紛々終ニ帰国 笠岡校衰微村学究タルヲ得 五十川基アメリカ遊学学費ノコト 華頂王遊学随行ノコト
- 40 明治 四年 一月 七日 年賀 国家報難ノ際毅然雇駕敬服 知友諸子消息 窪田二郎来話 洋学者登用 小学校学則一漢籍ナシ 東京漢学形勢如何 日田去冬百姓一揆 東京ニモ教師暗殺トカ 詞兄帰郷如何 諸藩学政変化 肥後漢籍ヲ焼キタリトカ
- 41 明治 六年 一二月二九日 七月旧疾再発少々困難 帰来一郎熱病ニ罹リ追々全快東行 学者ノ子学者ナラズモ良カラン 保男二男トモ召連レ歸リ心ニ任セ此頃ハ全快 御次男モ備中へ歸リ御保養如何 華頂宮御帰朝 京摂へ御移転
- 42 明治 年 六月 二日 四月五日江戸着 古賀先生へハ一謁 宮原圭介両度面会繁劇ノ様子 五十川真之助旧面目ヲ改メ聖堂ニテ立

身ノ積リ 角田・石川ノコト 山成剛蔵 緒方郁蔵

- 43 明治 年一〇月一〇日 近況消息
- 44 明治 年一二月 九日 二松学舎三島へ老兄御周旋懇篤ノ情義感謝 二松塾追々繁昌 老人消閑ノ策有難ケレド此俚ガ最上 ヨロシクオハカライクダサレタシ
- 45 年八月一二月 節翁イカガ藤江行ハ中旬頃カ 藤江ヨリ沙汰ナシ 竹井節庵馬脚ヲ出シ主人閉口 伴稲佐剣術稽古イツデモ御来遊アルベシ
- 46 年一二月二二日 森謙ノコト当冬ノ活計山路機谷心配 倉敷籠城朗慮・三鹿両兄ニオ世話願ウ 歳末窮迫機谷ヨリ一〇金差出スベシ コノコト他言無用 何卒貴兄ヨリ世話方ヘ周旋願ウ
- 47 年月日 (二日) 節翁倉敷行気懸リ 夫婦寢室ニテ朝食師タル者ノ為スベキコトニ非ズ從学スル者ハアルマジ諫言願ウ 下女ヨリ出デシ話コレ等山路家来ノ服セヌ始メ 節翁ノ細君学者粉黛セヌハ結構ナレド不潔ハ困ル
- 48 年一二月一七日 古賀博士西行 石和介ノ書ニハ発足ノコトナシ延引ナラン 宿ハ矢掛力尾道カ不明
- 49 年一二月二三日 吊書拜謝 健吉御薫陶感謝 先月一七日落命 老夫婦看病致シ遣リ同人ヘ大慶ニ存ゼリ
- 50 年九月一十九日 出遊予定 小生独行節翁談モアリ独行妙ト思ウ 節翁来書平安ノ模様
- 51 年月日 窪田二郎ハ眼科志望 東都遊学拙宅ヲ出タルモ今ニ東行セズ 備中村鑑拜謝 跋文ハ妙序ヨリ数等上 備中庄官頂門ノ一針 此ノ風ハ一橋府吏ニアリ ワイロヲ取り関宿モ取込ミ 東都吏
- ・旗下士ノ醜体士氣モ振ワズ嘆息ノ至リ 角田無異ナリヤ 人ニ殺サレタル説虚評ナラン (以下欠)
- 52 年一二月一〇日 堀行蔵在所津和野君公学問好キ 一昨年学校新築 行蔵引立役 旧ニ死去堀杏庵ヨリ養子世話依頼 門人大塚確蔵推挙 杏庵来リ学校教授官吹挙依頼 老兄ノ名ヲ挙ゲ仕官ハ難シカラント
- イイ置キシトコロ添書ヲ持チ書生来訪 阪谷先生ニオ世話頼ミ度シトイウ 一応御地マデ行カセルノデオ聞キ願ウ
- 53 年一二月 七日 九名御病人見舞 藤島ノコト承知 宮原圭介京都へ出タルカ新報アレバ聞キタシ 天下ノ大患外夷諸侯ニ在ラズ 旗下ノ士風ニ在リトハ妙 森田殉節録殉節ノ文字如何 森田ノ論ハ浪士喜ブベク我徒ノ論ハ怒ルベシ 長州ノコトソノ後沙汰ナシ 國中不和 基遊学ノコト 因芸重聘ノコト
- 54 年月日 詩二首
- 55 年 六月一一日 丈介君熊本着入塾御安意ナラン 卓介勤学 亀井詩翼返上 卓介ヨリ水府烈士上書差越シオ目ニ懸ケン
- 56 年四月五日 井原医師小生旧門生 福三郎トイウ者ノ養子 養父ノ為「蕉窓雑話」トイウ写本借出シ肝鬱ノ治療書ナリ 此書五十川ノ書物 此頃見エズ備中ヨリ返却ナキ模様 御探索煩ワシタシ
- 57 年 月二六日 御領村銃練ノコト 県令ヲ説得郷兵取立テ笠岡・倉敷モ郷兵出来レバ福山ニオ任セアレ 中国ニ強兵出来山陽道ノ鎮圧叶ワン
- 58 年二月四日 滞リナク御開講ナラン 広島聘師ノ件イカガ御結着ナリヤ 先年広島ニ参リタル時河野金蔵知己ニ一大夫アリ尾道へ参リツイデニ兄ヲ訪問ノ意 自分ニハ父母ノ邦賢師推穀望ムトコロ 河野子ト同行スルモ可 応聘ノ志アレバ芸州ノコトオ聞キ取リアレ
- 59 年一〇月 五日 倉敷御苦勞千万 老兄一勞ナレバ万事事足ルベシ 鉄砲道具焰硝ドンドロ外山ヨリオ届ケ 近着短筒打ち方
- 一〇、江木高遠鱒水子
 - 1 明治年二月一五日 削正謝状
 - 2 明治 年一二月一五日 講談社懇親談話会案内
- 一一、江木保男
 - 1 明治一三年 九月二四日 仏国里昂滞留 高遠死去オ世話感謝 仏国セジュイト宗旨ノ教育廃止法案紛議 巴里・里昂騎奢ヲ極ム

• 三、蒲生重章号、■亭 村松藩儒

- 1 明治一〇年 二月 五日 春來官途ノ削減ニテ無祿 拙業多忙ニテ欠礼 拙稿一卷本月中旬迄ニ御叱正願イタシ 失職ニ付近世偉人伝ト標題上梓ノ予定
- 2 明治年一月一四日 年賀 拙稿御閑暇ノ折少々ニチモ投与願ウ
- 3 明治 年六月九日 偉人伝四編贈呈 佳人伝ニ編稿御叱正ヲ乞ウ
- 4 明治 年 七月二一日 偉人伝四編題字有栖川親王筆相加工一本贈呈 佳人伝稿來月中旬頃迄御叱正願イタシ
- 5 明治 年 八月一九日 碑文御垂示感謝 祐元事拙著偉人伝中ニナク郷人ノ不滿ヲ招致 碑文中ニ御挿入願ウ 佳人伝序ハ王紫詮作ナリ
- 6 明治 年一〇月一一日 仏山翁詩鈔落掌 条公へ揮毫願ウベシ
- 7 明治 年一〇月二七日 拙著へノ高序脱稿ナレバ揮毫願イタシ 第二編巖谷一六序ト字数・大キサ同ジ程ニテヨロシ
- 8 明治 年一一月 一日 拙稿削正感謝 旧筑前土云々拜承拙塾嚴規ヲ掲ゲオレド少年輩犯スコトアリ 当惑 当時塾生温順注意仕ルベシ

• 一三、五弓久文号、雪窓 福山藩士

- 1 明治 年 一月 四日 依頼ノ碑文是非執筆願ウ 岡千仞
- 2 明治 年三月二三日 (坂谷・世良宛) 重野発議ニテ觀劇 両先生同觀願ウ
- 3 年一一月二七日 書物返却添状

• 一四、後藤堅蔵 後藤松陰養子

- 1 文久 三年 二月 六日 (藤島堅蔵名) 近親者消息 島三開國説在京ノ諸侯四〇許リ開國不服ノ者余程アルヨシ 一橋公甚不服ノヨシ 因備長芸當時同説同服トカ 將軍上洛先手ノ蒸氣船一隻行方知レズトノ事
- 2 文久 三年一一月二五日 (藤島堅蔵名) 小寺雲松招飲ニ柴原順次ト同行 出船一八日兵庫着 一橋公上京蒸氣船兵庫着 緒方郁蔵 河吉 宮原寿三郎 西横堀出火大混雜 五十川基二出会 世上評判記会津評判 中山侍從 安井仲平ノコト
- 3 文久 三年一二月一五日 (藤島堅蔵名) 橋本範助下獄ノ噂ハ嘘 幕府処置不明 大坂ハ静謐ナリ 物価高ハ貿易ノ為メトノ評判 將軍上洛年内カ 宮原寿三郎宿割ニテ在坂 上洛供奉ハ松平大和守外板倉ハ留守番 土佐隱居上洛 薩州・長州公一橋公將軍上洛 待カ 大和浪士御赦免トカ 暴発天下人心攘夷ニ向カワシメ攘夷ノ先手トスル説 頼三樹・吉田・桜田・坂下ノ義士カク処置アレバ天下帰服シタラン 緒方郁蔵 松岡嘉八
- 4 文久 三年 月 日 (藤島堅蔵名) 談掛リ一件松陰翁へ直談 翁承服 河吉・植松岩次郎・近江屋ノ世話ニテ約書受取り (付) イ、約書写後藤春蔵ヨリ藤島堅蔵宛 一通 口、二啓 良吉一条 一二月一七日付 一通
- 5 元治 元年 五月一五日 転居通知 当年奉公人少ナク御地辺人アレバ下男紹介願ウ 藤沢先生大樹公へ拜謁 関東蜂起 神君木主ヲ押シ立テ攘夷ノ魁ト申立 過半ハ水府浪士 京都諸侯引払イ大樹公モ大阪へ帰城
- 6 元治 元年 月 日 義父松陰翁長逝報告 (以下欠)
- 7 元治 元年一二月 三日 香資拜謝 謙吉不平サクラへ行ケズバ他門へ入塾緒方へハ帰ラズト 昨日緒方塾長來訪 郁蔵無心ノ人ナレド破門ノ意向トカ 塾長へ詫ビ帰塾ノ取計セリ 東國ノ浪士美濃・大垣ナド出掛ケ京都へ何カ願ノ筋アリトカ
- 8 年一〇月 五日 昨今京撮ノ形勢累卵ニ等シ 精シクハ此状持参主一郎ヨリ聴取アレ 主一郎身上ノコト
- 9 年 月 日 天下ノ形勢次第ニムズカシクナルノミ御地ハ里程モ近く委細御承知ナランモ虚説アルベク御参考ニ別紙呈覽 四屋ハ中軍後備ノトコロ入替当且中出軍トカ 先生へヨロシクトノ伝言

• 一五、浜生章夫

- 1 年 三月二一日 九州ヨリ御帰宅ノ由 此生長藩松浦半右工門広島友人ヨリ頼マレシモ我藩鎖国他藩人引受出来ズ御塾ニテオ世

• 一六、林欽次

- 1 明治一二年 六月 七日 秋帆翁遺書御作文執筆万謝 才尋ネノ件五件才答工 明治元年当地退去会津へ時ニ開成所教授 職会津敗績庄内へ流落降服 二年東京へ間行潜伏中大赦一橋家督学廃藩後名古屋二橋居 後陸軍出仕他
- 2 明治一二年 七月 七日 高秋帆先生遺墨記御作文草稿落手 格別ノ御趣向一同感賞
- 3 明治一二年 七月 一日 別紙書状封落ノ俛差上げ申訳ナシ
- 4 明治一二年 一月 八日 御三稿投与事実明瞭御礼申上グ 洋酒呈上 桜井氏へ返書出来 報知・朝野へ投書 両社八国会熱ニテ没書 横浜ダケ掲載 先生方ニハ顧ラレザルモ持論一見願イタク郵送
- 5 明治一二年 二月 一日 曙新聞ノコト配慮クダサレタル由 ソノ内新聞縦覧所へ行キ一見仕ルベシ 茶樹ノ件拝承 不日茶樹持参致サスベキニ付植付場所御予定願ウ
- 6 明治 年 一月 一日 年賀 旧冬丹精ノ御作文才蔭ニテ児孫ニ伝工得ン 新紙掲載セバ雅人ノ風評見ルベシ 別紙御一覽後ハ西先生ニオ見セ願ウ
- 7 明治 年 一〇月 三日 御作文才届ケ拝謝 数度ノ御改正ニテ明瞭感伏 一字余字アルカ今一応一見願ウ
- 8 明治 年 一月 二日 丹精ノ御作文新紙掲載ノ件 探訪者ニ草稿渡シタレド今以掲載ナシ 故ニ草稿取戻スベク報知社掛合中 一通ハ朝野探訪人へ渡シタレド是又記載セズ 朝野・報知ハ成島・栗本等旧幕府ノ権 声アリナガラ曖昧ノ筆妬嫌スルトコロアルカ同封一枚 茶樹ノコト
- 9 明治 年 一月 九日 写出来同封呈覽 御一見後誤脱ナケレバ報知社へ送付願ウ

• 一七、林富太郎 号、抑齋 松山藩儒

- 1 万延 元年 六月 二日 当春参上長逗留仕り多謝 粗品呈上 井伊侯家督京師守護諸向以前ノ通りノ由
- 2 文久 元年 六月 二七日 学館学政役名 川田剛仕官近来妻縁シ尊崇ヲ得タル由 先月廿八日東禅寺墨夷旅館浪人一〇人 許切込風聞 対州魯夷濫妨打合ニナリ対人多人数死傷ノ由
- 3 文久 三年 四月 二九日 三島出京九州ノ話承リタリ 御上洛種々変乱寡君枢要ノ職心痛 此節ハ摂海見分 攘夷来月一〇日三港共清・蘭ヲ併セテ鎖絶 一橋公全権トシテ下向 精鋭練磨ノ敵ヲ相手ニ秘策アレバオ示シ願ウ 備前新侯好気概感服
- 4 年 八月 九日 弊藩平野左門入塾許サレタシ

• 一八、日高儀一

- 1 明治 二年 二月 九日 大命ヲ蒙リ学政更張ノ由 堤助作門下ニ加エラレタク教導願ウ 天下ノ形勢大变遷 奥羽皇化ニ帰シ通逃ノ小醜箱館ニ蟻集ノ風聞 御地ハ静安ノ由此上ノ変乱ナキヲ祈ル
- 2 年 九月 二六日 同藩ノ者兩人入塾希望紹介
- 3 年 二月 二六日 拙稿御添削早速返却ニ与リ感悦 御高作惠投万謝 坂田氏帰邑後御不快ノ由 今頃ハ御本復力序ノ折ヨロシク伝言願ウ

• 一九、日高誠実 号、梅瀬 高鍋藩儒

- 1 明治一三年 五月 一七日 「海防臆測」ニツキ拜答落手アラン 二〇年前小生野州遊歴中仙台萩ニ関シ筆記 先般希望ニ任セ貸渡シタルトコロ直ニ出板ノ手筈 一応先生方ノ検閲ヲ経タク叱正願ウ
- 2 明治一三年 六月 九日 「海防臆測」製本出来一部献呈 他ニ所望アルヤノ由外三部差出ス 二割引ニテ周旋願ウ 曙社中村氏門下ノ由一部贈呈 広告掲載願エレバ幸イ
- 3 明治 年 二月 七日 (財津吉一・日高誠実連名) 才留守中訪問 吉一帰県 明日蒲田梅莊ニテ送別宴催シタク参席願ウ
- 4 年 一〇月 五日 阿州工藤利三郎揮毫依頼

- 二〇、日高得一郎
 - 1 年 七月一六日 老父一一月廿八日病死 無音多謝 松田謙蔵来訪旧話 今夏御上京不日帰駕ノ由 時事怪々江木氏炎熱中在陣勤苦 アラン 先生・自分コノ責ヲ免カレ賀スベキカ
- 二一、平本希一郎
 - 1 明治一一年 二月一四日 出京中ノ御懇切感謝 宿痾養病ノ為メ当地奉職 此地景況先ズハ繁栄 民事・刑事・勤解表ハ総計一万 四千余ナリ 佐々木科人
- 二二、広瀬孝之介 号、林外 旭莊ノ子
 - 1 文久 二年二月二三日 先日御来訪ノ節ハ失礼 肥後ノ御遊ハ肥後生ヨリ申越セリ 五岳別紙差上グ
- 二三、細川潤次郎 号、十洲
 - 1 明治 年 一月 七日 旧年ヨリ厄介多謝 挿頭ノ序文認メ恐縮 新年文字ノ商売初節提覧 草稿へ直接加朱願ウ
- 二四、福羽美静
 - 1 明治一三年 一月 五日 年賀 和歌一首 (付) 名札
 - 2 明治一四年 一月 二日 年賀 和歌一首
- 二五、福田七郎 号、渭水 諫早藩儒
 - 1 慶応 元年 二月 六日 野伯辰森田翁へ随学 貴門へモ折々拜趨ノ由多謝 蕪稿上梓雲崖兄ニ判下煩ワセシ趣ヨロシク伝言願ウ 世 情変転痛歎 弊邑征長発徴ハ免レタルモ崎戌ヤラ遠征ヤラ痛心ノ至リ 唐山ノ長毛賊平治力
 - 2 年 一月二二日 佩翁来遊盛会 崎中去秋以来平穩ナレド姦商利ヲ競イ物価騰貴 上国モ浮浪退散ノ由 雲崖石刻出来恵投感謝 弟 草稿上梓野口生ニ托シ林田越民へ送付 貴兄ヨリモ高囑願ウ
- 二六、福地源一郎
 - 1 明治一五年 六月一五日 (阪谷次雄宛) 資政民会設立ノ建議草案拝読 趣意敬服方法・条目不同意ノ点ナキニ非ザルモ当路ニ ハ参考トナルベシ
- 二七、船越衛
 - 1 明治一四年 一月一七日 (阪谷次雄宛) 弔状
- 二八、藤井啓 号、竹外 摂津高槻藩
 - 1 年 七月 三日 粗品ニ懇篤ノ御礼恐縮 高製三箋薫誦 足袋二足恵投調法 豚犬へ御諭シ早速申聞カセリ 節斎播州行 日下燕石
- 二九、藤野正啓 号、海南 松山藩儒 幕府儒臣
 - 1 明治 年 五月二二日 小宴案内状
- 三〇、池上誼三 号、秦川 備中浅尾藩教授
 - 1 慶応 元年 二月二九日 森田翁一件播州へ遣シタル片山帰郷延引ニテ申シ遅レタリ鉄兜留守ニテ面話ヲ得ズ柴原ト相談 作州土 居へ参リタレド同所居住ハ叶ワズ 此上ハ故山帰臥ノ外ナク大和へ発足予定
- 三一、井上毅
 - 1 明治 年一〇月三日 叙文ニツキ高諭感謝熟慮再度高示ヲ仰ギタシ

三二、井上右仲 号、竹陵 桑名藩儒

- 1 元治 元年 一月二〇日 年賀 一昨年来高館訪問ノ際歓待多謝 貴兄モ西遊ノヨシ 一昨年来世運危殆奔走ノミ 昨夏ハ主人西上ニ從イ在京 仲秋歸郷 主人ハ御上洛ノ供押去臘上坂 旧冬主人命ニヨリ若者四五人 九州筋へ遊学 内中村英二貴塾才世話願イタシ 十文字竜介 森田翁ノコト
- 2 慶応 元年 二月一〇日 肥後留学生帰学ノ途次貴塾ノ盛容ニ接セシメタシ 和戦ノ高論敬服 暴ヲ以テ暴二代ユルノ衰世長太息 肥後留学生ノ人物紹介

• 三三、石沢遠

- 1 弘化 四年 二月二五日 客冬御来遊ノ際ハ失敬 沿途松川ノ勝初メテ知ル ■庵先生死去驚愕 牛窪兄弟来遊

• 三四、五十川基 号、米里 福山藩士

- 1 文久 三年 六月一六日 姉小路一件当地風説トハ相違 村上理庵姉公路ニ謁シタル者ノ説 尊王攘夷ニテ長州ト同説 刺客一事ニツイテ薩長出京地ニ入ルヲ禁ゼラレタル一条承知アラン 天朝尾州老公ノ説ニ賛意トカ 長州数度ノ戦朔日ニハ大敗
- 2 明治 元年 七月二〇日 先月一五日出発江城滞在十余日今一四日帰着 江城形勢嘆ズベキナレド平穩 真平君ト同伴帰省ノトコロ不都合アリ中止
- 3 明治 元年 一一月 三日 出発一一日頃トノ由 槍ノ件取寄セズミ 江木ノ槍工対シ自分ヨリモ御必用ノ物贈リタシ 真平君無事安着ノ由 朋友ト江戸話ニチモ鬱憂散ズルノ要 石川翁執政就任トカ 丈助君归来御安心ナラン 真之助書状着徳川氏退去ノ時駿府御供願出 官軍ノ召ニ応ゼズ川越辺水沼村星野某ニ寄寓イズレ帰国力
- 4 明治 年 二月二七日 オ申越ノドンドロ来月五六日頃ナラデハ手ニ入ラズ
- 5 年 月一 二日 (前文欠) 夷船襲ウトイウハ薩ノ口実力新聞紙報道実ナルベシ実否未詳

• 三五、五十川卓介

- 1 安政 元年 五月二七日 古賀へ入塾 塾中不法人ノミ他家へ移ルベキカ 墨夷退帆 旧知ナリヤ佐久間修理長州人吉田某へ添書シ 墨夷へ渡来サセントノ計画発覚佐久間・吉田兩人同口ニテ二百年ノ高恩ニ報ジタク墨夷へ渡来ノ存念トナリ
- 2 年 一月 日 年賀

• 三六、糸井亮介

- 1 安政 五年 九月二八日 コロリ相止ミ大慶 早間半三郎入塾ヨロシク 広島侯コロリニテ逝去世子ナク困却ノ由 江戸表ノ政事家 齊公時代通りニナリタル由 根津遊所復旧トカ 入道先生ノ政事故然ルカ 夷人町場ニテ買物高値ニ買ワセコノ悪風兵争ノ因
- 2 元治 元年 八月一二日 小島虎太郎入塾紹介 天下ノ時勢奇妙長州ノ愚策吉川監物大心配 長討伐廟堂紛々 長未ダ上ノ関辺ニブラツキオリ入国ヲ許サズノ説不明 此節ハ使節往来大混雑 江戸開国説盛シ 攘夷家ハ尽ク失敗

• 三七、鎌田宗平

- 1 慶応 三年一〇月 九日 九月京地発ノ者ノ話ニヨレバ中川王再入道 御所ヨリオ暇京へ入ルヲ許サズ 大患故黒谷ニ閉居トカ 京地出火ハ関東浪人ノ所為トイウ 春相ノコト
- 2 年 九月一七日 仏山〔村上カ〕 配意ニアズカリ幸イ ソノ節拝借ノ從軫録写シ終り返却

• 三八、神吉良輔 号、桐隠 赤穂藩士

- 1 慶応 二年 一月二六日 年賀 息子教導拝謝 征長ノ様子不明 近時ノ形勢アイマイナルコト多シ 諸品騰貴ニハ閉口主理ノコト
- 2 年 四月六日 藤島・山島両生来訪ノトコロ伴敏活郎祖母物故 緩話ヲ得ズ 伴生昨年ヨリ凶変続キナリ 門田来状拝見

• 三九、神吉主理

1 安政 五年一一月 七日 九月三日 出立当月一九日 着 塩谷先生 多人数ニテ断ラレ三島ノ周旋ニテ藤森入塾 水府ノ毒殺虚説御咎
メハ京師後押シノタメ 土屋侯登城差止メ 藤森先生モ懸疑疑イ晴レ閉門 金川ニテ交易兵庫モ許可風説

- 2 安政 六年 一月二四日 年賀 昨年將軍亮去 悪病蔓延 春來寂寥 藤森入塾後先生水府出入ニツキ慎ミ中 他近況
- 3 年 月 日 (九峯詞兄宛) 東西蝦夷地伊達・松平・佐竹・酒井・南部・津軽各警備担当区分

• 四〇、金本顯蔵

- 1 年一〇月 九日 会津藩南摩三郎紹介西遊御地往訪ノ際ヨロシク周旋願ウ 御近況安藤男ヨリ聞ク 緒方郁蔵消息

• 四一、堅山理一郎

- 1 明治一〇年 四月二一日 今回ノ逆賊猖獗長大息 当庁民刑共多事 小生掛門欧殺一件報告 小生擬律判事久保ト相違 千葉裁判所
の例ヲ以テ納得セシム
- 2 明治一〇年 六月 七日 拘摸擬律一件ニツキ久保意見ト齟齬 久保派ヲ為シ小生眷顧ヲ失ウ 小生帰京策高配ヲ願ウ
- 3 明治一〇年 六月三〇日 審判上戒諭感佩ニ堪エズ イブシニ試ミニ贈送
- 4 明治一〇年 八月一〇日 男子誕生死亡遺憾 平賀所長着任 水野氏訪問ノ折小生身上打合セ願ウ

• 四二、加藤玄章

- 1 明治二二年一〇月 八日 千葉ヨリ下総ヲ經テ房州御遊 寓居オ寄リノ節不在拝顔ヲ得ズ残念 庵先生海防憶測落手 日高先生
來訪アリ ソノ時モ他出中ナリシ今回ノ尽力感佩

• 四三、加藤弘之

- 1 明治一〇年 四月二三日 華族会館講義ソノ心算ノトコロ真ノ官吏トナリ毎日ノ出勤 従前ハ文部卿囑托 講義ノ取調叶ワズオ断
リイタシタシ

• 四四、川田剛 号、甕江

- 1 明治 年 八月二八日 御來訪在不在不定來月中旬ナレバ帰宅 ソノ頃來話願イタシ 御文稿拙批収手願ウ 記念ノ印紙赦顔
- 2 明治 年 月 日 柴原ノ居所報知感謝 在京カ否カハ不明 大津高ノコト金井ヘ申入レ 他ノ局昇級ノ例ト引キ合セ申立テ見ルトイ
ウ 三島ヘモ依頼アリタシ

• 四五、川副二水 名、増吉 肥前小城藩

- 1 明治一二年 五月一九日 高作惠贈感謝 老生先月熊本・鹿児島遊歴一〇年ノ新戰場經過感銘 遊歴ノ雜作左二四首
- 2 明治 年 三月三一日 拙弟川久保乾太上京面接願ウ 江木滞京トカヨロシク伝言願ウ 昨冬ヨリ転居 隱栖ノ近作八首

• 四六、木原藉之 号、桑宅 広島藩儒

- 1 明治 五年 六月二九日 小石ヨリ近況拝承 政体少変アリテ開化民力相当トノ明詔感戴 日新モ月新位ニナリ天下ノ洪福 二位公
ノ商法心配諫止ハ出来マジキヤ 自分市学習字師トナリ老体ニハ適宜ノ勤メ 豚兎昇任感泣司法年少人ニ如何ト心配 小石・松年
絶交醉中ノ奇事ナリ
- 2 明治 五年 七月二四日 松年ヨリ情況拝承 司法省出仕感戴 兎厄介感謝 僕淵崎西福寺ヘ分塾 菊田書画会ヘ参リ大不平 小石ト昨
夜会話 青山老公病氣士庶一同心配 中井収作 国泰寺独秀
- 3 明治 五年 八月 七日 大風才見舞 節山公逝去ソノ墓制 河野小石巖島祢宜任命 初メハ怪事ト思イシガ適任カ 寺尾小八郎上京
同人辭職事商トイウ 松年商律建議少年鋭氣ノ弊ヲ恐ル
- 4 明治 五年 八月二四日 教部三大教則闇夜二明ヲ得タル如シ コノ教則ハ徹上徹下ノ教ニテ文部一省ニ関セズ 外国学寮ナドモ
教部省中ニ管轄ヨロシキカ

5 明治年 四月一八日 近況消息

- 6 明治年 六月二五日 僕滞港兩三日後発船帰県 二男松三郎長崎行非意諭説此地迄同行ノトコロ唐突脱走 モシ立現レタル時ハ説得願ウ 達三君壯健煩慮無用 松田謙造此地ニテ代言人入社 相変ラズ飲酒落魄
- 7 明治年 八月 一日 今朝留守へ小石来訪 明朝吉田発程 今夕先生同方へオ出デノ由 ナレバ自分モ罷出叙別イタシタシ
- 8 明治年 九月 七日 今夕七時雲崖同伴来駕乞ウ 末田鹿蔵来会ノハズ
- 9 年 九月 四日 中秋無月三首尤モ妙 印章願ウ遊印所持ナレバ両生ノ詩へオ願イタシタシ
- 10 年 九月一〇日 徳応寺ヨリ新庄へ回遊ノ期日 尊答慈範師へオシラセ願ウ
- 11 年 九月二五日 弊藩三書生貴塾へ従学ノ内命 内一人ハ豚児何卒留塾許容願ウ
- 12 年一一月 四日 先日少録突然帰家御出デヲ待チ処置相談イタシタシオ出デアレバ寺田オ世話ノ、予定カ小石眼病 雲崖へ依頼印面ノコト

• 四七、木原章六 広島藩士 検事 桑宅ノ子

- 1 明治 四年 九月二四日 御家内皆様昨二三日出船 当県下土民騒擾 略鎮定ナレド兵威ニヨルノミ説諭届カズ 山県郡壬生村ニテ土民ニ困マレ危ウク脱出 小島範一郎 当県変革未シ河野大参事近ク来県トイウ 鷹金一条ソノ後如何
- 2 明治 五年 五月二三日 本月七等判事拜命 長崎上等裁判所勤務トナリ愚父同行イタシタシ 父ニ説得願イ同行決定セバ至急下港方オ勸メクダサレタシ 達三君長崎同行如何 外国人カバナ長崎ニテ教授ノヨシ
- 3 明治一〇年 五月二二日 二月一九日鎮台警砲 裁判所御船町ニ移ル 二一日薩賊来襲ノ風聞 県令品川大書記共城ニ歸リ裁判所隈府移庁更ニ山鹿町へ移庁 熊本城陥落ノ状勢 植木・木ノ葉ノ戦イ南関混雑瀬高二移ル第一旅団野津少将来着山鹿・高瀬線合シ四月一五日熊本城兵ト相通ズ 一八日裁判所歸ルヲ得ル 戦後調査・党民事件・国事犯下調べ等事務繁忙 植松ノコト
- 4 明治一〇年一二月二七日 芳郎病氣見舞 警視局へ出勤出版ノ御仕事力 当夏退職帰県 浅野守夫等ト勉強会 広島県御用掛被囑 警察学ノ教師

• 四八、菊池純 号、三溪 和歌山藩儒 幕府儒官

- 1 明治一三年 六月二八日 文稿督促ヲ受ケ急ヲ要スルタメ兩三日中批正乞ウ
- 2 明治一三年 七月一三日 文稿叱正願イタク呈シタルトコロ所在ヲ失シ恐縮 鄙文垂教一々敬服 折角ノ削正ナガラ今一応元稿ノママ清写呈書 再応痛正ヲ願ウ
- 3 明治一三年 七月二〇日 叱正一々敬服鳴謝 湖山翁ヨリ都序刻着手ト聞キ一驚 急ギ草稿浄写黄翁へ差出スベシ オ序デニ刻手サシ留メ一願ウ

• 四九、木村織衛

- 1 安政 元年 一月二三日 (中島宛) アメリカ船浦賀来航 老中面会強要 江戸府内状況 諸家出馬 私大筒方引受ケ出陣用意

• 五〇、小永井岳 号、小舟一橋藩儒 名古屋藩儒

- 1 明治 年一〇月一三日 和泉屋勘右工門ヨリ戯曲高評願イタキ由 然ルベク接話願イタシ
- 2 明治 年 月二五日 書鸞吉田勘右工門紹介

• 五一、河野絢夫 名、維熊 号、鉄兜 播磨林田藩教授

- 1 安政 二年一〇月一五日 春來松宇・石舟・節庵・竹香等続々往訪ノヨシ羨シ 藤江開塾ノ相談貴塾ヲ手本ニスベシト申シ置ケリ 送序拝読鄙意ヲ添工返却 近稿供覧加筆願ウ 江戸災震一斎翁瀕死ノヨシ 他消息
- 2 文久 二年 一月一六日 柴原生ノコト 中島文三郎飄然金毘羅詣リ燕石へ長逗留 貴塾・森田へモ滞留挨拶モナサズ困リモノ 古賀先生如蘭集所蔵ナレバ拝借イタシタシ

- 3 文久 二年 八月一三日 五月中旬ヨリ気分スグレズ医薬万端断酒保養 読書モナラズ文通放却疎遠ノ次第 如蘭集ノコト 詩扇供覧 ■庵先生崇程所蔵ナレバ借覧シタシ 清琴会ノコト
- 4 文久 三年 五月一三日 四月末ヨリ軽志伏枕コノ三四日恢復 藤島・山成来訪 藤島後藤ノ後詰大ニ結構 如蘭集拜賜多謝 燕石股肱一人モ顧ル者ナク倅■吾方ニ住居不幸中ノ幸イナルベシ
- 5 慶応 二年 四月二三日 宿恙依然 貴塾隆盛大慶 倉敷一小変弊社八木静馬動静聞合セノタメ 貴国へ出立 他ニ知人ナク老兄ヲ頼リニスベクヨロシク周旋願ウ
- 6 年 一月 二日 年賀 雲崖一条ハズカシキコト縷々ノオ申越シ大抵ハ承知周旋ニテ京撰ノ職人へ廻シ落成サセタシ 如蘭集続編 惠賜拜謝
- 7 年 二月一四日 (前文欠) 藤森江戸ヲ追ワレ行徳ニ住居
- 8 年 四月二三日 草場立太郎京ヨリ帰省途次オ伺イシタキヨシ周旋願ウ老兄ト江木ニ会イタキヨシ
- 9 年 四月二四日 先日雲州へ出遊トカ盛興ナラン 清琴追善会引札上木ノコト三月ニ雲崖へ依頼セシモサッパリ出来ズ 老台へ差向ケタク門生中日リオ役ニ立テクダサレタシ
- 10 年 五月二〇日 姫藩渡部圭助同行柁源八紹介
- 11 年 九月 一日 六月コレラ罹病一命取り止メー安心竜野生三名御塾へ出デタリ 藤江卓蔵専門ノ儒鞭撻願ウ 宮藍所ノ一封 佐賀ノ西岡周碩・山口権六参上
- 12 年 一 月 一 日 赤穂松枝啓太郎紹介
- 13 年 月 一 〇 日 播陽風雅刻意ニ反スルモ致シ方ナシ 編輯某翁病臥ニテ催促シキリ 命ノアルウチ間ニ合ワセテヤリタシ 全部出来ザル分原稿オ返シクダサレタシ

• 五二、河野徴号、小石 広島藩儒

- 1 明治 元年 六月 七日 京撰情態オ示シ拜承 尊王ノ道立タズバ弱肉強食ノ姿 合議力立君力事ノ定マルヲ願ウ 西村参政・湯爪翁 参ルハ草廬三顧ノ意 関東紛々ヒトリ会兵猛 王師逡巡ノ噂 堀・木原等ヘヨロシク
- 2 明治 五年 八月二七日 巖島祢宜拜命 説教掛リ命ゼラレ彼ノ三大教説論 二葉山社・仏護寺ニテ開始 僧侶ノ方数百千人ノ聴衆 二葉山ハ三五百案外ノ大入り 国泰寺独秀教場係 松年再遊消息ナシ
- 3 明治 八年一二月一三日 師範校へ出仕以来儒者地獄へ墮落寸閑ナシ 村田良穂・木原自称居傲学 吉村隆造家塾ハ師範校生養成 僕ノ学人呼ンデ間ニ合ワセ学 儒者ノ衰頹憐察アレ 三郎君上書トカ府下ノ近況如 何船越東北辺へ巡論トカ
- 4 明治一〇年 五月一五日 蒲団渋紙包ニテ尊家へ送付 着否一報乞ウ 二男久シク音信ナシ別紙オ届ケ願ウ 返書スルヨウ伝言願ウ
- 5 明治一〇年 六月 三日 二児厄介ヨロシク 暴民賊ニ帰スル者モアリ 山口県下モ暴徒劫庁ノ報 コレハ西賊トハ無縁トカ 章六病氣 関東ニモ騒動ノ風聞 千葉県暴動ハドウシタコトカ
- 6 明治一〇年 六月二四日 二児引続キ厄介多謝 三男入選天野ノ配慮高庇ニ抛ルナラン 船越・藤田・橋本募兵県議不合コノ節協同ニ至レリト 西陣定マラス南鄙動キ東晋記ヲ読ム心地 県下ハ右団ニヲ呼ビ芝居繁昌
- 7 明治一〇年 七月一六日 西南ノコトトリドリノ評 当地右団ニ開場時世不似合ノ繁華 二男オ世話尋ケナシ 近来勉強如何ヤ通知賜リタシ 松島徳夫上京
- 8 明治一二年 五月一八日 老母へ寿詩感謝 江木履歴書高遠ヨリ送致 県会開ケ石井英太郎議長藤井松年副議長 松年民権努力 岡山県ハ警軒議長評判ヨロシク 此地モ漢学流行喜ブベキカ否カ不明 二児厄介ヨロシク
- 9 明治一三年 五月一九日 二男事送金申越シ事由不詳 倅夫妻ノ手前詳説必要 火急ナレバ立替工願ウ 病氣退校オ勸メ願ウ 辻維岳新県令千田同行出京 辻ニ弁償托シ置クベシ (註) 封筒辻維岳名
- 10 明治一三年 五月二一日 辻維岳托予定粟村信武上京ニ付同君ニ托ス 二男如何ノコトカ退校帰県トアレバ路費・薬価必要ナ

ラン 費用粟村ニ托シタリヨロシク協議願ウ

- 11 明治 年 一月 一 三日 平山栗原出京ニツキ呈上 紙包八国産手平鰈笑味願ウ 三男衣服代価返償イタシタシ通知願ウ 生徒題詠 二次ス十韻
- 12 明治 年 一 〇 月 四 日 二児学資金方法立チドウヤラ永續ノ見込ミ 次男ヨリ書状ニテ送金不要近日シキリニ夢ヲ見ルト精神衰弱カ 錯乱ニ至リテハ大変上文申聞ケオ論シ願ウ
- 13 明治 年 一 二 月 一 二 日 二児事仰越サレ辱ケナシ 一〇円送金 当時無給多人数坐食他日ノ成業期待鞭策願ウ 桑宅老イタリ章六 県ノ第四課勤務四〇円ノ月給先ズ凌ギオレリ 塵庵西京本山へ聘サレ僕ニモ内諭アレド未決 日々無人寂寥ノミ
- 14 年 三 月 一 〇 日 昨夕帰宮 今明日拜趨ノツモリ 尾道ニテ逸峰画入手献呈 献魚添書
- 15 年 月 日 漢詩二首

• 五三、草場五郎 名、廉号、船山 巖原藩儒

- 1 年 五 月 五 日 世運変遷帰趨ヲ知ラズ 物価飛騰上国モ同ジカ 長ノコト新説ヲ聞カズ如何 島原藩ノ旧門生 備前へ出張 折々拜趨 希望ヨロシク

• 五四、馬越元■

- 1 慶 応 三 年 四 月 六 日 高諭ニヨリ遊学年限延ビ感謝 平井八郎ヨリ金子借用 愚父心配ナレド冗費ニハ非ズ 某旗下ニ英書授読謝 金小遣ニ充ツベシ 愚母帰省催促平井ノ謬言ニ抛ルナラン 竜動友人ヨリ一報 中村敬介 民部様パリス留学 箕作■一郎 天野五郎

• 五五、股野琢 号、藍田

- 1 明治 四年 三月 一 八 日 今夕重野・藤野・三島弊寓ニ参集御来会ヲ乞ウ

• 五六、松岡彦二

- 1 明治 一 〇 年 六 月 一 日 大審院出仕繁忙ナラン 鎮西殺氣滅セズ痛息 序文加筆願ウ

• 五七、松岡璋翠 名、光訓 津山藩士

- 1 明治 年 五 月 七 日 旧藩主老公近日先生ヲ招待ノ意 拙老ヨリ申出ノ命アリ 日限未定ナレド入来願エルヤ否ヤ
- 2 明治 年 六 月 一 二 日 一昨日ハ不忍池へ来臨多謝 藤堂老公先生ノ去ラレタルヲ遺憾トサレオリ 当廿六日ノ文会出席ヲ願ウヨ ウ命アリ 宿題ハ和而不流説ナリ
- 3 明治 年 月 一 八 日 一昨日ハ陪從願イアリガタシ 昨日阿部ヨリ挨拶二千疋頂戴 先生ノオ蔭御礼申シアグ

• 五八、三島毅 通称、貞一郎 号、中洲

- 1 安政 五年 三月 一 九 日 道中遊歴一〇月下旬都下着 米国使節滞都 内約一六条内米官吏一名江戸在駐 互市場七ヶ所他 京師へ閣 老以下奏聞ニ参リ英明聞濟ミニナラズ 五六万兩賄賂持参オ聞濟ミトカ 墨使返答催促ニ又々都下へ参ルモ都人士騒ガズ恐ルベ シ 都下ノ儒家塩谷・藤森・安井鼎足 官儒ハ良翁一人盛ン
- 2 万延 元年 五 月 二 八 日 今月初旬昌平へ入寮屋鋪へ通勤 寮中詩文方ヲ命ゼラレ多忙 安藤養子説大坂ヨリノ手紙ハ届カズ委細 河吉へ依頼 山本五市林洞海塾ニテ医術モ上達代診ニ出ル程ナリ 代診衣服五円ノ借金 故郷ヨリ送金方周旋クダサレタシ 桜田 一件罪人吟味中 彦藩家督濟ミモハヤ話題ニ上ラズ 遣米軍艦帰国 英清紛争マタ清兵敗ルノ報好話柄ナリ
- 3 万延 元年 七 月 八 日 六月二四日松山へ召サレ五〇石ニテ儒官拜命 山田翁ニ対面 仏論益々盛 丈助君肥後遊学 英太郎同行ヲ勸 メタルトコロソノ希望ナレド江戸窺ノ要アリ 令姪君出発延期願ウ 江戸評漸ク収リ水戸家老召取りトカ
- 4 文久 二年 八 月 一 六 日 主人評判ノコト驚津詩モソレカ 新令一〇条役人黜陟四〇人許リ 大久保越中守拔擢 一橋公後見春岳公 総裁職小笠原公登庸 九条家諸太夫島田サラシ首 山田帰国延引ソノ他
- 5 元治 元年 一 一 月 二 六 日 着芸滞陣無事 輜重隊長閑暇史談ヲ講ズ コノ地形勢諸軍攻メ寄セ長モ覚醒 吉川堅物罪魁三老臣首指

出シ三田尻公卿モ指出シ征討猶予願 尾老公・稲葉閣老実験 大膳父子伏罪攻撃見合セ 山口新城破却ソノ他 激徒崛起取鎮メ長防叶ワザレバ九州五藩加勢ノ手筈 五卿ハ五藩ヘ一名宛預ケ 大膳父子罰片付ケ済メバ陣払イナラン

- 6 慶応 元年 九月二七日 同藩平野左門要路ニ立ツベキ家筋ヨロシク教諭願ウ 大坂ヘ夷船九艘来航 兵庫開港要求ナルベシ 將軍上京中夷船騒ギニテ征長モ延引 当節明日ノ事ハ測リガタシ 川田剛
- 7 慶応 元年 十一月一日 摂海ヘ夷船渡大混雜 阿部・松前二閣老引責退職 明山閣老ノ策ナラン 夷ト内約ノ罪ヲアゲ將軍辞職 東歸ノ表 朝ニハ却下 將軍二条城ニテ公武大会議 終ニ開国論ニ決定 弊藩ヘ御用召僕モ供ニテ上京大多忙
- 8 慶応 二年 一〇月 二日 時事吏事ニ追ワレ多忙 来月登坂予定 長賊倉敷乱妨ノ節 小生姪戦死 碑文起草御評正願イタシ 又舎兄 追ニ詩帖編集希望 征長一件バカバカシキ結果ニ終リ 徳川公自罪ノ書ヲ奉リ止戦ノ勅 大諸侯会議ノ趣好キ結果ヲ祈リタシ
- 9 慶応 二年 一二月 一八日 亡姪碑文雲崖君ニ揮毫依頼 京師只今都合ヨロシ 当上様禁庭ノ依頼益々重シ 過激公卿聖断ニヨリ黜罰ヲ見テモ知ルベシ 長防処置公論ニ任セ備芸兩藩周旋寛典ノ取扱イ 異国処置ハ上様独断万国ミニストル大坂城ヘ呼寄セ 公辺ノ急務ハ富強ノ二事 当夏仏国弘法使者九人朝鮮ニテ殺害 軍艦二三艘攻入りカンボウ都府陥落 コレハ対州ヨリノ届ナリ
- 10 慶応 三年 二月 二〇日 亡姪弔詩沢山ニオ募リ感謝 先帝大葬済ミ新帝踐祚 大樹公帰東主人陪從 下ノ関大膳父子英夷ト応接 長防討手解兵小倉口休兵長ハ世子ヲ質ニ要求 藩公肥後ヘ逃込ミヲ策シ長ハ小倉ニ郡占領 長奇兵隊士大坂潛入商家ヨリ五千両奪取 大洲藩士ニテ追捕
- 11 慶応 三年 三月 一四日 天下形勢解兵後平穩 長ノ受方掛念 新將軍夷人応接 衆夷英明ニ畏服ノモヨウ 解兵ニツキ会侯隱居願聞 濟ミナク其俟 永井主水正拔擢衆人驚嘆 神戸陣屋暴挙ノ風聞
- 12 慶応 三年 七月 二六日 御門生赤穂藩神吉君来談 弊藩ヘ来学ノ志望 役人ト談合 赤穂藩大夫森氏ヨリモ内談アリ 兩藩用人同志間ニテ処理 時勢略平穩 開港並ニ長ノ処置未決定 藩州滞京コノ藩ガムズカシ (以下欠)
- 13 明治 元年 一〇月 二日 難波生ヘノ托言感涙 当藩父子踪跡歎願朝廷聞濟ミ オ頼ミシタキコトアリ遊芸マデノウチ面話希望 御地ニチハ踪跡分リテ拙 九名ヘデモ書生体ニテ参上シタシ 遊芸ノ風評毀譽ノ論アリ
- 14 明治 四年 月 日 漢詩三首
- 15 明治 七年 一月 八日 年賀 安延生身上話ニ参リタレド一方僻在 川田ト相談周旋願イタシ 詩三首
- 16 明治 一七年 五月 一一日 (坂谷次雄宛) 案内状
- 17 年 一月 四日 客冬拙文ニ細密ノ評論感謝 此度一文供覽客冬同様刪正願ウ 漢魏叢書返却 日笠則吉 二月中ニハ退塾イズレ桜谷訪問斎藤翁ヘノ紹介状才願イタシタシ
- 18 年 三月 七日 先月下旬無事帰宅ノヨシ 僕モ帰宅早々家内出産大病ニテ物故 九州遊歴難儀ハセシモ奇多シ仏山堂詩ノ応酬 京師治乱ノ界 飛脚便ニヨレバ会津愉快ノ事申来リ結果掛念
- 19 年 三月 二四日 安延高次郎 旧門人ナレド俗家ヘ養子トナリ廢学 突如来訪養家離縁トナリ立志儒者希望 再入塾希望ナレド俗務多忙 一兩年貴塾ニテオ世話才試シ願イタシ
- 20 明治 年 八月 二日 服部文神戸ノ次男拙宅食客ニテ漢書勉学 医学ヲ志シ東校ヘハ及バズ 東京府病院学費廉ナレバ入塾 遊治郎多クテ退塾 佐々木東洋ヘ從学希望 同氏ヘ添書煩ラワシタシ
- 21 明治 年 八月 一五日 詩文添評依頼
- 22 年 九月 一六日 干支四方ニ起リ吏務繁劇寸暇ヲ得ズ 主人内命ニテ福山ヘ使者ヲ務メ七日市ヘ着 訪問ハ僕從アリ遠慮スベシ
- 23 明治 年 九月 二九日 身上ノコト厚情感謝 家塾一件願書ヲ出サズ来学希望五六輩アリ 一月編輯依頼受ケ当年出来見込ミ マズ三ヶ月ノ米代右等ノ内職周旋アリタシ 石川碑文感心
- 24 年 月 日 笠岡宿 小寺氏訪問神術ヲ聞ク 近来国学ヲ尊崇トイウ 本居・平田混雜ノ学 洛ニ家ノ説ト異ナラズ 畠山重正
- 25 明治 五年 二月 一〇日 小田原城建碑々文以来ヲ受ク裁庁長官ノ故ナリ、正統記ノコト老兄正院出仕大安心

- 1 明治七年四月日 真事誌二枚落手 明六社へ出張ノコト通知済ミ 五月一日築地精養軒へ才越シアレ 鶴田ノ件同氏ヨリ申出ア
レバ社中ノ知人ニ托スベシ 実先生ノ病心配アルマジ
- 2 明治一〇年月日 芳郎君費用六円儲ニオ預リ 墓参一条田中・村山ハ同行難シ其外ニテ済マスモ亦可ナリ 江木老人イツマデ
逗留ヤ 西南一条長引キ酸鼻ノ至リナリ
- 3 明治年一月二日 今日ノ久敬香会寒冒臥蓐中ニテ欠席 江木発言ノ廻章拝承異存ナシ 明六社・講談会合併ノ会 次ノ明六会ニ
テ発言アラン 坂田実
- 4 明治年四月八日 一昨日昇堂長談馳走拝謝
- 5 明治年五月二日 ビール樽ニテ取レバ少シハ廉ナレド内損アル由 ヤハリー一本ツツ取ルガヨロシト決シ卸並五両ノ代ニテニ
〇本ナリ 越後蜂起一旦鎮リタレド又盛り返セシヨシ 市川逸吉
- 6 明治年七月三十一日 洋酒二種拜呈 当春手製味噌ヲ頂戴 オ礼ヲ忘却妻ヨリオ詫ビヲ申シクレトノ旨 今日出校オ尋ネイタシタ
シ 関藤翁微志トカ
- 7 明治年一二月六日 先日令郎君来宅 意中拝承 右ニ付新規ノ事容易ニ見込立タズ 令郎君帰省ノ予定トカ 急ニハ埒明カズ思召
通リオ計リ願ウ
- 8 明治年一二月二三日 浅野家製紙所一見オ申越シ拝謝
- 9 明治年月日 上原公平碑文感服 返却
- 10 明治年月日 真事誌落手 草稿中万国公法ノ四字オ改メ願イタシ コノ四字意味ハトモカク公法ノ書名ニテ 誤リヲ伝工世上
意味ヲ取違エルニ至リオレバナリ
- 11 明治年月日 訳書拝借返却 誰モ唱エル説ナレド尋常ニチハナク学者ノ見 教法入り込ミ到底ノ議論ニ定メ難シ 酒ハ毒トモ
薬トモナリ 酒ノ一事ヲ以テ行状ヲ論ジガタキ理ナリ

• 六〇、宮原寿三郎号、木石 幕府儒官

- 1 安政四年一〇月五日 (千葉圭介名) 小生西洋学家ニ寄寓 石川ノ許ニテプロインセン発見大地図ヲ見 英吉跋扈ノ状ヲ視洋
学発憤志望 外套猫獺愈登城明旦豆州出立ノヨシ 甲州路通行 阿部勢州逝去後ノ幕閣 都下調練流行 カワラケ割り旗本大草某人
気俳優ニ類ス 石川病氣
- 2 安政五年一〇月三日 (千葉圭介名) 蟹行日課ニテ繁忙 三島貞一郎昌平入寮 近来昌平妬臭甚シ 岡本太仲村田塾へ来訪 玉池
辺漢医家へ寄宿ノトコロ退塾 浅田宗伯へ入塾ノヨシ 京師梅田外四人捕ワレノヨシ
- 3 安政六年三月三〇日 (千葉圭介) 旗本阿倍新太郎ノ許ニテ横文翻訳 三島兄昌平留学終了前一度訪問 昌平客冬鬪争一九人
退寮 陽明先生在宅願ノヨシ 当時譜代有名ナルハ防州公ト水野大監物 防州公退役ハ諸人失望両三年洋夸出沒京師外情ニ通ゼズ
貧公卿隙ニ乗シ儒生妄言 外夷紛擾日月増加幕威振ルワズ内憂先ニ起ラン 五洲交易五月ヨリ開始 彼ノ希望ハ神奈川海道ニ造館
我ノ説ハ海岸へ設置
- 4 安政六年八月七日 (千葉圭介名) 先月横浜交易場ニテ一士人抜刀魯西人三人殺害金子強奪 一人ハ船將次席魯人ニテ幸イ
英人ナレバ厄介ト奉行用人輩ノ談 軍艦八隻日々上陸江戸市中往来 市中少年瓦礫ヲ投ゲ官府へ抗議 ソレヨリ取扱嚴重木戸閉鎖
夷人ハ日々遊行 横浜盗不明伝馬町ヨリ代人差出シタカ 魯英墨蘭交易税則取り極メ 市中入手ノモノハ虚構実物政府秘蔵 仏
条約ノゴトキ我レヲ輕侮ノ至リトイウ
- 5 安政六年一二月二七日 両度ノ愚札前後撞着英華へモ六七年留学セバ自信ヲ得トノ御説拝承 愚札ノ時勢議論ハ持説ソノ説ナ
レバ欧米印度遊然ルベキナレド甚実行困難 昨冬亜行議論紛然 村田蔵六へ依頼同人周旋シクレシモ不出来 此行外国弄以下幕府
家人 陪従ハソノ僕大藩手ヲ廻セリ 自分考エニテハ從行叶ウトモ留学ハ出来マジ 幕府人ナラズバ志業遂ゲ難シ ヨッテ幕府即
官株買求メノツモリ 西土・本邦学問ノ相違
- 6 万延元年三月日 上巳朝大老水戸浪人ニヨリ殺害ノ大略 君侯殺サレテハ武家ノ定法家断絶 今以テ病中ノ姿右騒動ノ根源彦

侯ノ首種々ノ風説 大変以来市中ノ行情

- 7 万延 元年 九月二八日 (三鹿・朗廬宛) 先月洋学館助教拜命 新規取立テ従来ノ身分ニテ出役 勤向キ内容将来ニ備エ一勉強ノツモリ 満清大敗武器一切英仏へ渡シ 軍費弁償和睦ノ由 親王僧格林沁等ノ上書一覽感銘 今日派米使節品川沖帰着 知人アリ 新聞アラン 英著蘭訳ノ理財学訳成レバ供覽
- 8 文久 元年 一月一五日 御地福知山騒動波及カ 物価騰貴都都疲弊米価百文ニ四合七八分 客冬ヒウスケンノ一条承知アラン 高輪辺警戒嚴重 小生昨冬洋学館助教 翻訳御用ニ従事 古賀夫子昇進千石高御留守居番次席 勤メ方ハ元ノ通り調所頭取 去冬面会 時間答 小生婚儀 洋学局日課ハ英書経済学翻訳
- 9 文久 元年 三月二二日 近来専ラ蟹行作文稽古洋学館ノ課程ナリ 石川ハ公務ナク教導勤メ 小田・五十川ノコト (追啓) 石川ト牡丹見物一酌 御書披覽小田応介屠腹ノ御説奇ナリ 近ク英仏使節決定ノ模様 支配筋へ従行願イゼヒ実現ノツモリ (二七日付)
- 10 文久 元年 四月二九日 仏英諸国へ御使節正副使竹内・桑山外 内御徒目付自分モ從遊 人名未ダ決マラズ志願ノ学士多数 米行トハ事情変リ僕隷削減 ロシア開拓朝鮮ノ北関門口ニ及ビ東北カラフト迄数千里日本海ハ奴ノ外堀遠カラズ朝鮮モ属国トナラン 新渡中外新報翻刻出来次第差上グベシ
- 11 文久 元年 六月一三日 暑中見舞 粗品三種 錦画ハ流行ノ洋製 自分外国行支度ニテ紛冗
- 12 文久 元年 六月二七日 白鹿洞書院掲示云々ノ高諭並ニ外国修業生ノ御説敬服 修業生ノコト緊急ノ用務ナレド取りアゲラレズ奇策アレバ承リタシ 小生西洋行ノ御送言ゼヒオ願イシタイ 東禅寺争乱ハ水府余党 夷人宿寺見廻リノ掛リ命ゼラレ月五六度巡回 ソノ手当月三円三方 夷人ノ生活閑暇ナク空手タルコトナシ見習ウベシ
- 13 文久 二年 一月二六日 年賀 昨夏欧使従行ノ命アリ大得意 一行垂行同様七六人予定ノトコロ英公使苦情減員申入レ 三三人ニ減ラサレ除外落胆 無人島探査辞退コレニ付建言 開港以来異人渡来異国事情ニ通ズルハ緊要 外国探索数ヶ月ノ経歴ニチハ実効ナシ 自分拜命セバ香港・広東辺ノ英華書院ニ留学シ外国事情ノ研究調査ヲ申出 事務多忙ヲ以テ却下突然横浜開港場取締御用拜命 仏人ジュラルー耶蘇教布教 自分单身乗込ミ手配召捕コノ件紛糾
- 14 文久 二年 八月 七日 御塾子心得書並ニ村鑑拜受感佩 当時板防州公・越老公・会津侯事務取扱 一橋公モ日々登城退出八点 灯前後 京使東下薩藩従行 山田翁東下後不快ヲ唱へ出デズ 英米公使交代 長髪賊ノコト 横港在勤中板倉公対話 居留地見分子細
- 15 文久 二年閏八月 六日 時勢追々切迫 明輔相アレド挽回ノ好手段ナク浩嘆 去月薩州侯後見島津三郎神奈川近辺ニテ異人傷殺 ソノ外京師尻押シ外患内憂 魯軍艦入津 箱館在留岡士ゴサケウイッチ国書呈出 外国奉行・監察ニ同行軍艦乗込ミ談判 六七十間ノ大艦内機械瞠目 岡士父子箱館滞在四年 和語ニ通ジ訳官不用 当方魯文ヲ読ム者サエナシ
- 16 文久 三年 四月 五日 西遊ヨリ無事帰館ナラン 昨年来諸藩騒立チ人心洶々何方モ同ジカ 大樹公西上後ハ少間ヲ得ルカト思イノ外英艦渡来多忙 遠カラズ大事勃発カ ソノ節ハ砲火ノ下ニ斃ルルノミ 石川・方谷・安井・塩谷ソノ他近親者消息
- 17 [文久 三年 四月 日] 西国諸藩浪士蜂起輦下横行 薩長土外大諸侯内勅ニヨリ京師在留等承知ナラン 政事向旧套一洗 御上洛鹵簿簡略和宮御東下程ノ混雜ナシ 水府会津在京三藩モ挫折ノ態 薩三郎ハ中川宮へ取入り権謀ヲ極メオリ 大樹公還府延期滞京 幕府ハ西へ移シ室町同様輩下占居ノ外アルマジ 生麦英人殺傷ヨリ英軍艦十余隻来舶 回答日限ノ掛合 諸侯防備担当割 新軍制 (付) 漢詩二首
- 18 文久 三年 六月 三日 天津寄来訪近況伝承 国内騒擾心痛ノ趣 攘夷ノコト二百年來ノ蘭館モ焼打チスベキカノ論感服 方今ノ攘夷毛利ノ垂仏軍艦へ発砲ノ類 神国マサカノ時ノ神頼ミ 大樹公永々滞京モ詮ナシ
- 19 文久 三年一〇月 四日 中山侍従出奔党与数十人大和五条暴動 天ノ川辻要害ニ循篋リ紀藩等諸家討手 十津川郷へ逃ゲ込ミ紀州出向 右侍従党類当地長邸へ潜入 紀薩藤堂へ捕方仰付 島津三郎当地通行 三郎穩便ノ策使者往来 長留守居根来談判ノ趣 垂・蘭呼出シ金港鎖港申入レ 夫々本国回答待チトカ 崎・函兩港ハコレ迄通り 鎖港紛争一大時變 退隱ノコト
- 20 文久 三年一二月一二日 去月歸府予定ノトコロ軍艦ニテ上洛ニ付此地宿割リノ御用ニ付延期 御用過半片付キタレド滞坂越

年多分御供ニテ帰府トナラン 江戸本城並二当地大火 一歳中兩度ノ上洛上下疲弊末路如何

- 21 文久 三年一二月一三日 昨日河吉エ立寄り藤島二面会貴状受取り 佩川画恵贈感謝 鶴田二八面会出来ズ 少貞帰郷早々胆ヲ潰シタラン 雲松弟大純宮一家ト同居ノトコロ風波起リ北越ニ移リタル由 御仕一条ノ秘談御説ノ通り芸侯賢明何ヨリノコト 自分滞坂前途不明尤モ大君滞京僅カノ趣ナリ 京坂状況 諸藩動向 鎖港使節
- 22 文久 三年 月 日 石川訪問閑談中客アリ江木繁太郎トナリ 関左ニ警アリ匆忙到着 御西遊ノ談ヲ聞ク 右道路艱苦拝察 崎陽ニテ小永井五八郎ニオ逢イノ由
- 23 〔元治 元年 正月一九日〕 (前文欠) 客冬二四日武庫行命セラレ同所越年 大君着船ノ翌日帰坂 明後御用済上都ノ積リ 琉球通宝一建白セシモ用不用ハ奈何 島津三郎四品トカ 典廩公ノ処置ハ関東未発ノ前決議トカ (付) 漢詩一首
- 24 元治 元年 二月二日 無事帰府 今般御用無事相済ミ 純然タル俗吏トナリ乞憫笑 去冬来浪土横行放火 一八家見廻リ鎮静 長毛一条如何ノ処置ナリヤ小生輩ニハ不明 越老公・会公軍事総裁トカ 安井仲平 県令職拜命 追々尊公ヘモ波及セン 当節板防公 執権倒瀾挽回覚束ナシ 五十川遯退昌平下番拜命ノヨシ 仏船渡来長毛報讎ノ説紛紜 物価騰貴御家人大閉口 重野安輝
- 25 慶応 二年 七月三〇日 橋府御用上京トカ 兼ネテオ話ノ御用力 防長一件上下困弊 送金ノコト 子供ノコト
- 26 慶応 二年 八月一〇日 橋公相続出陣防長一件速ニ片付カン 冗官淘汰頗ル徹底 ソノ子細無役スベテ陸軍奉行配下ニ編入 遊惰骨髓二人リタル時節コノ激劑ナラデハ覚惶アルマジク流弊一洗期待 ソノ他
- 27 慶応 二年 九月二八日 北国筋港見分御用七月発 今九日帰府ノトコロ二〇日二兵庫奉行支配調役拜命 中村氏入英日本服ヲ持タズ云々捧腹 同人仏国ニテ病死トカ真偽不明 謹堂先生朝鮮行ノコト平山君帰府ナラデハ判明セズ
- 28 慶応 二年一二月二八日 葬送御用芝山内ニ詰切り去月結局 上洛御供拜命陪從監察因循ニテ遅滞 今二八日発足滞京半年ノ予定 尽之助勉学ノコト
- 29 慶応 二年一二月一八日 上洛ニテ小生上京 滞京六ヶ月予定ナレド一〇ヶ月位ニナラン 尽之助内論ニ反シ情弱召連レ帰府ノツモリ 新大樹公英仏等四国公使坂地ニ呼寄せ拜謁 小生モ下坂大坂後藤迄罷上ルヨウオ伝工願ウ
- 30 〔慶応 二年一二月二日〕 近親者消息雜事 自分葬送法事御用ニテ芝山内ニ詰切り 帰宅後上京新大樹公英仏亞蘭公使謁見ノタメ下坂予定ノトコロ 今上痘瘡ノ上下痢ヲ發シ今日モ参内 長人勢イ熾小倉敗績 肥筑周旋ニテ講和ノトコロ質ニ小倉世子ヲ要求又々再発 当地米価百姓蜂起ノ姿
- 31 慶応 三年 二月 六日 大樹公下坂仏公使面謁ニツキ自分昨日帰坂 尽之助・虎之助ノコト 去月監察梅沢孫太郎依頼ニヨリ播作一揆ノ様子問合セ 現今時情申上ゲタリ 仏公使面謁事情不明 閣老在坂談判アリシト思ウ
- 32 慶応 三年 三月二九日 御書梅監察へ差出シ 仏国陪從渋沢篤太夫送序ノコト 尊著田舎風聞梅君奇策ナリト局中回覧ノヨシ 有司読去リニ終ラン 各国上坂開鎖紛々モ結着アルカ 自分当分京坂残留ノ模様 小笠原閣老一行対州御用 古賀先生面会 原市之進ノ人物
- 33 慶応 三年 五月一日 先月九日京師発歸東 類焼後ノ仮建物手狭ノ生活 馬越■蔵・藤井森太郎・豊之助医学修業ノ計画 英仏人直伝ハ経費莫大断念 開成所入所サセルツモリ 古賀先生朝鮮ノ台命ニテ筑後守ニ任官 陪從ノコト
- 34 慶応 三年一〇月二六日 山本少貞ノコト 馬越生借金申出ノコト 兵庫表条約通り開港ノ手筈ニテ同処役々御用取扱ノ心得ノトコロ 上国動揺ヨリ前途不明 豊之助ノコト
- 35 慶応 三年一〇月二八日 上言練兵ノ際唱ヘナバ妙ナラン 陸軍奉行ノ筋ヘ指出スベシ 古賀先生二面会 貴文ノコトヲ話シ浄写 差出スツモリノトコロ転役 先生モ上京果サズ 北行佐州海岸見分 北国開港ハ新潟ニ治定 安藤主一 少貞ノコト 藤沢志州
- 36 慶応 三年一二月 三日 去月一三日神戸着 開港四五日ニ迫リ事務紛冗 土藩兵士千人上陸 ソノ後長藩蒸気船芸船着打手浜上陸 イズレモ上方筋ヘ行ケリ コノ俚平穩ニハ収マルマジク九月仰出ノ趣意決議ニ到ルベキカ
- 37 慶応 三年一二月一〇日 開港式七日終了 異人多数渡来収税館務繁忙 九月中御所ヨリ召命ノ諸侯左ノ通り (略) 藤堂侯建言 百事幕府委任ノ趣意 薩土芸重役建言モ一覽 閣老ヲ徳川家老ノ語 王政復古ノ主張九月中閣白ヘ指出シノ由

- 38 慶応三年 月 日 石川在陣中ヨリ一文通 征長一件片付キタル由 彼方承知シタルヤ知ラズ 官庫空虚征長諸費九百万両トカ
- 39 明治元年 一月二三日 (前文欠) 小生ノ吏務万人囑目ノ地ナレド永続ノ心算ナク顛覆 読書生ニ復スルノ覚悟 石川ハ早く閑散ノ地ニ赴クベク教諭アレド 抜擢ヲ受ケシ身聊カノ効驗ヲ示サズテハ相済マズ 尊兄並ニ小田君厚志ノ返謝歸府返壁ノツモリ
 - 40 明治元年 三月一六日 御地紛乱ノ様子尊館如何 官軍先鋒品川・板橋ヘ詰掛ケ 家君一意恭順東台寺院ニ閉蟄 駿府有栖川宮ヘ百万方歎願中 例弊使海道八木宿ニテ官軍ト会戦敗北 新選組近藤勇甲府出張薩長兵ト出会イコレ又敗北 勇コト行方不明 徳川有司争抗ノ意ナク品川台場大砲八百挺モ渡シタルヨシ 小生兵庫ヨリ歸府御儒者拜命 其ノ任ニ非ザルモ生前ノ榮有難シ (付) 漢詩二首 一枚
 - 41 明治元年 三月三〇日 時勢変態王命尊奉ノ説諭拜承 寡君一意恭順愁訴ノ外ナシ 小生本月二日御儒者拜命 外人ノ背笑モアルベキカナレド感銘笑察願ウ 都下静誰官軍討入日光門主ノ哀訴ニヨルカオ見合セ 大総督府ヨリ京師ヘ伺イノ趣伝承 山成哲蔵 天野五郎 藤井森太郎
 - 42 明治元年 六月 六日 近々駿府移住ノ運ビ 三万余ノ家臣扶助ノ法ナク新進ノ小生輩オ暇アラン 徳川役所総督府ヘ引渡シ 当分勤続ノ内諭 茗校・開成所ハ沙汰ナシ 扈從叶ワザレバ都下流寓ノツモリナレド 状勢不明 追記幕府申渡シ
 - 43 明治元年 八月二二日 芸侯ヨリ聘礼ニテ出張敬賀 自分帰国一条変更駿府ヘ陪從 旧家門闕過半新進ノ自分叶ワズ思イシ処扈從ニ加ワリ俄ニ出立明後登發ノ予定 家作売手ノミ昨秋二五〇金ノ品二〇金ニ至ラズ持越シニセリ 東台戦函根戦奥羽戦伝聞
 - 44 明治二年 七月二四日 尊兄芸公ヨリ厚礼招待去冬オ引越シノ趣 学政向ノコトニテ御上京トカ 興讓館八丈介様備中ヨリ歸館 好都合ナラン 寡君宝台院ニ謹慎 尊兄朝命ハ辞退ノ趣 中村敬輔モ固辞 昌平ハ水本竜太郎・芳野立蔵盛行ノ由 関藤政太郎 自家近況
 - 45 明治三年 七月一八日 財用皇学称呼ノ議論敬服 献言太政官諸局ヘ廻リタル趣 当藩陸軍医学規則・全藩官員簿呈上陸軍ハ沼津兵学校ノ規則 文学ノ規則設定予定 中村敬太郎 望月万一郎 修業料金見込ミ一橋領倉敷県工引渡シ 古賀翁朝廷ヨリオ召シテ 固辞 長州動揺モ平定 淡州須本襲撃ノ噂真偽如何 横浜運上所英人管轄トナル
 - 46 明治年 六月 四日 転居拜承 拜趨ノ節ハ懇情ヲ蒙リ東台ノ洋味ヲ喫シアリガタシ 今一度ノ参堂同行アリ遠慮 途中箱根浴遊シ 歸県セリ
 - 47 明治年 一二月 五日 墓誌ノコト
 - 48 年 七月二九日 長崎御用拜命 軍艦翔鶴丸ニテ品川出船天保山沖着昨日上陸 明後日出発備後尾道ヨリ乗船西下ノ予定 来月七日市止宿ノツモリ 飲談ヲ楽シミオリ 在館ヲ願ウ
 - 49 年 八月一一日 五十川兄消息 小生不次抜擢ニ会イ繁劇 見得ハ良ケレド案屋ハ差シタルコトナシ 未ダ閣老参政ニ接スルノ場 非ズ 愚衷ヲ述ブル由ナシ 一榮転力然ラザレバ閑散ノ地ヲ希望
 - 50 年 九月二七日 大坂御用ニテ江都発 一日着坂 庄蔵・松屋未亡人ノコト 耐軒詩集小田ヘ伝達依頼 伊藤鉄二郎
 - 51 年 一一月 七日 尊兄一条賀スベキナレド今頃出ルヨウナ正ナル人ニハ非ズト愚言石川曰ク百石位ナレド如何等ト相話シタリ 去月兵庫辺砲台等諸家警衛巡察 更ニ泉州沿海廻リ堺浦ニテ頼連堂ニ面会 連堂トノ応酬 連堂頼復二郎ノ從兄 連堂ト芸藩ソノ他
 - 52 年 月 日 旅宿先通知
- 六一、門田堯佐号、僕齋 福山藩儒
 - 1 文久二年閏八月二五日 門人衆麻疹ニテオ困リノ由 私方ニ六人程臥シオリ 拙作評感謝 福山製保命酒一陶進上 燕石ノ詩
 - 2 年 二月一一日 丸亀ヨリノ新詩拜受 次韵呈覽 コレニテ宜シケレバ先方ヘオ届ケ願ウ 高作拜見婚礼ノ作感服 元日ノ別詩奉呈 早春ヨリ梅五郎罷出ズ宜シク示教願ウ
 - 3 年 六月一〇日 西遊ノ尊稿並ニ送別ノ拙作二次的ノ錦箋ヲモ拜見仰付ケラレ拜謝 尊稿妄評併セテ返上ノ予定ナレド暑氣ニテ卒業セズ 錦箋ノミ返上 高作ノ分ハ新原愚意傍注スベシ

- 4年一二月一四日 先日ハ光臨久シブリノ拝顔大慶早速批評ヲ送リクダサレ感謝
- 六二、村上剛 号、仏山 豊前ノ人
 - 1 明治二年七月一〇日 序文寄稿感謝 ナオ又高評依頼 近来禄仕ノ由メダシ 又時ニ詩文会開催名流雲集風流羨望
- 六三、村上碩次郎
 - 1 明治一二年一〇月二一日 愚父危篤ノタメ両公題字早速承領深謝 愚父長逝題字ノ件ハ遺言アリ高配願ウ
 - 2 明治一三年一月一一日 愚父石碑生前草船翁ニ銘文依頼出来 謄写電覽ニ供スベシ 蒲生先生愚翁ヲ偉人伝ニ加エクダサル由 行状等認メ拜呈
- 六四、那珂栞楼 名、通高 前名、江■五郎
 - 1 年一月二日 自分節齋先生ヨリ破門ノコト稠人中明言スベキモ老母ノ耳ニ入ルヲ恐レ箱口申訳ナシ 目下師友ナシ嘆息野稿修 正願エレバ幸イ
- 六五、中村包吉
 - 1 明治年三月二八日 近況報告
- 六六、中村正直 号、敬宇
 - 1 明治一〇年一月二一日 草稿下問ニ從イ妄批ヲ加工返上
 - 2 明治年月日 コノ一篇改正願ウ御覽後拙宅ヘオ戻シクダサレタシ
- 六七、中村祐真
 - 1 年一月一九日 (井上右仲宛) 倅我僣ニ育テ不調法者ヨロシク
- 六八、中村隼之介
 - 1 年八月九日 (柴原順二宛) 時勢変革貴藩ハ応援ノ命アリ心配ナラン 館中藩学生大半退塾残ルハ頑童ノミ 竹吉在塾モ無益 帰国然ルベク相談願イタシ
- 六九、南摩綱紀 号、羽峰 東京大学教授
 - 1 明治年一一月八日 尾張人佐藤上梓ニ先生ノ高評ヲ願イタシト 繁忙中恐縮ナガラ老人ノ願イー評アリタシ
- 七〇、成田元美 号、秋佩 岡山藩士
 - 1 明治年一〇月一九日 久シブリ五三程ヲ歴覽 賢息病氣如何
- 七一、西本清介 広島藩士 広島県大参事
 - 1 明治五年三月一八日 佐藤真五郎出船東行 此地景況同人ヨリ聴取アレ 旧職御家族当地引払ノ節県庁ヨリ贈物セシトコロオ 受ケナク佐藤ヘ托セリ
- 七二、西村周平
 - 1 明治年七月二二日 音問
- 七三、丹羽正濟
 - 1 明治一〇年八月二一日 過日ハ植松二面会戦地ノ景況未曾有ノ苦戦 最早鎮定ノ雲行 田辺中佐面晴 東行ヲ問ワレ従来ノ志願 ヲ述ベ多分志ヲ得ベシ
 - 2 明治一三年四月二二日 先般警部拜命出仕 右出仕不満出京イタシタク先便才願イシタル次第 ソノ後ノ都合イカナルヤ高配願

- 七四、小幡篤次郎

- 1 明治一三年一月二日 別紙質問状遠方ノ社員ヨリ申シ越セリ 高案オ示シ願イタシ (付) 孔聖絵像ニ関シ質問 一通
- 2 明治一三年二月 九日 聖像ノコトニツキ詳報クダサレ感謝

- 七五、荻田嘯号、雲崖

- 1 文久 二年 三月二三日 超順江州ヨリ帰ル 京都観光帰坂 山雀兩人関ヲ抜ケル策超順周旋ニテ寺小姓ニ変ジ東下 京師穩ヤカ將軍上洛催促作老侯命ゼラレ勅状写拜見 ソノ他
- 2 慶応 元年 三月二九日 帰心急ナレド身事多忙四月一〇日頃発程ノツモリ 椎原六郎来リ新聞 將軍上洛見合セ 祇園町出火 長州父子江都召シ大小監察塚原・御手洗承リ上京 竜野・大洲・宇和島周旋下命 尾老公近日東下 薩州京都へ兵器持込ミ 土州八山崎ニ陣営騒然
- 3 明治 二年 月 日 倉敷県ヨリ直蔵・伯平呼出シ御改正ニヨリ庄屋役仰付ケ 議事掛リ勤務拜命 従来ノヤリ手庄屋一切退役旧習一洗 興讓館ハ後任ヲ置キ阪田先生ハ県ノ学校へ転任 関根ノ画策愚人処置ナシ 大谷少属生ヘノ伝語ニテ知事公へ引合セタシト閉口ノ至リ
- 4 明治 四年一二月一〇日 当冬西帰ト思イオリシトコロ五ヶ年御地開業トカ 荷物運送ノコト了承 本月初メヨリ郵便崎陽マデ開ケ後來ノ御状ハ備中アテ仕立テラレタシ 令息ノ為メ滞輿敬服
- 5 明治 五年 一月一〇日 今一〇日発駕六〇石積二艘借り切り神戸ニテ亜船ニ乗込ミ廿日頃着京ナラン 都下開塾一決尤モノ次第江戸名所図絵及錦絵・烟管恵投感謝
- 6 年 三月 八日 (荻田長三・窪田堅蔵・山鳴真平連名) 海上荒天難航安治川着 緒方板下取掛ラズ艸稿待チトノコト 浪華寮ノコト 浪速ノ近状
- 7 明治 年 五月二三日 無事滞京ナラン 先月末芸州へ書状別状ナク御留主居ナルベシ 東京ノ命モ才分リノ様子伊藤面話ニテ根拠分明ナラン 御序謹写ノコト 板下ノコト
- 8 明治 年 六月一五日 (阪谷若先生宛) 老先生壯健ニテ滞京慶賀 京地ニテ両三名拜眉 六月中西帰ハ難シキ模様 旧布衣貫徹ハ難シカラシ 原謙ノコト

- 七六、大原重実

- 1 明治 年一二月一六日 同族ヘノ説諭書館長岩公へ呈出 御用繁中点竄ヲ願イ感謝

- 七七、大原重朝

- 1 明治 五年 五月 二日 拜命ノ歎マデニ酒肴呈上
- 2 [明治 五年 四月 日] 昨日ハ不在失礼 陸軍ヨリオ召シ出シノ由 編輯トアレバ軍役ニ非ズ 生計ノ為メナレバ何官ニテモオ請ケアルベシ 小子ヘノ配慮ハ無用ナリ
- 3 明治 七年 七月二八日 台湾一件杞憂ノヨシ 勝ニ乗ジ戦ワント欲スルハ大事 相談アリオ立寄り願ウ
- 4 明治一二年 五月 八日 重徳五十日祭案内
- 5 明治一三年 三月二一日 祖父一周年祭執行案内
- 6 明治 年 二月 一日 シイラ進上平信
- 7 明治 年 三月 四日 明朝ノ花見ニ同行致シタシ
- 8 明治 年 三月 五日 本日ハ来駕感謝明朝ノ約束謝絶
- 9 明治 年 三月 六日 風気如何 過日ノ兵部省一件成否伺イタシ
- 10 明治 年 三月 七日 歌一首 謝辞

- 11 明治 年 三月二四日 琴詩酒樓ニテ歌会アリ 先生歌会ヘハ如何ナレドオ誘イイタシタシ
 - 12 明治 年 三月二七日 一昨日浅野長勲ヨリ参集ノ回章アリ 趣意承知ナレバオ聞セ願ウ
 - 13 明治 年 四月一〇日 小宴招待状
 - 14 明治 年 四月一三日 病氣見舞
 - 15 明治 年 五月二一日 来訪謝状
 - 16 明治 年 七月二五日 (大原重徳・重朝連名) 暑中見舞
 - 17 明治 年 八月三〇日 吉野氏作文共表装致シタシ ツイデニオ認メ願ウ
 - 18 明治 年 九月 一日 近況如何音聞
 - 19 明治 年 九月 九日 鉄道開業へ臨幸雨天延引ノオ触レ中当日参賀トアリ 小子所勞不参 御尋ハ其元身分ノコトカ口上デハ間違イモアルベク口上書ニテ申入ル
 - 20 明治 年 月 日 菊見誘イ
 - 21 明治 年 月 日 礼状
- 七八、尾池亨平名、世暗号、松湾 丸亀ノ人
 - 1 万延 元年 九月 三日 愚息千介尊塾游学希望渡海サセタリ 彦助医家へ養子ノコト 燕石著書評正遅延ノコト申入レオケリ 自分七月ヨリ食ツカエ鬱悶衰老摂養専一ヲ考ウ
 - 2 万延 元年 九月 七日 千介尊塾へ差出シ発足 寄寓ヨロシク願ウ
 - 3 万延 元年 九月二八日 千介尊塾寄寓許可感偏 千介雜費ノコト 彦助へ懇切ノ御儀感謝 貴郷綿作ヨロシカラズト当方も同ジク心配 燕石著書高評落手転致セリ 松岡ヨリノ返事拝聴ナラデハ尽シ難シト 自分臥蓐行ケズ委曲不明
 - 4 万延 元年一〇月二三日 千介病状委細拝承 雜費増額遠慮ナク仰聞ケクレタシ 彦助養家ニテ医術出精ノコト承知 私脚瘡全癒 北京英夷ニヨリ陥落長毛賊蘇州ヲ陥レ長崎へ避難者多キ由 凶年物価騰貴三備小盗多シト恐ルベシ
 - 5 万延 元年一二月 八日 書通延引ノ次第 愚息病状イカナランヨロシク依頼イタス 歳晩粗品呈上
 - 6 文久 元年 一月一九日 年賀 千介へ伝達奉謝
 - 7 文久 元年 四月一八日 オ説ノ如ク燕石詩思湧クガ如ク奇才 尊恙全快慶祝 千介病状拝承 門田君量韵ノ高作拝見感服 家事社友ニ托ス旧知高口生ナリ 千介処置一兩年御教導願ウ 同人儒業ニムカズ学医トスベキカ
 - 8 文久 元年 七月二四日 愚息千介病氣療養ノトコロ快癒 歸塾希望ヨロシクオ許シ願ウ
 - 9 文久 二年 三月二〇日 彦助歸省ニオ托シノ貴簡拝読 先月末西海ヨリ帰宅ノヨシ 詩稿拝見渴望 千介荷物引取粗品献呈ノ謝辞 恐縮 旭荘去冬上坂ノヨシ燕石申来ル
 - 10 年 一月一五日 一封燕石ヨリ来ル転致ス
 - 11 年 四月二九日 彦助歸省オ托シノ貴書拝見 答書認メ同人待チタレド来ラズ 飛脚便ニテ差出シ延引高恕願ウ
 - 12 年 五月一二日 先日ハ御枉顧始メテ拝晴ヲ得大幸 福山ヘオ出デ門田宅ニテ江木兄ト閑話 燕石ト僕ノ噂サアリタリト 読史高作主人ヘオ示シヨシ 今便垂示吟誦
 - 13 年 六月二七日 答書飛脚取落シ 再度差上グ奉答マデ
 - 14 年一〇月一三日 拙稿評正拝謝 燕石及高口ヘノ二封転致 彦助本日来リ貴郷へ渡海ノヨシ 思召シ申聞ケ同人 父ヲ喪イ諸事不調ナルベク心配
 - 15 年一〇月二三日 拙文痛正願ウ
 - 16 年一一月二七日 雲崖子過訪ノ節款話出来ズヨロシク伝言願ウ 賤集刊行ノコト 先便供覧ノ拙詩文痛正願ウ 門田次子梅五郎ノコト 桐陽詩鈔
 - 17 年 月 日 追啓 家事ヲ社友ニ托セシハ衰老ノ為メナラズ後ノ都合ニヨルナリ 松岡生ヘハソノ意ヲ略セリ オ含ミ願ウ

- 七九、大村斐夫号、桐陽 津山藩儒
 - 1 安政 五年一〇月一日 近来吏務奔走ノミ報然 精溪翁流行ノ悪病ニテ死去 悪病江都ヨリ東海道・播磨芸備九州迄蔓延 大君 薨去夷船シキリニ闖入 御三家内紛等内外憂患天運懸念
 - 2 万延 元年 一月二七日 植原六郎貴地出遊ニ托ス 昨年来藤森外儒家数名厳譴ヲ蒙リ畏ルベシ 夷奴猖獗天下ノ形勢衰退切齒 一 昨年冬以来当藩学校取立テ 吏務多忙筆研手ニ付カズ憐察願ウ
 - 3 明治一四年 月 日 挽歌二篇
 - 4 明治 年 三月二三日 詩文清書受取諸作活字板エスルツモリ 別紙馬場不知也ノ詩作評正願ウ 自分出立前ニ願エレバ持歸リタシ 後ナレバ秋坪ヘオ廻シアリタシ
 - 5 明治 年 四月一二日 新住所通知
- 八〇、遠田澄庵
 - 1 年 月 日 門人容体脚氣症治療引請ケ
- 八一、小野湖山名、長愿一
 - 1 明治一一年 七月 二日 留守中ゴ光来失礼 オ尋ネノ篆刻家紹介
 - 2 年一〇月 四日 自分幼時ノ師ノ碑文 ヤムヲ得ズ認メ痛政願ウ
- 八二、大津寄弊号、花堂 井原ノ人
 - 1 年一一月二五日 此ノ間参館克堂来状披見得心 早速吹聴シタリ イズレ拜暗ノ機ヲ期待
- 八三、坂田丈平号、警軒 朗廬姪
 - 1 明治二八年 八月二〇日 (阪谷御叔母・次雄宛) 芳郎君昨日九名ヨリ帰ル 次雄殿大患快方ノ報安心 先考文評重野氏奇説ノヨシ 全快ノ上ハ加評尽力アリタシ
 - 2 明治一六年 八月二六日 (阪谷次雄宛) 預ケ金出入ノコト 芳郎君出立
 - 3 明治 年 八月二七日 達三郎君昨年ノ病氣再発トカ心配 次雄君九名行済ミ近ク帰京ノ手筈
- 八四、坂田実
 - 1 明治一六年一二月 九日 (阪谷次雄宛) 近況消息 昨今米価下落人心不穩 物価下落中牛馬下落甚シ 中村嘉作 猪木雄一郎
- 八五、阪谷朗廬
 - 1 安政 六年一〇月 三日 (秀野宛) 島某来訪伝言拝承 節齋一条如何 石川江戸着江木帰ラズ 卓介安井塾入塾 大獄モ略決シタル 由 子春ノ名聞カズ事務奇絶ノ風聞 渡部圭助
 - 2 元治 元年 三月二二日 (柴原宛) 竹吉切戒帰省許セリ 長ノコト憂ウベシ 尾老公江戸ニ留守番 英ハ兵端ト決シ魯仏諸国聴カズトカ 戦ニ決シテモ五ヶ国ヲ敵ニ愚ナリ
 - 3 元治 元年 三月二二日 (秀野宛) 塾生藤島堅蔵後藤養子ノ話再燃ニテ出立路次拜眉願エリ 教諭ヲ願ウ 雲松書ノコト 森田ノコト
 - 4 元治 元年 八月一六日 (柴原順二・森下拾之介宛) 芸気カヲ発シ先勝ノ風聞 塾内諸生動静
 - 5 文久 二年 一月二四日 (秀野宛) 雲崖宛燕石状オ届ケ 後藤一条拝承 真之介江戸着江木ヨリオ礼申上ゲタラン 宮原西洋行人 減ラシニテ取止メ横浜掛リノ由 如蘭集写本作製ノコト
 - 6 文久 二年 七月二三日 (柴原宛前文欠) 邪説横行王室幕府共申上ゲタキコト多シ 漢文程用ニタタヌモノナシ通用俗文ニテ書ク 麻疹流行一家病ム 燕石来訪

- 7 文久 三年 七月三〇日 (柴原宛) 馬関砲戦藤生ヨリ聞ケリ 本邦開聞来ノ大観 応援ナキハ扼腕ニ堪エズ 建武中興一誤今日大機関再誤ナキヤ 内二夷アリテ外攘夷ヲ得ンヤ ソノ他 (付) 柴原宛書翰返戻事情 芳郎宛一葉
- 8 慶応 元年 三月 五日 (柴原宛) 彦六郎子入塾承知 節翁ノコト池上誼蔵来ル故山歸臥ノ説ナリ 節翁ノコト 三鹿ノ子乾吉ノコト 耕雲齋斬罪ノ風聞如何
- 9 慶応 元年 四月一〇日 (柴原宛) 武吉歸塾 同人禁酒ノコト 森下ノコト承知 塾中ノコトナオ配慮スベシ 小楠公碑文節翁今回ハ四条噉戦ノヨシ 征長決セズノ風評
- 10 慶応 元年 四月二四日 (柴原宛) 老公東行又長州行ノ命心痛ナラン 節翁ノコト 池上誼三 竹吉生ノコト
- 11 慶応 元年 五月 七日 (柴原宛) 文稿拝見 將軍上坂再征長ノ風聞 東西ノ關係深憂 雲崖モ同感 節翁小子ヲ罵リ富人ノ児ヲ集メ鄙劣ナリノ罵詈雑言ナリ 節翁ノコト 宕陰易簣ノウワサ 儒門凋落歎ズベシ
- 12 慶応 元年 七月一六日 (柴原順二・森下拾之介宛) 竹吉依頼申送リタル書状外薬礼・書物代・盆入用不足分孫二郎へ申遣リタリ 征長休息トカ何トカ不明 大将ト老中不和ノ説
- 13 慶応 元年 七月二九日 (森下拾之介・柴原順二宛) 薄井健三ヨリ金子送付才届ケケダサルベシ 関君ト小話 流言虚喝盛ン 正直ニ敵ノ説ヲ信ズル人多シ 小子上京始末並ニ算用不足ノコト前便ニ具ス 芸州容易ニ崩レマジ 鎖国形勢強マランカ
- 14 慶応 元年 八月一〇日 (柴原順二宛) 河野鉄兜他消息 丈介江戸遊希望ノコト 高文ニツイテ所見
- 15 慶応 元年一〇月二七日 (柴原宛) 竹吉処置ノコト 風聞書垂示感謝 先日江木・石川一会御状拝見 コノ上廟堂ノ処置大事 横浜ニテ条約取極ノ説不公平 必ズ私ニ陥リ天下不服 兵庫大阪ニテ会議天幕藩浪ノ四私ヲ絶チ夷人列席セバ更ニ妙
- 16 慶応 二年 四月 三日 (柴原宛) 竹生不始末処理委細 高文拝読 建碑ノコト 長州ノコト風聞アレド詳ヲ得ズ
- 17 慶応 二年 五月一五日 (柴原・藤江宛) 浪士鎮静大慶 西討如何ノ成行ヤ田舎ニチハサッパリ分ラズ 三日月藩松崎生引受ケ承知 小子上京納言公拝謁世話人ノタメ止ムヲ得ズ コレモ興讓館ノタメナリ 節翁剃髪ノコト
- 18 慶応 二年 六月二一日 (柴原宛) 先日ハ失礼 伝言森下ヨリ拝承 星野文拔録モハヤ落手力 河野絢夫病状如何 大坂画人藤井藍田長人ト文通ニテ入牢 橋本香坡モ入獄トカ 大坂軍議橋公代ッテ姫路マデオ下リトカ実事ニヤ
- 19 慶応 二年 七月一三日 (柴原宛) 弊塾御藩諸子無事休意アレ 河野生病気江木貸与本返却方ノコト 竹吉算用塾費加増ノ実情 長征景況如何 長父子不参ナレバ伐ツトカ何トカサバケザルヤ
- 20 慶応 二年 七月一五日 (宮原宛) 浪華橋納原中大渦ニ三日困臥 笠岡船ニテ帰宅 滞京中懇切多謝 征長大変 石川・江木無事 干戈ノ世慨歎 詩三首
- 21 慶応 二年一一月 五日 (柴原順二・森下拾之介宛) 弊塾只今三十四五人 長州ノコト 京地議論確説ヲ得ズ 將軍決マラザルモオカシ 目付梅沢孫太郎当地通行長地ヘモ参ルトカ 国ノ為メ奮励祈ルトコロ
- 22 [慶応 二年 月 日] (柴原宛) 杜預蔵伝 恭公実録 西征先鋒通行 福山侯石州口先手ニテ出立 石川・江木從陣消息 今日ノコト権デハ却テ権ヲ失ス 昌平校修復
- 23 慶応 三年 一月 八日 (柴原順二宛) 詩二首 本介ノコト拝謝 削地大晦日ニハ暴民嘯聚 鎮定コノ上征長ナドアリテハ土崩瓦解 竹吉不始末処理ノコト
- 24 慶応 三年 一月二九日 (柴原宛) 御藩ヨリ外国遊学ノ士アル由妙 渋沢篤太夫民部公ニ陪シ御勘定格雜費方ニテフランスへ出立 金銀物価平均ナクシテハ人心平均セズ 迂腐ノ上言内見願ウ
- 25 慶応 三年 三月一五日 (柴原宛) 河野返却本預リ 孟子御著口上書返壁 小楠公碑文ノコト 森下ノ件承知紙面ニヨリ教誨セン 京都ニ幕府文武稽古所取立テ諸藩処士マデ入学ノ由
- 26 慶応 三年 六月二一日 (柴原順二宛) 後藤死去社中離散 名家ノ後惜ムベシ 兵庫開港勅許長州寛大ノ由米価下落ハ賀スベシ
- 27 慶応 三年一二月一九日 (柴原宛) 季男死去 君侯上坂トカ如何相成ルコトカ 尾道ヘ徳山勢トカ千余参リ 福山大心配ノ由上方ノ声援力 入洛御免官位如旧トノ御沙汰 騒然事測ルベカラズ浩歎

- 28 明治 元年一一月 五日（柴原順二宛）病氣見舞 芸地引越広島藩招聘ノイキサツ 興讓館後師ハ坂田丈介 松山僧超順ノコト 福山藩箱館出兵 江木参謀ニテ辛苦ナラン
- 29 明治 元年一一月 八日（柴原宛）快方出勤慶賀 小子身上芸行一条申述ベノ愚札モハヤ届キタルコトト推察 興讓館姪坂田丈介へ引渡シ変化ナシ 一橋家藩屏ニ列シ变革アルベキカ 天子東幸藩江戸暫時此俛ナラン 森下案内ノ大失策浩歎 主馬君日田行青村ナラバ申分ナシ 青村在外ナレバ明倫館ヨシ コノ節長生一人在塾 彼地ナオ殺気盛ノ風聞寄宿困難カ
 - 30 明治 二年 六月二九日（潜斐宛）拝別後大阪乗船二日帰着 牧融吉ノコト相談 無事解決牧老母ヘオ伝エゴウ 江木蝦夷ヨリ凱旋 北征中肥リタル由ナレド嫡子健吉咯血 石川モ中風ニ似テ大病急ニ帰国ナルマジ 藩公帰城不快アリ心配
 - 31 明治 二年 月 日（署名・宛名共欠）尾道商法会所取立テ備中備後ニ芸州贗札ノ悪評厳密ニ糾明ノ要
 - 32 明治 三年 四月 八日（昌蔵宛）朔日尾道ヨリ福山ニ出テ五十川ニ会イ興讓館ニ同宿 旅先ヨリ草稿・碑文ノコトニツキ指示
 - 33 明治 三年 六月 三日（家内宛）此状呉氏へ届ケラレタシ 筑前福岡知事被免閉門三人程死罪ノ由 ニセ金札ノ為メナリ 当藩石井ドノ藩邸預ケ大シタコトアルマジ 筑前ヘハ有栖川宮知事ニテ本日出立 薩州西郷上京改革トカ 輔相外役換ヘ参議ハ木戸ト西郷二人
 - 34 明治 三年閏一〇月 五日（留守宛）丈介コト河野ヘ尋ネタルトコロオ招キハ面倒ユエ推シカケ願ウトノコト ソレモ一興ナラン
 - 35 明治 三年一二月一三日（家内宛）帰藩今少シ分ラズ 書物二冊送ル達・芳ヘ教エクダサルベシ 同封一通 扶持金ノコト他
 - 36 明治 四年 一月一三日（留守宅宛）精谿先生墓参ニテ寒気ニヤラレシヤ大胃痛 後藤静夫・坪井道成厄介ニナリ全快彈正台ヨリ朝廷へ上申ナクテハ善惡トモ御沙汰ナク 帰藩二三月ニモナラン 豊後ノ騒ギハ鎮マリカケ松代・奥州騒ギ 筑前柳河ノ神主 広沢参議暗殺 家事ソノ他
 - 37 明治 四年 一月一七日 西本清介権大参事トナリ帰藩 国史略ヲ頼メリ受取ラレタシ 西本ヘハ餞別セリ 昌蔵挨拶ニダケ参ルベシ 御地彈正台済ミデハ当地決マラズ一困却
 - 38 明治 四年 一月二四日（昌蔵宛）古賀両先生墓参 延引知事様初メ閉口 衣服類調工金不足五六十両拝借願エリ 天野五郎困窮 昨今自分預リ西本藩ノ権大参事トナリ帰藩 国史略頼メリ
 - 39 明治 四年 二月一八日（阪谷留守宛）旧知面々来訪 追々諸藩ヨリ上京 参議殺サレ御門厳重 長州脱走隊久留米ニ潜入 薩長土肥兵隊派遣 信州騒動モ鎮静 四月ニハ薩ノ申開ニテ大改革トカ 御藩ハ大阪彈正台手マドリ謹慎開ケズ 諸家子弟洋学大ハヤリ
 - 40 明治 四年 三月 九日（阪谷内宛）費金差繰リノコト 罪人一同西京へ呼寄セ朝廷ヨリ御沙汰アラン 諸方へ周旋長引キ塾中へヨロシク申サルベシ 昌蔵洋学ナリ何ナリ怠ルベカラズ 一芸ナクテハ立行カヌ世トナレリ
 - 41 明治 四年 三月二七日 当地イズレモ無事 帰藩時期不明 一同困却衣類取寄セルノ人買ウ人アリ 自分考エデハ六月ニハ帰藩ナルベシ 従ツテカタビラ入用 単三一枚共家令佐藤宅へ依頼アリタシ
 - 42 明治 四年 四月一九日（昌蔵宛）当地公始メ無事 諸費嵩ミ困却家計手配ノコト 此度ノコト五月中ニ決マリ六月ニハ帰リタシト祈リオレド朝廷大改革ノ風聞 諸藩知事上京公モ御用アルベキカ 益頃ニ延ビルヤモ知レズ 西洋膝栗毛・海外新聞後便送ル
 - 43 明治 四年一一月二五日（京・礼・昌宛）来早春出立ハ二月ニ掛リテハ不可 正月一〇日ヨリ十五六日ニ乗船 廿五六日東京着ノ分別アルベシ 神戸・東京間船賃一〇両ヲ含メ全二〇両 八人ニテ一六〇両三百両モ持参スベキカ 途中ノ用心指示
 - 44 明治 四年一二月一一日（皆様宛）小子四五年東京滞留決心 居所求メ田辺藩牧野邸入居ノイキサツ 家族呼寄せ七月中頃出立サセタシ 家財始末依頼 英学教授所ノコト外国遊学等一大变革至当
 - 45 明治 四年一二月二五日（家内宛）当月一四日本所割下水大友屋敷へ引越シ 原謙三帰着カ 正月中ニ上京アリタシ引越荷及ビ家財指示 石井・神大参事相済ミ贖金七両二歩 木原秀三郎准流一〇年位カ
 - 46 明治 四年 月 日（昌蔵宛）海外新聞五冊送ル 哲蔵・昌蔵読マレタシ フランストプロイセンノコト分明 仏学ヨリ英学ヨシ

- 47 〔明治 四年 月 日〕（昌蔵宛）不用品返送通知 知事謹慎緩メノ内沙汰アリ
- 48 明治 四年 五月 一日 御藩ノコト西京一人御留ニテ他ハ藩屋敷ヘオ預ケ オ役人東京ヘ帰ラレ近々刑部省ヘ下ルベシ薩・長・加・尾大藩知事東京詰 改革近キカ当知事様事済ミ心配 郵船遠州沖ニテ坐礁 人ハ助カレドモ荷ハ駄目 自分カタピラ等駄目カト想察 衣服新調失費困却
 - 49 明治 四年 五月一五日（家内宛）留守宅ヘ連絡 東京自炊生活模様（中断）久留米大楽源太郎風評 ソノ他
 - 50 明治 四年 五月二九日（昌蔵宛）在京近状報知 家事処理連絡 西国立志編送付熟覽スベシ 神戸大津浪・京阪大風米相場響カン 知事様去冬着後外出ナシ ソノ他
 - 51 明治 四年 六月 七日（昌蔵宛）頼平福沢力箕作入塾希望 印鑑嚴重ニテ当人閉口 藩庁ヘ頼ミオレリ
 - 52 明治 四年 六月二四日（表書昌蔵 内京宛）別紙刷本通り 獣ノ病イ人ニ移ルノ風評 此間帰藩勤ムル人アレド此度ノコト済マデハ叶ワズ 無用ナレバ尊命次第ナリト返事セリ モハヤ刑部省ニ下リ近日決マルベシ 刑罰ノ程不明 人別ノコトソノ他
 - 53 明治 四年 七月 八日（家内宛）立志編四冊送ル 丈平・雲崖状来ル 丈平立志編ニ感心礼之介ヘ読マセタル由 筑前ノコト決マリ知事免職有栖川宮藩知事ニテ出立 藩政ニ関係ナク筑前ト相違調べ済マズ九一〇月ニモナルベキカ
 - 54 明治 四年 七月二七日（留守宅宛）御国県トナリ知事様免職 追テ制度改メニ付テハ当地モ評論アリ 国ニチモ不安アルベシ 二位様モ心配 八月末ニハ鷹金札ノコトモ裁断アラン 小子当地ニテ無用ナレド折合付カノウチ帰国申出モナラズ 九月始メニハ帰ルベシ
 - 55 明治 四年 八月 四日（留守宛）膝栗毛新聞雄志岡田帰藩ニ托セリ 西本五〇日ノ暇願ニテ帰藩 肴持参挨拶ニ伺ウベシ 西本帰京セバ小子帰国出来ヨウカ 混雑中自儘ノ帰国ナラズ痛心
 - 56 明治 四年 八月一五日（留守妻子宛）礼之介勉学ノコト 東校ハ算術必須広島ニテ洋書算術兼学スベシ 慶応義塾ノコト 御国混雑鷹金札ノ事件早急ニ帰レズ 九月末ニナルカ 礼之介西本・中井ヘ相談アレ立志編熟読スベシ
 - 57 明治 四年 八月二〇日（留守宛）礼之介上京自分帰宅マデ待ツベシ 内々ナレド広島引取り帰郷セズバナルマジ 九月帰藩ノ予定ナレド不明 追書 一二日ノ変急報アリ驚愕 二位様心配帰国ナレバ御供仕ルベシ
 - 58 明治 四年 八月二八日（留守宅宛）御地大騒ギノ由心配ナラン 二位様広島ヘオ帰り聴許ナラズ 寺川・吉田帰藩ニ付自分考工申立置ケリ 一同備中帰郷然ルベシ 妻子広島ニテハ気掛リ早々寺戸ニテ待ツベシ 右ニ付届ケ準備諸事ノ指示
 - 59 明治 四年 八月二九日（阪谷礼之介・昌蔵宛）米俵ハ売払帰郷入用ニ用イルツモリ 永田ヘ参ラレナバ自分厄介ノオ礼申スベシ 此度ノコト家令佐藤氏ヨリ吉田ヘ話アリ 礼之介吉田ヘ礼ヲ述ベニ参ルベシ
 - 60 明治 五年 八月 七日（柴原宛）書状並ニビール惠贈拝謝 近く出京ノ由宿イズレヤ 三重県属植松直久面会希望オ訪ネイタシタシ
 - 61 明治 五年 一一月二四日（柴原宛）島田参事来訪 議間出張所ニテ拝眉希望ノヨシ 小子地理書校正ニテ正院地理課ヘ日勤 愚事業奴隷官糊口ヲ塞ギオレリ
 - 62 明治 六年 五月一八日（岡・三谷・斎藤・小島宛）月給受取りノコト
 - 63 明治 七年 一月 七日（柴原宛）家禄法布告小子無禄士族 策ナクバ奴隷給ニテ糊口凌ギ難ク 三四人相談植松直久相談ニ参上才聞取り願ウ 田中弥五郎
 - 64 明治 七年 五月一二日（柴原宛）都合拝承 小子正院地誌課出勤 五時前ニハ帰宅
 - 65 明治 七年 一一月 四日（下書）故礼之介改葬願
 - 66 明治 八年 一月二五日（柴原宛）小子正院政表課御用掛拜命 月俸九〇円下賜 詩一首
 - 67 明治 八年 七月一二日（柴原宛）画人松岡環翠元藤堂藩留守居 古賀先生塾ニテ同塾近来画人 大草中判事免職理由分ラズト会津ノ秋月議生廃止ニテ免職
 - 68 明治 九年 一月 日（静霞堂宛）備中井原学校予約誌代返却申入レ

69 明治九年一月一日（靖庵宛）長肥ノ暴動驚愕 尊県モ意外ノ警鎮静賀スベシ 丹羽判事嗜血 憂国ノ念アレド無力 近来 学問心動キ晩酌ヲ減ズ 老来多累道遠シ

- 70 明治一二年一二月二七日（雄・芳二子宛）大磯・熱海旅先へ連絡東京大火模様
- 71 明治一三年一二月一日（黄公度宛）海防臆測謹呈添書
- 72 明治年三月二日（柴原宛）来京時拝眉ヲ得ズ遺憾 次二来京ノ際ハー報願ウ 隨時訪問スベシ
- 73 年三月二日（柴原宛）竹生処置ニツイテ
- 74 明治年三月三〇日（柴原宛）高論ノトオリ三島説不折合オヤメ然ルベシ 小子ヨリコトワリ申スベシ 旧稿ノママトシソノ 上相談イタサン
- 75 明治年四月一九日（昌蔵宛）風邪及ビ興讓館用ニテ願ノ日限切レ 日増シノ届ケ成サレタシ他
- 76 年五月六日（秀野宛写力）去留八時宜ニ応ジ処置アレ 昨日ノ雪踏ハ書生用 草履ト取り換工願ウ
- 77 年五月八日（柴原宛）鱸松塘ソノ故郷ノコトニツキ伺イタイヨシ 面話アリタシ
- 78 年五月一〇日（秀野宛）雲崖へ御書並ニ伝言達シタリ オ頼ミノ件調工飛脚便ニテ差出シタル趣
- 79 明治年五月一日（柴原宛）二三日前出京ノヨシ 一昨年木更津寓居中ノコト奇縁アリ オ耳ニ入レタキ義アリ
- 80 年五月二九日（柴原宛）節翁帰臥其後消息ナシ 成羽藩岡周斎ニ面話 上成延太教育引受依頼後 藤堅蔵円尾生ノコト書生輩 刀剣惑溺ノ愚 近時食貨ニ関シ所見
- 81 年六月三日（秀野宛）如蘭集出来差上グ 写代ノコト
- 82 明治年六月二日（柴原宛）母堂死去悔ミ状
- 83 年六月一四日（秀野宛）久郷へ通知多分承知スベシ 二篇大作鳳毛記感服西帰ヲ待ツ 序文五六日ノウチ草稿呈スベシ 牡丹 史編修才骨折リノ由 井上徳
- 84 明治年六月二日（柴原宛）ステニ帰県カト思イシガナオ滞京ト股野ヨリ聞ケリ ソノウチオ訪ネスベシ 転居ノコト 詩 四首
- 85 年六月二三日（夢吉宛）オ約束ノ拙文草稿ノママ供覧 来月出発ニヤ尊作帰路拝顔マデオ預リスベシ 詩句ノコト 京畿大地 震ノヨシ
- 86 明治年七月二日（柴原宛）会議尽力拝察 小子一昨日駿河台東紅梅町へ移転 民会ノコト容易ニ決シ賀スベシ 議員構成 公選ト区戸長適宜ノ動議アルベキカ 公選目的区戸長ノミニチハ不可 公選ノ端緒ヲ立ル小会議希望
- 87 明治年九月七日（柴原宛）岡正節へノ配意感謝二三日中参上サスベシ 小子ノコト川田モ無理ノ周旋無用見合セノツモリ 三島来リ湯島板倉邸ニ寓ス
- 88 明治年一月二日（某新聞社宛）新聞紙代二重渡シトナレリ 返金願ウ
- 89 明治年一二月一八日（柴原宛）猪原敬介林地調査ニツキ添書
- 90 明治年一二月二八日（宛先不明）佐沢君面倒ノ包ミ留置 帰宅立腹 彼是レナレバ草稿返却アレ
- 91 明治年月日（柴原宛）訪問ノ都合問合セ
- 92 明治年月日（書翰案）政事堂へ差出シノ愚存ノ趣 軍費歳末ニ実米支給ノ件 八月迄延期ノコト一同当惑 年内一〇俵ノウ 子二三俵ナリト御渡シアレバ国家ノ信立ツベシ
- 93 年月日（書添家内宛）三六借用金ノコト
- 94 年月日 朗廬書翰下書（断片）

• 八六、昌谷精溪 津山藩儒 朗廬ノ師

- 1 安政元年一二月一日 大風雨ノコトオ聞キ及ビアラン 洋船ハ水府製一隻薩製二隻海浜ニ吹上ゲ破損 船際ニ堀ヲ通シ浮出シ ノ術ヲ用イ一隻ヲ出シ二隻ハソノ俛 一隻ノ費用一万五千兩トカ 官船一隻八丈沖へ流ル 他

• 八七、昌谷千里 精溪子

- 1 万延 元年一二月 二日 当年氣候不順作物宜シカラザル由 物価高値諸国一般 当夏主人側詰拜命津山へモ勤番 明々年津山へ下向アルベク御地へ罷出ズベシ 備後三郎肖像五枚呈上 遣米使節帰国別段変ツタ話ハナシ
- 2 元治 元年 二月 九日 少貞帰郷後療治流行ナリヤ 將軍再上洛右大臣へ転任恐悦 本丸焼失屋敷辺ハ無事 京ニチハ春岳・三郎重用天下開国説ニ傾キ三郎ハ四位少将 安井・塩谷天誌ノ評アレド虚説カ 塩谷幕府へ召出サレ宿望足リシ様子 物価高値難渋 江戸ハ御上洛中静謐
- 3 慶応 二年 七月一九日 上京直チニ帰郷山中オ引籠リノ策カ 丈介君勤学ノヨシ書生寮窮屈ナルベシ 長州一条戦争トナリ敗間ノミ 弊藩失費莫大 早朝解決期待
- 4 慶応 二年 九月 一日 五月男子出生慶賀 上京ノコト等拝承 丈介・哲蔵君へノ金落手 丈介君母堂死去同人帰省哲蔵君野州旅行 長州盛大將軍亮去 一橋公相続時勢挽回困難ナラン 自分頑健会計局多事
- 5 明治 二年 四月二三日 昨年移住後近況如何 小生世子ニ雇從上京 帰郷後転役参政就任 大任負荷ニ堪エズ苦心 世態変遷再東幸 遷都トカ郡県トカ大転変 都県名ノミニテ封建不変ナルベシ
- 6 明治 年 六月一〇日 旧主人碑文起草 別紙御閲覽願正願イタシ
- 7 明治 年 六月二五日 山田格之丞上京ヨロシク教諭願ウ 御塾盛業ナラン 近来西国平穩東方ハ益々騷擾トカ 大政一新後人心ナオ旧徳ヲ忘レズ モ少シ所置モアルベシ
- 8 明治 年一〇月一四日 備中へ贈物ノコト拝承 為替依頼
- 9 年 月 日 家翁〔昌谷精溪〕履曆・行状一斑 碑文依頼

• 八八、桜井純造

- 1 明治 年 三月 八日 (重野安鐸・阪谷素宛) 一〇日秋月・木原ト小集 当日臨席請ウ

• 八九、佐々木東洋 蘭医 香雲堂医院

- 1 明治 年 七月 二日 (前文欠) 車上孟荀伝通読ヤヤ解意 不明ケ所アリ近日罷出デタシ
- 2 明治 年 七月二一日 診察料御礼
- 3 明治 年 月 日 読史管見封禅書条下解シ得ズ ナオ一回復読ノ上参上仕リタシ
- 4 明治 年一二月二八日 (阪谷次雄宛) 容体書拝見 催睡薬調進

• 九〇、佐藤元輔 桑名藩儒

- 1 慶応 二年一〇月 七日 当藩大関金之丞外三名主人内命ヲ以テ貴塾指導ヲ得大慶 ヲッテ白銀五枚主命ニヨリ贈呈 征長芸州へ出兵 將軍薨去休兵 長兵消息如何 加陽・山階兩宮及ビニ条関白辞職願 事外夷ヨリ起リ内乱皇国一致願ワシ

• 九一、関藤藤陰 前名、石川和介、文兵衛 福山藩儒

- 1 安政 六年 九月二九日 宮原寿太郎蕃書調所出勤志願 頭取古賀先生へ推挽 貴兄カラモ先生宛一書送ラレタシ
- 2 安政 六年一二月二八日 三男出生慶賀 寿太郎一条託嘱深クテモ宜シカラズ 年頭書ニ一筆加筆クダサレタシ
- 3 万延 元年 七月二八日 外夷徘徊ポルトガル船渡来条約許容アリ 外夷登岳トカ金毘羅参詣トカ願出ノ評判 清朝ハ英夷大挙北京入込 長髪賊英ト一緒北京敗北トカ清兵有利トカ 長崎へ避難ノウワサソノ他
- 4 文久 元年 四月 八日 種々郷里光景報知拜謝 江都モ諸色高値 物情恟々ナレドマズハ平穩 山田君侯イマダ寺社奉行 閣老ヘト士民一同希望 塩谷甲蔵・若山宗吉御目見昇進 寿太郎モ御従目付コノ上御目見ニ至ルベシ 彼ノ漢蘭二学大ニ称揚ノ趣
- 5 文久 元年一二月二八日 和宮当月一五日着府近日御婚礼ノ由 道中ノ警衛言語ヲ絶ス 外国使節二三日中ニ出帆 寿三郎ハ免レタリ人減ラシノ為ナリ同人横浜取締出役 卓介イマダ株ヲ得ズ求メオリ 無人島開拓トカ 水野筑後守外見分ニ出掛ケタリトカ

- 6 文久 二年 二月二八日 安藤閣老へ乱妨人取掛リ 又大橋順蔵就縛一件承知ナラン 乱妨人即時戦死 閣老此節全快英吉利ト米利堅ト構隙 英兵米へ向イ我国少々閑暇 角田遠三次郎ノコト
- 7 文久 二年 八月二八日 麻疹流行加エテコロリ大流行御地如何 備中村鑑恵投俗務多忙若シヤオ礼失セシヤ 先月中旬 俗役二転ジ以来繁劇 諸方失礼ノミ
- 8 慶応 元年一〇月 八日 田舎嘶拜見感佩 崎陽筆語並ニ拙堂文ハ返却 進昌一郎芸州ヨリノ帰途鞆碓泊 肥後薩州芸へ掛合イ芸ト共ニ上京トカニテ征長出兵ヲ促ス由 寡君近在巡見ニテ電從
- 9 明治 元年 二月二一日 東方道路ノ通塞才知ラセシタ通り 弊藩人東海道帰リ来タル者アリ 沿道別ニ戦争ナク桑名モ開城 錦旗尾州へ滞留大君ハ恭順閣老モ引籠リ 会藩ハ依然前議ヲ張り大君初メ困却 松山藩人村落へ移リ慎中トカ 君侯在坂ニテ事ヲ誤リ氣ノ毒 備中ノ光景如何
- 10 明治 元年 九月二八日 都下時勢新政才聞キ及ビノ通り 仁兄弊邑福山学校へ招請一藩ノ願イナリ 月一〇日位才出掛ケ願イタシ 承知ナレバ江木繁太郎迄返書願ウ
- 11 明治 元年一〇月 一日 芸藩へオ引移リノ由 忝入塾許可拝謝 小生側用人ニテ勝手向兼役繁劇略文御容赦
- 12 明治 元年一〇月 六日 興讓館繁昌慶賀 忝入塾ノ折自分縁者鼓同様息子ヲ入塾サセタキ希望 許容願ウ
- 13 明治 元年一〇月 九日 弊藩子弟三名入塾希望 芸国へオ供シ修行心得ニ付ヨロシク許諾願ウ
- 14 明治 元年一〇月二八日 芸地へ御出モ近ク多忙ナルベシ 予定ハ何時頃ナラン
- 15 明治 元年 月 日 近況拝承 忝入塾ヨロシク教導願ウ コノタビ依願隠居忝家督 二百石上士ノ内ニテ門地廃止ノ改革中奇妙ノ新政ト成レリ
- 16 明治 二年 二月一六日 賤息厄介拝謝 貴文数篇江木ト拜見所見近ク呈上 鼓ノ児面倒感謝 御西隣心配モノ京師モ混雜トカ杞憂ニ堪エズ
- 17 明治 二年 七月一九日 豚児病氣毎々垂示感謝 御認メ物ノ願イ東京学則未定ノヨシ 学問ハ事務功業ヲ第一西洋ニ求ムルニ若カズトシ 漢学ハ迂ニシテ無益ノ論困リタル時勢 天津口ノ戦朝鮮我ニ答ウルノ二条風聞ノミ 天津ノ方ハ実カ
- 18 明治 二年 九月 一日 昨冬執政ヲ拜命東京行ヲ命ゼラル 内外痛心少カラズ 石川氏祭祀ノコト 本姓ニ復シ関藤ト改ム 養家実家ニ関係ナク重任ノ職ニ応ズルノ用意 病休半歳追々快方 主人家用向キ相弁ジ帰着 東命辞退一条尚志拜服 帰後内願通り執政免ゼラレ降等聞届ケラレ安心
- 19 明治 二年一二月 六日 (江木繁太郎宛) 広島行便用事ナキヤノ心付ケ拝謝 阪谷氏へ過日ノ文字ニ付申遣ルコト同案討論ノ種ナシ 我藩皇国神ヲ学校ニ祭祀ノ儀弁駁イタシタキモノ 貴意如何
- 20 明治 二年 月 日 三学喧嘩バカリテハ詰ラズ 皇ヲ本学トシ洋モ盛ニシ漢文ハ棄ネバナラヌカ 孔子ノ書ハ棄テラレヌト枢要方面ノ話トカ 只今ノ内支工棒ヲ用意シタキモノナリ
- 21 明治 二年 月 日 歳晩所感
- 22 明治 三年 二月三〇日 東行後健勝ナラン オ留守宅ノ様子渡辺頭蔵ヨリ聞ケリ 弊藩吉田六郎紹介
- 23 明治 三年 五月一八日 先日ハ来訪失敬ノミ 宮原モ来合セ愉快 仁兄省郷御塾ノ歓声見ルゴトシ 学制云々貴意拝承 諸藩ノ大参事会集ニテ決スルカ 尾道ヨリノ帰途興吟四首
- 24 明治 四年 四月三〇日 息男死亡通知
- 25 明治 四年 五月二一日 オ返シノ品落手 遺書ノ通り決スル外ハアルマジ
- 26 明治 四年二一月二三日 近クオ帰リノウワサ四五年其地ニオ据リニ決着トカ コレヨリ大窮ノオ覚悟トカ 洋学トイエド翻訳ヲ待タザレバ用立タズ 令郎達ヲオ仕込ミ洋学ノ罪人ニ陥ラザルヨウ希望 西国立志篇一読 中村敬宇トハ昔日ノ昌平博士カ 学力アリテ他トハ大相違 江木東行意向 自分ハ郷国ニ隱蟄スベシ 文部省設置諸県中小学校管轄トカ 新県令へ期待
- 27 明治 六年 八月一六日 墓地ノコト 五十川基礎文

28 明治 七年 一月 五日 昨日ノオ手紙通り明朝梅若六郎宅へ参ルベシ (註、紙面日付一二月五日 消印一月五日)

- 29 明治 七年 八月一〇日 大臣北京出立天下多事参上憂悶一掃セント呈書 日報社新聞岸田吟香ノ一文ヲ見テイササカ安堵 参上 見合セ貴書拜見再度升堂思イ立テリ 火葬説合セネバ合セズデヨロシカラシ 文部省ナオ地震トハ一驚
- 30 明治 七年一〇月三日 田辺新七郎明六雑誌一八号兄ノ火葬説ヲ示ス 僕一読浩然所感アリ
- 31 明治 七年一二月 九日 答書拜謝 解剖説ハ世人ノ議論ヲ引出スベク老婆心ヨリ妄言呈上 明後オ宅拜訪ノツモリ 我使臣北京 出立ノ報謀慮ニ及バヌ事気懸リナリ
- 32 明治 年一月一一日 弊邸梅花ノ節 秋坪翁ト同道来観願イタシ 一昨日杉亨ニヲ一訪 一度拙宅ニテ出会アリタシ
- 33 明治 年一月一三日 箕木熊三同伴ノヨシ 箕作モ同伴アリタシ 華族手合ヲ同座ハ致サズ 主人モ先生ト箕作ナレバ臨時ノ馳走 アルベキカ 湖山並ニ同人隣人松浦竹四郎同行クダサレテモヨシ 杉トノ内話七等然ルベキトノコト
- 34 明治 年 二月 八日 (前文欠) 観梅案内 箕作氏同伴アレ
- 35 明治 年 二月一三日 梅花開クベシ 箕作秋坪へ申しヤリ杉共三人来会願イタシ 別事秘談一条
- 36 明治 年 二月二一日 観梅会案内
- 37 明治 年 二月二三日 午後浅草西福寺へ葬ル 正院出仕杉亨ニ洋学家ニテ長崎人福山藩ニ出テ幕士トナリ只今官員此者先生へ 面会希望ヨロシク
- 38 明治 年 二月二八日 保男病氣ニ対スル処置相談
- 39 明治 年 四月 二日 加藤生謝物ヲ固辞当惑 江木高遠郷里へ一省ノヨシ 明日大塚へ参詣ニハ陪行イタシタシ
- 40 年 四月二三日 江木出立モ近シ 別宴今回ハ拙宅ニテ催シタシ
- 41 明治 年 五月一〇日 前日ハ一宿厄介感謝 杏壇ノ展覧ニアズカリ愉快 厚配ノ覆役物品鱸春塘ノ娘届ケクレタリ 加藤玄章托 シタルナリ 軸幅七ヶ書冊類一箱玄章話ヨリ多シ
- 42 明治 年 八月一一日 染井・天王寺両墓地開設模様 並ニ撰定ニツキ打合セ
- 43 年 八月三〇日 (於七日市) 松山へ使節勤メニテ此地通行 帰りハ三四日中ノ夜コノ地止宿予定 一夜閑談希望
- 44 明治 年一〇月一三日 早速ニ御作調製主人拜喜 主人希望ニテ環翠翁同道来邸願イタキトコロ 箕作門下佐竹旧秋田藩知事外 送行宴同席願イタキ主人希望ナリ
- 45 明治 年一二月 一日 時勢大変化コノ上ノ変化懸念 公等高尚ノコトノミニテ欽羨 小叔父子ノ詩稿ノコト
- 46 年一二月二五日 碑文ニツキ意見伝達
- 47 明治 年月 四日 才誘イ拜謝 明後午前ハ期シガタシ トモ角午後梅若六郎宅へ罷リ出シ
- 48 明治 年月二〇日 先日謡曲会ニテ厄介 近日浅草山ノ宿亡妻里方ノ寺へ所用アリ 序ニオ訪ネイタシタシ
- 49 年 七月 四日 卓介帰省一条江木へノ書状ニテ領知アラン 御家人俗吏ハ好マズ差止メタレド本人ノ意志強シ 株ノ周旋小生不 能 今後ノ出処ハヨロシク依頼ス
- 50 年一〇月一八日 晋文備中へ発程 仁兄往訪ト聞キ托書 詩二首
- 51 年一二月 一日 来訪都合問合セ

● 九二、関島退蔵

- 1 明治一二年一〇月一二日 塩沢太重郎帰郷ニ貴札托シクダサレ拜謝 一新後消息ヲ得ズ 天竜峡記等座右ニ置キ珍玩 貴簡拜誦懐 旧ノ念禁ジ得ズ

● 九三、世良太一

- 1 明治 八年 一月 八日 年賀 杉へオ談ノ一件近日上申ニ内決 中村外史等へ相談遠カラズ決定セン
- 2 明治 八年 一月一〇日 上申ノ時当人履歴提出ノ要アリ 履歴書政表課小生マデ差出シ願ウ 古賀門江越礼太出京ニ際シ会同 古 賀先生モ出席参会願ウ

- 3 明治一三年一二月 五日 舎兄長逝愁傷 明六社一月集会日
- 4 明治 年 五月一七日 山成氏翻訳書一冊落手 早速先方へオ廻シスベシ
- 5 明治 年一一月 一日 北越ヨリ上京少年漢学修行志願 入塾許可願ウ
- 6 明治 年一二月 四日 八百松会ハ正午参集 田中へ通達願ウ 小永井へハ川田箕作へハ小生ヨリ通知

● 九四、柴原和 号、靖廬 竜野藩士 千葉県令 貴族院議員

- 1 文久 三年 七月一〇日 来来長府前面一年ヲ経ズ争戦ノ場トナリ無援トカ扼腕 別後海路室津着岸帰省 主人ヨリ上京内命 主人急参府多忙 小生再任新規ニ学校師役命ゼラレ降心アレ 同藩二三生差向クヨロシク
- 2 元治 元年一〇月一三日 藤江卓蔵外無事帰国 暴生等厄介多謝 形勢測ラレズ浩歎 近日君駕ニ從イ西下ノ節面話スベシ 愚兄柴原左五七閣老ヨリ長州へノ達書持参淡路守使者西下 オ尋ネノ節ハヨロシク 家老脇坂ノ子入塾オ世話依頼
- 3 慶応 元年 二月一五日 征長一事一段落 ナレド尾州督府上首尾デモナキ趣気ノ毒 愚考スルニ督府戦ワズシテ人ノ兵ヲ屈ス善ノ善ナリ 愚兄へオ心添エ無事使命ヲ了シ厚謝 森田翁ノコト
- 4 慶応 元年一〇月二一日 (朗鷹・森下宛) 京阪騒擾探索ノタメ上京 將軍辞職開鎖ノ論一タニテ決定 名卿巨士在朝無事済ミ同慶 右報告写差シ上グ僕ヨリノ情報秘サレタシ 征長モ如何哉 植原六郎左エ門ニ逢ウ 明山公子等ノ議論 征長実行トカ 根本堅固ナラザレバ効果挙ラズ 竹吉ノコト (付) 竹吉一件追伸 一〇月二三日付 一通
- 5 慶応 三年一一月 一日 縫殿病氣帰省平癒 御看病ノ為メト親共感謝 大將軍解職 大小侯伯闕下へ召集 弊藩へモ朝命幕命アリ五日出発 佐幕復職ト成ラズトモ徳川氏ニ政權託セズバ収リ申スマイ 親藩内諸侯微力 福山松山等苦心江木モ同憂ナルベシ 御地辺・長州事情伝聞アレバー報乞ウ
- 6 明治 元年一一月 二日 主馬生登塾教示願ウ 弊藩モ旧習一洗門閥トイヘ其器ニ非レバ難退 先生芸国へ出仕ノ流伝一遊位ノコトト拝察 森下生江戸ニテ非命氣ノ毒 (付) 主馬生尊塾ノ後日田・長州明倫館入塾希望 一通
- 7 明治 二年一〇月二六日 オ手紙並ニ尊著御説感銘 私ヲ除クノ一字ナレバ天下太平 然ラザレバ旧幕流弊ヨリ甚シカラン 既ニ一年会賊モ降り東北鎮定 僕病氣臥床 芸備境論稍和順ノ趣 旧知追々高位 先生韜晦感服 竹鼻・日柳史官ニ出テ軍事御用懸ニテ北行消息ナシ 島田方軒 江馬天江
- 8 明治 三年 一月 八日 年賀 僕戊辰終年臥病 二年春末全癒 冬初徴サレテ待詔院出仕 一一月甲府県大参事拜命碌々尸素先生毎々ノ鳳詔アレド韜晦ノ趣 此節出京ノヨシ朝廷ノタメ尽力祈ル
- 9 明治一二年 二月二八日 藤原文貞公遺蹟碑文章稿痛正ヲ願ウ
- 10 明治一二年 九月二六日 拙文批正アリガタシ 近世偉人伝恵投拝戴
- 11 明治 年 二月一六日 過日ハ青松寺ニテ拝暗大慶 亡父碑銘川田へ依頼 出来上木予定 序賊ヲ御願シタク弟武雄ヲ参上セシムヨロシク
- 12 明治 年 三月 八日 礼服用出京ノ電命アリ出京 明日オ尋ネイタシタク都合如何
- 13 明治 年 三月一九日 学士院へ栄選敬賀 文貞公碑文潤色奉謝
- 14 明治 年 四月一三日 病氣中一昨日ハオ邪魔 横浜云々ノ文オ写シアレバ使者へオ渡シ願ウ
- 15 明治 年 五月 五日 近日出京 柴原左五七宅方面出行ノ折来訪アレ
- 16 明治 年 五月 九日 今朝松堀氏ヨリ伝達ノコト了承夫々へ通達ス 明一〇日小集出席願ウ
- 17 明治 年 六月一〇日 老母死去通知
- 18 明治 年 七月 三日 明日観劇先約アリ後日ニ延シタシ
- 19 年一〇月 一日 坐光寺生厄介弊校制一条申上ゲオ心附ケ逐一拝承 秋試近日試ミル予定 秋月藩坂田潔外三人御塾へ参ラン 当方ニテ一議論 譜代ト官爵天朝ト幕府論ニ及ベリ 先生高論承リタシ
- 20 明治 年一一月一〇日 当県区画改正中多忙 藤江卓蔵面会ノ由当方へモ来訪一〇年振りナリ 江木ヨリ来翰治水論熱中ノ趣 宮

原来春東海トカ ソノ節出京スベシ

- 九五、重野安鐸 号、成齋 鹿兒島藩儒 東大教授
 - 1 明治 年 八月二二日 高作二篇オ示シ感吟己マズ 拝謝
- 九六、島田方軒
 - 1 年 六月一九日 貴塾両生弊塾ヘオ差向ケノコト拝承
- 九七、進昌一郎 号、鴻溪 備中松山藩儒
 - 1 明治 元年一〇月一六日 昨春来ノ事変ニテヤムヲ得ズ疎隔 大兄ニハ配慮伝言感謝 近来ソノ御藩ヘ遊仕トカ同慶ノ至リ 福山ヘノ途次七日市一宿 賢姪君・雲崖生ヘ面会
 - 2 年 三月二七日 平信
 - 3 年 六月 一日 東都ノ形勢三島手帖ソノマ・差上ゲタルトコロソノ後ノ模様相違 今便ハ相ソノ実ヲ得タルカ コレ亦送致スベシ 同藩藤森塾生ヨリノ小冊併セテ供覧 浩歎ノ外ナキ世運ナリ
 - 4 年 六月 七日 先日ハ来訪拝謝 不幸幽閉中厚志銘肝 ソノ後父兄役儀免ゼラレル位ノコトニテ相済ミタリ 今般一条ハ意外ヨリ 発セシコト 子弟ノ私論ヲ要路偏聴セシニアリ ソノ冤タルハ遠カラズ明白ナラン
 - 5 年 七月一三日 入塾希望名和生紹介
 - 6 年 七月三〇日 一昨日夜通シ福山行 帰掛ケ足勞願エレバ当節ノ新聞申上ゲタシ
- 九八、相馬巖太郎
 - 1 慶応 元年 二月一四日 鄭所南集ノコト 長州一条略落着ノヨシ 御地ノ風説如何 大樹公近日上洛トカ 南紀公弊藩通行関東行ノヨシ 天下ノ形勢如何相成ルヤ 詩一首
 - 2 慶応 二年 五月 六日 弊藩文武場上棟 上梁文命ゼラレ右拙文添削方願イタシ 前月南遊節翁ヲ訪ヌ 翁剃髮諸侯ノ膀ヲ辞スル為メトカ 先達書中憂ハ長ト夷ニ非ズノ説果然中備ニ発シ数十人召捕トカ 上方辺米価高騰 京都ハ人心悔々トイウ
 - 3 慶応 三年 五月一六日 愚父近作一篇供覧 長州一条事済ミ賀スベシ 先日来兵庫駅ニテコボチ起リタルトカ 一昨日カラハ木津・難波・堺同様騒動ノヨシ ナレド米価下落平穩ニ至ルベシ
 - 4 年一二月一〇日 馬関日記評隲クダサレ深謝 当時京坂文人前後没シ請正ノ人ナシ 先生ノ恩過ヨロシクオ願イタシタシ 小生春来城中講師褒賞賜ワリ同慶クダサルベシ 天下騒然劣生家業ニ勉ムルノミ
- 九九、首藤良治
 - 1 明治 年一一月一〇日 平塚栄蔵オ世話御礼西郷隆盛作外染筆依頼
- 一〇〇、武富定保 号、■南 佐賀藩儒
 - 1 明治 年 二月 八日 拙詩稿梓行ツイテハ高批池亭ヘオ持チ願エレバ幸イ 湖山ハ詩史ト命ズルヲヨシトイウ 盟台同意ナレバ従ウベシ 序文湖山・成齋ヘモ依頼 鱸・川田ヘ賊語依頼
 - 2 明治 年 八月二四日 本月望会欠席残念 拙文類初巻ト珮川他墓文竹外ヘ送り転致依頼 落掌アレバ御覧願ウ 博覧会古田新十郎ヨリ拙文陶器贖借覧希望 初巻編中ナレバオ手許ニアレバ返戻願ウ
- 一〇一、竹添進一郎 号、井々
 - 1 明治 年一〇月二七日 拙稿批正拝謝
- 一〇二、田辺新七郎
 - 1 明治 年 二月二一日 禁庭ノ雪ヲ咏ズル尊什垂示拝謝 其筋ヘ示シタルトコロ月並ノ分ハ人員定限アリ且ツ国歌ノミナレバ睿覧

二供スル能ワズ 折ヲ以テ御覽ニ入レタシトノコトナリ

- 一〇三、田中不二麿
 - 1 明治一二年 二月二七日 (代筆) 米国学校法供覧
- 一〇四、田中耕造
 - 1 明治一二年 六月二七日 (在巴里) 出発ノ際厚情感謝 去ル四月三日大警視外無事巴里着 予想外ノ繁華 大警視不快
 - 2 明治 年月 三日 美酒拝受光臨ヲ待ツ
- 一〇五、寺地増平
 - 1 文久 三年 六月 五日 岩太郎何某ノ目傷ケ先方ヨロシクオ取計イ願ウ 都下ノ変事当地モ評判 三条中納言辭職隠居ノ張紙写ソノ後禁門ハ外様大名固メ大騒動トカ 切害人ノウワサ
 - 2 元治 元年 八月一四日 先日宮原寿三郎通行出會 東都形勢ヲ聞クニ驚愕徳川家ノ衰運歎息ノ至リ 当月五六日下関大戦長州大敗 夷人千人許リ上陸二里バカリ入込ミ大乱妨 小倉遠見ノ話終ニ夷人ノ属国トナルカ 長州君臣ノ大愚実ニ国賊ナリ
 - 3 元治 元年一一月 一日 準三指出スベキトコロ当地長州騒ギ未ダ収ラズ延引 尾老公浪花発近ク此辺通行ノ噂 三百年初メテノ事諸侯モ通行ノ由 平日ノ行装ト違イ真ノ行軍壯觀ナラン 松山侯三四日頃トカ 三島ナドヨリオ聞キアレバ承リタシ
 - 4 明治 年一一月 七日 五十川基帰国 未亡人遠路上京親子ノ情察スベシ 関藤先生モ出京 基ノ西洋話ニ興ゼラレバ不幸中ノ幸イ 蒸汽車ナド旧觀一変絵本ト大違イナラン 当地衰微学校閉院長大息
 - 5 明治 年一二月二五日 尾道松井圭蔵ヨリノ情報ニ島津ヨリ芸州へ縁談内約 薩依頼ニ芸産物鉄ツク綿米塩五品ノ引受 他国ヨリ二割上ゲニテ引取り薩ヨリハ砂糖外菜種 スデニ芸州綿四万俵積出シト 又薩琉球通宝鑄立テ朝廷へ二万錢献上 公儀へノ願ニ自国通用ナレド自然他国へ混入アルベシトノ届
- 一〇六、東京大学
 - 1 明治一三年 七月 三日 学位授与式案内状 (活版)
- 一〇七、都賀厚之助
 - 1 文久 三年一二月 八日 当正月呈書以来京都・伊賀上野・名古屋・多治見コノ地ニテ三月滞留授読 九月発程岩村へ参リ少年導引中 諸公卿へ藩士出入ヲ禁ズルノ幕府愚政 鎖港攘夷策 佐久間象山
- 一〇八、鶴田皓 肥前藩士 大学少助教 元老院議官
 - 1 明治 年 二月二五日 老父ノ号詩稿高正依頼
 - 2 明治 年 三月二一日 先生身計一条 河田ヨリ相談 教部新設コノ方ニチハ如何ヤ
 - 3 明治 年 七月二二日 礼品添書
- 一〇九、土屋弘 号、鳳洲 岸和田藩儒 東洋大学教授
 - 1 明治 年 一月二五日 拙著批閱名篇ヲ賜リ大慶 巻尾ヲ飾ル予定 節翁序文共拙著光輝ヲ得ン
 - 2 年 四月二七日 先師物故万事担当ニテ繁忙 碑文添削願ウ 一集二集諸名家ソノ首ニ題スルハ鉄面皮ノ至リ
 - 3 年 六月 六日 序文訂正今一度御覧願ウ
 - 4 明治 年 六月二三日 旧養家相馬ノコト 小山田退蔵紹介西南一条如何ヤ他
 - 5 明治 年 六月二七日 森内徳佳紹介状
 - 6 明治 年一〇月一八日 関藤翁碑文惠投拝謝 近作一篇添削乞ウ
 - 7 明治 年月 日 (本文欠 尚書) 友人高木展為近世名家詩文ヲ集メ月々出版 先生作二三篇惠投サレタシ

• 一一〇、土屋信弘

- 1 明治二年 六月二五日 客冬依頼ノ拙稿批評返却拝謝 高著数篇垂示有用ノ文感銘 殊二大原公ヘノ大文章驚愕 一書呈上痛正願ウ 東方平定ノ様子コノ上無事ヲ祈ル
- 2 年 九月二五日 拙塾牧融吉貴塾才世話願ウ 当藩夏以来動揺勤王尊幕紛争 天朝裁断老父流罪 相馬家籍没家族親類ヘ長預ケ 小子実家ヘ引取坐罪檻入申付ラル

• 一一一、丁野遠影 号、丹山 高知藩儒

- 1 明治一四年 一月 一日 年賀
- 2 明治 年一一月 四日 去月一九日着県 大阪清岡判事訪問ノ際御著異人伝ヲ贈呈 此地兵火ノ後満目惨然

• 一一二、植原六郎左衛門 砲術家 津山藩士 号、静淵

- 1 万延 元年一〇月二四日 忤才世話拝謝 忤兩人外二人剣術修行貴地辺ヘ参上ヨロシク 江戸表プロイセン交易願出執政方困却 外国ミニストルヲ以テ謝絶 米ヘ頼マズトテ彼不腹ノヨシ 三年内ニ異変起ラントノ話 常人ハ平穩ノヨシ 江戸町人裏店ナドハ出奔明店多シト
- 2 万延 元年一二月一七日 忤鈍物ナレドヨロシク依頼 東方ノコト存慮申上ゲタル処正論尤モナリ 梅田源次郎ノ言動如何 河内ニテ百姓等ヲ煽動ハ疑問 徳川家ノ政道誤リ 今ノ將軍家デハ正路立タズ聡明ノ賢將後継望マシ 一橋侯ソノ人ナルベシ 仙台薩土越前尾州等同意ノ模様 京都守護ノコト他国内体制蝦夷地経営意見
- 3 慶応 元年 五月 七日 長州ノコト三士ノ首ヲ得ルニ五〇万ノ勢ヲ出ス不可解 本首ヲ抑エテサッパリ跡片付スレバ進發ナドト 脅ス要モナシ 世上空言多シ兵庫開港ハデマ 水藩京都ヘ流言ノ模様 小倉藩徳田某往訪ノコト
- 4 年 一月二九日 贈品添書
- 5 年 四月 五日 忤厄介拝謝 江戸近郷浪人屯集 取締リ人数差出シタトカソノ後不明 御地オ分リナレバオ聞カセ乞ウ
- 6 年 四月二〇日 島田芳造参上 右二付本人並ニ六郎ヨリ申上グベシ 忤六郎今治水練ノコト
- 7 年 月一六日 伊達槍九郎死去通知 主人家若死ノコト

• 一一三、植松直久

- 1 明治 元年 二月 九日 大阪市政新官ノ裁判処宇和島侯任ズ 鎮台醍醐宮鎮撫ハ薩長ニ重胡服洋銃ヲトル 堺ハ弊藩 昨一五日仏人乱暴市人報ズ 戦士死者三行方不明六天朝ニ急報ノトコロ自裁ニ委サレ諸藩傍觀 大事ハ合議説行ワレザルニアリ 二藩ノ尊王粉飾ノミ 建武覆轍ヲ見シ 薩藩有川七之介 今上浪花行幸ノウワサ
- 2 明治 元年 二月二八日 有川七之介ヘ面会 有川上京命ゼラレ紛冗中合議説一冊贈呈 弊藩五藤平六合議説ニ感服 老寡君ヘ呈シタキ旨許容願ウ 伏見戦争会桑討伐ノ勅命アルトハ列席ノ寡君知ラズ 宇和島侯ヨリ聞ケリト 多額ノ御用金大内裏造宮費借上ゲトノコト 緒方郁造
- 3 明治一〇年 五月 七日 三月二三日植木口大進撃 熊本城連絡御船進撃ヲ觀 鹿児島上陸日夜羽檄ヲ草ス 当城人氣悪シ西郷アルヲ知り朝廷アルヲ知ラズ頑愚甚シ 連夜賊徒襲撃アルモ撃退 必死ノ賊文明ノ軍ニ敵シ得ズ 彼ノ言泰西兵制ノ妙ヲ知ル
- 4 明治一〇年 六月 四日 馬越恭平鹿児島ニ来リ面会 今回ノ戦状ハ新聞記者描出更ニ肇ヲ要セズ 熊本城中ヨリ奥少佐一大隊賊軍突破 川尻ニテ父老迎エ子弟ノ安否ヲ問ウ 死スルヲ聞ケバ御奉公ヲ済セリトコノ一言民権ヲ振起スルニ足ル 兵士ハ土民ヨリナリ土族ノ薩賊ヲシテ舌ヲ卷カシム コノ徒民権ヲ主唱スル時ハ天下誰カ従ワザル 土族ノ民権論ハ真誠ノ民権論ニ非ズ 高知県暴徒ノウワサ 福岡孝弟
- 5 明治一〇年 九月一四日 虎列刺病備中ニモ蔓延 自分發議ニテ戸長及正副議長等組織ノ衛生会開キ対策協議 官ノ説諭ヨリ一〇倍ノ実効ヲ拳ゲ捐金千五百円ヲ得ル 先生及比岩崎内務省転任ノ由報知願ウ

- 一一四、宇都宮清記号、竜山原姓名、原田宗弥新谷藩士
 - 1 慶応元年二月二八日 貴家入塾希望山本鹿之助紹介 征長一件平穩二済ミ恐悦
 - 2 年八月二四日 超順紹介 コノ人松前ノ僧儒学篤志ニテ貴塾ヘ留学希望 ヨロシク依頼ス
 - 3 年一〇月二二日 超順僧ノ来書落手 高作二篇投示感吟
- 一一五、鷺津宣光号、毅堂名古屋藩儒
 - 1 明治一三年十一月一六日 礼状
 - 2 明治年月日 (社中諸君宛) 碑文草稿廻送添書
- 一一六、山田安五郎号、方谷備中松山藩儒
 - 1 年月日 在京文左上門ヘ医業才勸メノヨシ 角田君ヨリモ同様訓誘アレド同人決心不能 右ニ付両君ヨリ花堂ヘ示談願イクレトノ頼ミ (後文欠)
- 一一七、山成哲造
 - 1 慶応三年三月九日 天野着府 新將軍大見識大活眼ニテ民部公子仏国ヘ差遣 自分洋学仏国ノ制度学志望 都下ニ師乏シク閉口 英学ハ浮躁ニ属スルヨシ 森下洋学志望ニテ出府仏学ヲ勸メ村上塾入塾 古賀夫子朝鮮使節拜命 朝鮮風評 去冬土寇ノ禍免レ大慶 馬越元育
 - 2 慶応三年一〇月二七日 少貞消息 自分洋学入塾ノ件 京師ノ变革驚愕 当地日々総登城 旗下一同今日ノコト薩長土ノ計策 三藩相手戦争ノ意気込ミ 遊治士モ奮発 英吉利幕ヲ見限り大諸侯ニ政権ヲ執ラセル説 法朗西ハ幕府輔佐交際ノ義ニテ長袖明キ盲ヲイジメ 古賀夫子モ大評定ニ付上京ノ命 吉木順吉
- 一一八、横山権三郎
 - 1 年四月一九日 中村東一郎貴塾才世話願イタシ
- 一一九、四屋恒之号、穗峰日向延岡藩士 修史館編修官
 - 1 明治一三年六月二日 編著本朝政体出版 一部献呈
 - 2 年五月一三日 桐坪登仙愕然 令嫡坂田君出坂拜晤 従弟ゴ厄介ヨロシク鞭撻願ウ
 - 3 明治年七月一三日 過日来宅ノ節ハ他行中ニテ失礼 近来脚疾ニテ疎潤 望月ノ会集例ノ通りナルヤ
 - 4 明治年十一月二日 才問イ合セノ件同僚ニモ尋ネタレド不明 何書ニアルヤ垂示願ウ
- 一二〇、財津吉一 高鍋藩儒
 - 1 明治年七月一八日 礼状 贈品添書
 - 2 明治年十一月一九日 贈物添書
- 一二一、財津吉郎
 - 1 年六月一七日 (阪谷・岡田宛) ■庵先生健勝恐悦 野生浪華ヘ再遊篠崎塾ヘ寄宿 遠藤ヨリ塾中ノコト伝聞 当地学問不振東遊計画 辺海英船来航ノ趣ナレド退去畏ルルニ足ラズ
- 一二二、十文字好古号、栗軒仙台ノ人
 - 1 明治年八月二二日 平塚栄蔵御地遊学希望 先生ノ塾希望ナレド不可ナレバ河田先生ナリ周旋願ウ
- 一二三、黄遵憲
 - 1 光緒六年三月五日 「日本雜事詩」一冊贈呈

• 一二四、林雲達

- 1 一八六四年一月一七日 一昨日久郷先生来訪 足下ノ書並ニ佳章拝誦 敵国近状去秋南京克復 渠魁ヲ■セドモ余党福建ニ竄入
- 2 一八六七年 四月 四日 先哲像伝ニヨレバ諸家著述少カラズ 之ヲ坊間ニ求ムルモ得ズ 数種拝閲ヲ得タシ
- 3 一八六八年 五月一二日 覆書并ニ佳章拝受 貴邦先哲著書数種入手 配慮ヲ煩ワスニ及バズ 詩三首
- 4 年 七月一九日 承問ノ毛賊一件江南恢復 余党四竄張国梁戦没 曾国藩大師タリ南京克復 僧格林沁 沈葆貞他称呼
- 5 年月日 消息

• 一二五、不明

- 1 嘉永 四年十一月二三日 笛浦突然来訪往事談 養生勇々出坂ノヨシ来月帰国ト 遠藤源蔵墓碑下書差上グベキトコロ遅延今便呈 上 道光帝■
- 2 安政 元年一〇月 六日 (衛署名) 江木へ小生病気オ尋ネ拝謝 先月一八日魯船天保山へ渡来 諸人胆ヲ潰シ安治川へ夷人バツ テイラ漕寄セ上陸 官吏走り本船へ戻ス 市中所在ノ諸藩出張陣取り 見物厳禁夷船一昨四日出船
- 3 安政 六年十一月 一日 先達テ拙集呈上丁寧ノ仰セ汗顔 二九部代金落手 東方大獄頼三樹死罪 梅田病死他十数人七分ハ浮躁博 名ノ徒三樹モソノ一人カ
- 4 万延 元年閏三月二五日 過刻ハ厚待拝謝 来臨願イタルトコロオ使イ遣ワサレ恐縮
- 5 文久 三年 四月 五日 (章署名) 昨年来西遊 九州騒然ナルベシ 巖島ノ一奇事捧腹 支那長毛賊南京割拠実否如何
- 6 慶応 元年 四月一四日 (靖宛 筆者叢力) 長州一条切迫 唐津大野生ノ話ニイウ 一五日呼出シノ達書芸へ渡シ 芸三〇日マデ猶 予申出 小笠侯拒否ニ一日ニ決定 彼出芸セズバ大小鑿察率兵入長予定 芸州三〇日申出ハ恐怖ヨリ世子又ハ辻将曹上坂 事起レ バ自家大變トノ因循ヨリ 芸ノ野村帯刀台命ニヨリ謹ミ 理由不明ナレド処置朝意ニ違ウナド申触シタルヨシ
- 7 慶応 元年一二月一〇日 天下ノ形勢混沌 兵庫開鎖モ大モツレ 井上河州復職長征ノ供ニテ上坂ノ命 外秋月・松平・稲葉・棚 倉モ復職 籠城此節官馬不足ノタメ紛糾トカ 藩辱ナリ
- 8 明治 三年 二月 日 徳島知事公建白及ビ久留米藩人書簡供覧 薩ノ建言大意
- 9 明治 七年 八月一七日 (正道署名) 都下ノ動静不明焦心 台湾ノコト廟議如何 大久保公使派遣ナラデハ発表ナキカ 御政体実 況不明朝令暮改民ノ疑惑増長 今日ノ令頑固輩己ガ意ニ附会 民選議院必要ナランカ明六中津田説感伏 二位殿動静関心 好良ニ 者アルヲ諷諭願ウ
- 10 明治一〇年 六月二〇日 (英舜署名) 香料拝受 身上身辺報告
- 11 明治一〇年 九月 五日 (重正署名) 本県令明治詩文へ加入ノ件 催促アリ令公へ伝達 関君碑文ノ外ニ傑作アル積リナレバ調 査回答スベシトナリ 過日上京ニツキ相談願イタキ旨令公へ書通セリ
- 12 明治 年 七月一二日 (重克署名) 先達滞留中ハ厄介多謝 無事帰京
- 13 明治 年一〇月 五日 (重範署名) 明後來訪拝承 三島差支エナケレバ呼ブベシ
- 14 明治 年一二月二一日 (山田署名) モチモチノ高作拝誦唱和
- 15 明治 年月 日 (鈍署名) ゴ転居通知拝承宮原へモ通知セリ 宮原家消息新文詩ノコト早速森翁へオ掛ケ合イ吉村老圃ヨリ報 知 一同草稿サシ出ス予定ナリ
- 16 明治 年月 日 (前文欠) 英人評シテ大鳥・榎本日本ニテソノ胆略ヲ用ウベキ所ナシ 大鳥等蝦夷ニテ開拓且戦争ノ資金仏ヨ リ借り催促ヲ受ケ榎本曰ク我等脱走人一身ノ外資ナシ 償金ナシ何ヲ目的ニ金ヲ貸シタルカト
- 17 年 二月 三日 興民病氣ニテ帰郷 兄寓居立寄ランヨロシク 遠藤源蔵墓石ノコト 速水純兄死去 謹堂先生ヨリ東都へ参ルヨウ 伝声ナリ 浪華遊ハ止メニシテ当地へ参ラレタシ
- 18 年 二月一四日 (衛署名) 客臘三島ヨリ草稿ヲ送り越シ 老兄へ差廻ス予定ノト言肥後書生水鳥三平田辺俳個ノ後來阪 三島

ノ下田紀行借り受け謄写ノ由 返戻未ダシ同人佐久間修理トモ懇意 海防ノ論モ実歴ノ説ニツキ優待コノ始末 廻達遅レテ承願ウ

- 19年 四月 八日 (泥亀署名) 雲崖伊勢詣リ帰宅後熱病他界 墓銘拜見悲泣
 - 20年 四月一三日 (靖署名) 鹿之介本日出発ヨロシク教導ヲ願ウ
 - 21年 四月二四日 (約署名) 火事場ノ絵図及ビ顛末報知近來ノ大火トイウベシ 為替金子才受取り箕作ヘオ廻シ拜謝 左伝雜説ノ義委細承知高沢ヘモ申送ル 老兄帰省弊郷ヘオ寄り願イタシ 玉置元四郎
 - 22年 五月一五日 (昌谷先生宛 為三郎署名) 始メテ拜顔失礼 厚情ニヨリ森田子ヘ面話奇策ヲ得 京師ヘ出テ東海ニテ朋友ニ会イ 東都動静ヲ詳悉 別紙仰出アリコノ上ハ改復ヲ祈ルノミ ヨツテ帰予予定ノトコロ風邪 只今玉嶋立寄り取急ギ書中御礼
 - 23年 六月二二日 (幾三郎署名) 身辺消息
 - 24年 六月二四日 (衛署名) 子供才世話拜謝 暑中見舞マデ革文庫贈呈
 - 25年 八月一八日 (柴原順次宛) 重夫罷出懇志ニアズカリ拜謝 高作拜受維月帖書加エントセシトコロ 友人曰ク折角ノコト直筆願ウベシト
 - 26年 八月二四日 (鈍署名) 竹外翁遺稿ノ序送付拜謝 近日ノ内ヒ梓セン 江木先生草稿落手ヨロシクオ伝工願ウ
 - 27年 九月一一日 (署名・宛名欠) 小生備中ニテ事ヲ成シタル証 先生ノ文章ヲ得レバ世人ヲ納得サスコトヲ得ン 一文ノオ恵ミヲ願ウ
 - 28年一〇月二二日 近火見舞拜謝近作二首痛正乞ウ
 - 29年一〇月二三日 石原生帰省近況伝承 久シク疎濶拙詠綴リ石生ニ托シ供覧 弊藩ヨリ多人数罷出テヨロシク
 - 30年一一月 七日 (約署名) 遊歴中路次ノコトハ前便ニテオシラセ省略 山田ヘノ転書松山ヘハ寄ラズ返却福山ニ三宿 送別ノ文章未ダ不着鶴首相待チオリ 帰着後多忙ヲ極ム
 - 31年一一月 二五日 (衛署名) 貴稿三島ヨリ交附 貴意ニヨリ批評一二加エ三島書翰共送付 本月廿日久宝寺町ヨリ出火 緒方郁蔵丸焼ケ苦心ノ著述烏有ニ帰ストカ 辰年ノ朝鮮來聴ハ浪華ト決マリ旅館等経営ノトコロ西城焼失ニテ見合セトノ台命 文章軌範彙評ノコト
 - 32年一一月 二八日 (敬署名) 西遊ノ節ハ拜眉厄介拜謝 崎陽ヨリ九州各地巡遊 佐賀関ヨリ四国ヘ渡リ高松ヨリ九月大阪蔵屋敷歸着 佩川翁中風ニテ面会セズ
 - 33年一二月 三日 (柴原宛 葭洲生署名) 来訪日時連絡
 - 34年 月二四日 (鈍署名) 江木先生跋文板書出来 印章頂キタク伝言請ウ
 - 35年 月 日 江木違約失望 天神下觀楓羨シ高作感吟 コノ節市中獸肉沢山日々小酌一訪ヲ待ツ コノ間奇物ヲ入手一八陶淵明図一ハ硯拙齋ノ書付アリ 送訪ノ折供覧スベシ
 - 36年 月 日 節翁一条直談クダサレ拜謝 コレヨリ真ノ文章姫路ニ見ル得ルト校中ノ書生喜ベリ 山寮ハ頼翁ノ旧寓台所浴室皆備ワリ塾生ニ米塩ノ世話ヲサセルコトトナサン 今一応節翁ニ相談クダサレタシ 姫藩渡部圭助ノコト (後文欠)
- 一二五A 諸家書翰 (平成六年六月浅倉屋より購入) 一卷
 - 1. 後藤機
 - 2. 落合敬助
 - 3. 江木繁太郎
 - 4. 広瀬孝之介
 - 5. 草場五郎
 - 6. 南摩綱紀
 - 7. 河野絢夫
 - 8. 柴六衛

- 9. 橋本平町
- 10. 広井少吉
- 11. 村上剛
- 12. 中村静一郎
- 13. 尾池亨平
- 14. 小寺国重
- 15. 宮原寿三郎
- 16. 木下真太郎
- 17. 野田希一
- 18. 希八郎（阪谷 朗廬）

書類の部

- 一二六、政治

- 1 本佐録 本多正信 墨書 一冊
- 2 鄭艸 加藤誠之〔弘之〕 文久元年一二月七日識 写 墨書 一綴
- 3 御諭一道 文久二年 墨書 一綴 公卿百官ニ対スル諭告 九月一七日謄写 大草鬯
- 4 諭告 断片 活版 一枚
- 5 上意 文久二年六月一日 墨書 一通 將軍朝朝シテ官武一途国威振張ノ大策ヲ述ブ
- 6 文久二年五月老中達 墨書 一綴
- 7 哀翰並ニ將軍家茂御請書 写 元治元年一月 墨書 一通
- 8 慶応二年幕府達 墨書 一通
- 9 王政復古大号令 写 慶応三年一二月一三日 墨書 一通 付、備中備後幕領追討御沙汰、追放諸藩幕臣名
- 10 三職補任書留 慶応三年一二月 墨書 一通
- 11 御誓文私解 墨書 一綴 五ヶ条御誓文 阪谷素義解
- 12 檄文 徳川脱走浪人共 慶応四年四月 墨書 一通
- 13 大政奉還後朝廷諮問ニ対スル諸侯奉答 慶応三年一〇月 墨書 一綴
- 14 徳川慶喜追討令 明治元年一月七日 墨書 一枚

- 一二七、新政

- 1 政体 太政官 慶応四年閏四月 木版 一綴 村上勘兵衛・井上治兵衛版
- 2 中外新聞 25号 慶応四年閏四月一六日 活版 一綴 浪華行在所ニテ仰出ノ書 陸奥宗光辞表
- 3 三職分課 明治元年一月一七日任命 墨書 一通
- 4 公議所法則案 明治元年一二月 活版 一綴
- 5 詔書 写 明治二年六月二日 墨書 一枚
- 6 官制案 墨書 一綴 明治三年頃官制案
- 7 全国一致ノ体ヲ論スル議 大隈参議 明治三年七月 墨書 一綴 財政會計ノ策
- 8 島津久光勅命答書 写 明治四年二月 墨書 一通
- 9 鹿兒島県知事島津忠義弁官宛書翰 明治四年三月三日 墨書 一通 実父久光病氣上京猶予願（書翰写）

- 10 エツチ、ジー、ドン意見書 明治四年五月一〇日 墨書 一綴 殖産興業意見、H. G. ドン来日米人ナルベシ
- 11 西郷隆盛書翰写 明治四年七月一〇日 墨書 一綴 桂四郎宛 明治四年六月参議変革ニツキ通報
- 12 官員中御不審預ケ人 明治四年 墨書 一通 首謀丸山作楽征韓論事件
- 13 政教管見 阪谷希八郎 明治五年五月 墨書 一綴
- 14 地所売買規則抜 明治七年、八年 墨書 一枚 地所売買二関シ地券ノ件
- 15 太政官達第百十九号 明治八年七月七日 墨書 一枚 官吏ノ新聞雑誌へ政務叙述ヲ禁ズ
- 16 島津久光上書 明治八年一〇月一九日 墨書 一綴 三条実美効奏
- 17 徴兵令参考第二〇条 明治八年一二月 墨書 一通 外国語学習生免役ノコト
- 18 立憲国会是非箇条 墨書 一通

• 一二八、建言

- 1 救荒策意見書 林富太郎宛 文久元年二月 墨書 一綴
- 2 建白書 慶応四年二月五日 墨書 一綴 合議立国ノ建言
- 3 合議説 阪谷希八郎 慶応四年二月五日 墨書 一綴 一和新政合議局ノ設立ヲ建言
- 4 〔金銀合議局設立建言〕 明治元年一月 墨書 一綴
- 5 献金扶持ノ義建言 草稿 明治二年一二月二六日 墨書 一通
- 6 論封建郡県 明治三年 墨書 一綴
- 7 高知藩建白写 明治三年 墨書 一綴
- 8 薩藩西郷氏論説建議 明治四年三月 墨書 一綴
- 9 京都府建言書 辛未三月中浣写 明治四年 墨書 一綴
- 10 或官員建白 明治四年 墨書 一綴 建白三条 他高松藩、名古屋藩、丸亀藩、上田藩伺
- 11 御利益見込書 文部省八等出仕 阪谷素 明治七年二月七日 墨書 一綴 左院建白
- 12 国家ノ急務建言 阪谷素 明治七年 墨書 一綴

• 一二九、国勢

- 1 新製輿地全図 箕作省吾 弘化元年 一卷
- 2 大中小藩現石調 辛未三月 明治四年 墨書 一綴
- 3 日本全国 明治六年 墨書 太政官野紙 一綴 国勢概略
- 4 日本沿革略説稿（初編） 明治六年 墨書 太政官野紙 一綴
- 5 日本沿革略説（二稿） 明治六年 墨書 一綴
- 6 日本国郡沿革総論稿（三稿） 明治六年 墨書 太政官野紙 一綴
- 7 日本国郡沿革総論 四稿 明治六年 墨書 太政官野紙 一綴
- 8 日本国土沿革略説（五稿） 明治六年 墨書・朱書 一綴
- 9 日本国勢沿革略説 阪谷素稿 明治六年七月再訂 墨書 一綴

• 一三〇、時務

- 1 急務策一則（写） 吉田寅次郎 嘉永六年 墨書 一綴
- 2 田舎ばなし 文久二年七月 墨書 一綴 時局論
- 3 諸藩ノ向背ヲ論ズ 墨書 一通 論者勤王家 慶応年間 朗廬筆
- 4 日野大納言直書 慶応三年一二月 墨書 一通 毛利父子官位復旧 旧典復古 人心一和ノコト

• 一三一、時事

- 1 内山彦四郎（大坂町奉行与力）天誅状 墨書 一通 内山八大塩ノ乱関与者
- 2 長谷川作十郎一水戸藩士一書翰写 文久三年九月一〇日 墨書 一通 原市之進・野村鼻之介宛 横浜鎖港問題一橋慶喜進退 幕閣動静
- 3 各藩藩情風評 墨書 一綴
- 4 評判記 元治元年 墨書 一通 風説 島津三郎朝政参預 大和ノ変後日話 長州攘夷等
- 5 武田耕雲齋一党始末 元治元年一二月 墨書 一通
- 6 高間省三勲功録 写 明治元年 墨書 一通 慶応四年六月奥州相馬口戦死 感状 野村帯刀書状
- 7 大阪府触達 明治元年六月四日 墨書 一通 徳川亀之介 一橋大納言 田安中納言 高家処置 八阪神社号
- 8 時事 明治二一四年 墨書 一通 各省達 西京信報
- 9 時事 一 明治元年 墨書 一枚 征討將軍宮大阪入陣 大阪触書 参与御役所ヨリ達
- 10 時事 二 明治四年 墨書 一通 鶴舞藩郷士帯刀二関シ伺書 秋月藩天野如一商法違犯
- 11 時事 三 明治四年 墨書 一綴 朝鮮問題 久留米藩事件
- 12 明治三、四年時事 写 墨書 一通 四条巡察使 弘前藩伺 広田彦麿 東京府貫属辛株讓渡ノコト 大垣藩兵制
- 13 放屁論 明治三年一一月 墨書 一綴 横山正太郎割腹事件二因ンデ時事ヲ評ス
- 14 風聞書 明治三年 墨書 一通 熊本藩中大混雑 朝職者免職 封建郡県ノ論
- 15 明治四年時事書留 墨書 一通 広島藩贖貨事件 広沢真臣暗殺
- 16 風説 明治四年二月 墨書 一通 尾因備他兵力才召シ 薩長土御親兵 西郷帰帆
- 17 時事 写 明治四年 墨書 一通 巡察使日田県出張ニ付予讚地方警備通達 福島県強訴 大垣支藩野村藩改革賞美 神田鍋町外国人暗殺犯人
- 18 御不二二付御預ケ人名 明治四年三月 墨書 一枚 征韓陰謀
- 19 芝居説 墨書 一通 民選議院説ノ戯評

• 一三二、桜田・坂下門事件

- 1 水戸浪士檄文 万延元年 墨書 一綴 井伊直弼弾劾
- 2 内藤信親・安積祐助問答書 写 万延元年 墨書 一通 桜田異変後水戸・彦根両藩二関スル見解 老中内藤信親へ安積民斎答議
- 3 宥陰潜夫論 塩谷甲蔵 墨書 一綴 桜田志士弁護上書
- 4 桜田門外事変諸家届並二風説書 万延元年三月 墨書 一綴
- 5 斬姦趣意書 文久二年一月 墨書 一綴 安藤信正襲撃坂下門事件

• 一三三、禁門ノ変

- 1 評判記 元治元年八月 墨書 一通 蛤御門ノ变京都巷説
- 2 聞書 元治元年七月 墨書 一綴 蛤御門ノ变
- 3 禁門ノ变関係書留 元治元年六一七月 墨書 一綴
- 4 桑名藩士某書状 元治元年八月 墨書 一通 蛤御門ノ变報知 宛先ヲ逸ス

• 一三四、長州征伐

- 1 征長総督通達 松平〔浅野〕安芸守宛 元治元年一一月 墨書 一通 毛利謝罪コノ上ノ処置協議ノタメ重臣派出ノ通達
- 2 陣中雜記 元治元年一一月一一二月 墨書 一綴 第一次征長 毛利藩謝罪書 幕府側記録
- 3 防長処置將軍奏聞 写 元治元年九月 墨書 一通

- 4 吉川監物歎願書 写 元治元年一〇月二七日、十一月二日 墨書 一通
- 5 毛利父子謝罪始末 元治元年一二月八日 墨書 一通
- 6 薩・備建白、征長攻口、東浪新聞 元治元年八月 墨書 一綴 長州処分建白 征長攻口分担 筑波山拳兵聞書
- 7 元治元年時事聞書 墨書 一通 第一次征長
- 8 風聞書 慶応元年一二月 墨書 一綴 長州再征

• 一三五、聞書・書留

- 1 覚どめ 墨書 一綴 嘉永六年浦賀表聞書 征長他事件記録 航西小記附録 慶応二年記事
- 2 聞書 四 墨書 一綴 嘉永六年徳川斎昭参与 アメリカ国書 上意達書 福山藩触書
- 3 戊午大獄関係書留 安政五年 墨書 一通
- 4 文久元年聞書 墨書 一枚 異人浜御殿宿泊 魯艦対馬來泊
- 5 六月中見聞書 文久元年 墨書 一綴 シーボルト 東禅寺討入 外国行人選 口船対州渡來
- 6 聞書 文久一、二年 墨書 一通 毛利・久世対談 長井東上 寺田屋事件
- 7 文久二年時事書留 墨書 一綴 英行（竹内使節）随行者書翰写 諸国出奔者調
- 8 風聞書・噂物語 文久二年 墨書 一綴 京都所司代屋敷ヲ浪人襲撃 京都風聞
- 9 京都風説 文久二年五月 墨書 一通 松平容保・松平春岳へ達 勅使差遣
- 10 文久二年聞書 墨書 一通 閣老消息 府下横浜情勢 大橋順蔵吟味（四月）
- 11 江戸状 文久三年五月二四日 墨書 一通 公方様上京滞城 太田閣老再勤 生麦償金五〇万ドル
- 12 但州生野代官元締武井正三郎ヨリ聞取大略 文久三年一〇月 墨書 一綴 生野ノ変一条 大和拳兵一党姓名
- 13 和州浪士一揆探索略記 文久三年八月 墨書 一綴 天誅組拳兵經過
- 14 文久三年聞書 墨書 一綴 南山城薪木村潜居人名 外国事情 千種家投文 江戸玉葉蔵襲撃
- 15 聞書 三 元治元年一二月 墨書 一綴 武田耕雲齋等西上駅々報告
- 16 都の便り 墨書 一綴 長州奇兵隊幕府呈出書（慶応元年） 尾州公建白（慶応元年六月） 幕府御請（元治元年） 仏公使口達書（慶応元年九月一九日）
- 17 聞書 五 慶応二年四月 墨書 一綴 元奇兵隊士倉敷代官所襲撃事件詳報
- 18 第二奇兵隊倉敷事件書留 慶応二年四月一七日 墨書 一通 浪士始末 付、高札写 一通
- 19 作州一揆風聞書 慶応三年二月 墨書 一通
- 20 田舎風聞書 慶応三年二月 墨書 一綴 慶応二年末作州一挺
- 21 慶応三年達 写 慶応三年五月 墨書 一通 長防処置 兵庫開港
- 22 浪士書付 慶応三年八月 墨書 一通 斬姦状（原市之進・梅沢孫三郎） 鈴木直太郎外二名
- 23 聞書 一 慶応三年一〇月一三日 墨書 一綴 大政奉還諮問案
- 24 薩人贖金買集メ事件聞書 明治元年 墨書 一枚
- 25 明治四年時事書留 一 墨書 一綴 熊本藩知事公上書 米利堅在留ノ人ヨリ報告 普仏戦後ノ欧州情勢 国内各地聞書
- 26 明治四年時事書留 二 墨書 一綴 鳥取藩知事建白写 大垣藩知事航海願 官談ノ席ニテ承リ候極秘 菊間藩届 辛未春御改（国勢）
- 27 明治四年時事書留 三 墨書 一綴 母里藩宣教掛答議 菊間藩届 与板藩願 斗南藩農具借用依頼 独乙留学生佐藤進書翰書拔

• 一三六、久留米事件

- 1 江口瀬兵衛密書 明治三年一二月一七日 墨書 一綴 広田彦磨宛 久留米藩内情勢 大楽源太郎（付） 蜂須賀茂記建白 明治四年一

月

- 2 山口藩上書 写 明治四年一月 墨書 一通 脱隊残党〔大楽源太郎〕二対スル処置願
- 3 高良山御本堂御吟味 米藩小川訪八 明治四年三月二五日 墨書 一綴 大楽源太郎謀殺一件
- 4 久留米藩地秘書 幸未五月中流写 明治四年 墨書 一綴
- 5 間書 明治四年 墨書 一通 大楽源太郎一件 他
- 6 新聞 明治四年 墨書 一綴 外山光輔申口

• 一三七、張札類

- 1 瓦版 嘉永七年六月 木版 一枚 「孝行処女末代噺」
- 2 アホダラ経 東禅寺討入人名 文久元年 墨書 一通
- 3 足利將軍木像梟首事件 文久三年二月二三日 墨書 一綴 張札並二京都守護職触書
- 4 三条大橋張札 写 文久三年四月一七日 墨書 一通
- 5 張札 写 文久三年五月 墨書 一綴 生麦事件賠償金二関スル落札
- 6 京坂罪札・張札 写 文久三年七・八月 墨書 一通
- 7 京都三条大橋制札 写 元治元年七月 墨書 一通
- 8 元治元年一京・大坂一張紙 墨書 一通 島津三郎好謀 横浜伊勢屋平兵衛梟首
- 9 三条大橋目安箱投文 写 明治元年三月一五日 墨書 一通 当路者月旦
- 10 福山松本某狂歌 墨書 一枚
- 11 巷間流説戯句 墨書 一綴

• 広島藩関係

○ 一三八、藩政一般

- 1 広島藩版籍奉還ノ達書 明治二年八月一一日 墨書 一通
- 2 版籍奉還ニ際シ藩主直書案 明治二年 墨書 一綴
- 3 揭示 明治二年一月 墨書 一綴 浅野長訓・長勲名
- 4 頭書 明治二年 墨書 一通 新藩政
- 5 新藩政意見 明治二年 墨書 一通
- 6 口上 阪谷希八郎 明治二年 墨書 一通 旧藩知事処遇意見
- 7 藩中官員之義ニ付伺 明治三年 墨書 一通 藩中官員ノ格付呼称ニツキ伺案
- 8 浅野家歴代戒名 墨書 一通
- 9 職制階級（幕末期） 広島藩 墨書 一通

○ 一三九、建言

- 1 藩政上書 明治二年一月一五日 墨書 一通 前文欠
- 2 藩新政意見書草稿（不完） 明治二年 墨書 一綴
- 3 新藩制・職名意見 明治二年八月五日 墨書 一通
- 4 役給勤中ノ事 阪谷希八郎 明治二年 墨書 一通 藩政建言書案 広島藩客士就任直後力
- 5 愚存党 阪谷希八郎 明治二年 墨書 一通 芸藩三原・吉田兩地士・卒族処置意見
- 6 御臨席之義ニ奉申上候 阪谷希八郎 墨書 一通 君臣情義ニ関シ建言案
- 7 上書案 阪谷希八郎 明治二年 墨書 一通 二万俵文学諸学費用案
- 8 巳七月廿三日差出書 明治二年 墨書 一綴 會議制 財政確立建言

- 9 愚案 明治二年八月七日 墨書 一通 減祿打消シノ布告 藩札処置 版籍奉還ノ直書
- 10 愚存 阪谷希八郎 明治三年三月 墨書 一通 藩財政 三原・吉田・志和教学建言
- 一四〇、藩財政
 - 1 藩財政改革意見 明治 年 墨書 一通
 - 2 愚案一条 明治二年一〇月 墨書 一通 公祿・藩祿調整意見
 - 3 意見書 阪谷希八郎 明治二年一〇月九日 墨書 一通 秩祿大参事以下祿高ニツイテ
 - 4 一顰一笑 明治二年墨書 一通 藩財政改革意見
 - 5 藩財政図面 墨書 一枚
 - 6 歎願 阪谷希八郎 明治二年一二月一八日 墨書 一通 当秋凶荒二付祿米三百俵中百俵窮民救米へ差出シ願
 - 7 愚存 阪谷希八郎 明治二年一二月一九日 墨書 一通 家祿 新処置案
 - 8 愚存 阪谷希八郎 明治三年 墨書 一通 藩財政意見
 - 9 減祿之義二付達書 案 明治二年 墨書 一綴 版籍奉還後ノ献祿施行ニアタリ布告案
 - 10 藩財政意見 阪谷希八郎 明治三年 墨書 一通 金銀札対策
 - 11 議案 阪谷希八郎 明治三年 墨書 一通 級職秩祿改定二付意見
 - 12 級職活用定案 明治三年 墨書 一通 新藩制案
- 一四一、藩議院
 - 1 議事規則案 広島藩 明治二年一二月 活版 一冊
 - 2 一二月二日發出議案 明治二年一二月 墨書 一通 広島藩議院規則案
 - 3 集議規則案 阪谷希八郎 明治二年一二月 墨書 一綴
 - 4 議案年齢ヲ以テ職ヲ命スル事問題士族実名ノ事 明治二年墨書 一綴 広島藩議事々項ナルベシ
- 一四二、藩学政
 - 1 皇学教授之順次 末田麗蔵 明治二年一二月 墨書 一綴 教授方ニ村田為蔵ヲ擬ス 村田為蔵（良穂） 広島藩国学者 広島藩国学教授案ナラン
 - 2 学政意見草稿 明治二年 墨書 一通 芸州藩新学政
 - 3 学政委任ニツキ上言案 明治二年 墨書 一通
 - 4 学政大意 阪谷素 明治二年 墨書 一綴 広島藩新学政案 堀正綱評
 - 5 学政改革下付ノ直書ニツイテ 明治二年 墨書 一通 浅野支藩力
 - 6 三家遊学意見書（広島藩） 明治二年 墨書 一通
 - 7 三原教員名簿 明治二年 墨書 一通
 - 8 学制ニツキ建白書 阪谷希八郎 明治三年一〇月 墨書 一綴
 - 9 代舌 阪谷希八郎 明治三年 墨書 一通 文武学政會議下書キ筆記ノ心得ヲ陳ズ
- 一四二、諸藩
 - 1 津侯御建議御密呈之写 文久二年六月九日 墨書 一綴 藤堂高猷建議
 - 2 備前様ヨリ幕府へ申上写 文久三年六月一日 墨書 一通 攘夷実行アルベキコト
 - 3 杉山羽左衛門令達書写 元治元年一二月五日 墨書 一通 藩（尾張藩力）内達書
 - 4 備前藩布告 慶応四年一二月 墨書 一通
 - 5 防州侯留守中市中へ御達 一二月二日 墨書 一綴
 - 6 山陽道取調達写 備前・芸州へ及ビ新見・浅尾藩へ 明治元年一月・二月 墨書 一通

- 7 備前役所松山領分触書 写 明治元年一月 墨書 一通
- 8 静岡県布告 学校掛 明治二年 墨書 一綴 徳川家達告示
- 9 紀州藩情報 明治二年四月九日 墨書 一枚
- 10 丸岡藩士肥大参事所論 明治四年 墨書 一綴 兵農合一論 丸亀藩大参事土肥実光二非ザルカ
- 11 革政大意布演 米沢藩 明治四年 墨書 一綴
- 12 刈屋藩知事歎願書他 辛未五月中浣写 明治四年四月
- 13 米沢藩中諭告文 明治四年六月 墨書 一綴 版籍奉還四民平均ノ新政諭告

○ 一四四、外交

- 1 前年答魯西亜書 文化二年 墨書 一綴 第二回遣日露使節（レザノフ）ヘノ返書
- 2 和蘭国王親書一件 弘化二年六月一日 墨書 一綴 老中連署返書 カピタン論書 貢物目録
- 3 アメリカ船浦賀渡来聞書 嘉永六年六月 墨書 一綴
- 4 米国大統領信書並ニペルリ書翰和解 嘉永六年六月 墨書 一綴
- 5 内秘探索書 嘉永六年六月三日 墨書 一綴 ペリー来航応接次第
- 6 長崎奉行手附ヨリ差出候書付写 嘉永六年七月 墨書 一綴 露国使節プチャーチン長崎来航ノ際大井三郎助他二名上書 写
- 7 魯西亜船応接馬場五郎左衛門聞書 嘉永六年七月 墨書 一綴 露使節プチャーチン長崎来航応接一件
- 8 露国国書ヘノ幕府返書（漢文） 嘉永六年一〇月一五日 墨書 一綴
- 9 擬諭俄羅斯王詔 嘉永六年 墨書 一綴
- 10 魯西亜人クシユンコタン遺文 安政元年 墨書 一綴 プチャチン再来航筒井・川路宛提出書状写
- 11 日魯和親条約条文 写 安政元年一二月二日 墨書 一綴 筒井政憲・川路聖謨トプチャーチン協商
- 12 欠
- 13 米船再渡来城中心得老中布告 安政元年一月 墨書 一通
- 14 金川游记 安政元年 墨書 一綴 ペリー神奈川応接第三回会商以後見聞記（付）羅森筆語對話録
- 15 此度夷情切迫之儀ニ付存寄申上候次第 安政四年 墨書 一綴 ハリス上府ヲ前ニ朝廷筋ヘノ建言
- 16 英公使ハルクス・板倉伊賀守応接次第 慶応三年 墨書 一通
- 17 蘭語貢市通絶始末 塩谷世弘 墨書 一綴（付）言買舶事書
- 18 外国トノ和親公布 写 明治元年一月一七日 墨書 一通
- 19 外国交際之儀ニ付問題四条 外国官 明治二年 墨書 一綴 外債・通貨問題
- 20 薩藩折田氏記録 明治三年一月二日 墨書 一綴 折田年秀離日飼剛使ロウレイロニ日本観ヲ聞ク
- 21 普仏交戦局外中立保持条々 太政官 明治三年七月 墨書 一綴
- 22 木戸孝允上書 三条太政大臣宛 写 明治八年一〇月五日 墨書 一綴 江華島事件処理ニ対シ自ラ衝ニ当ランコトヲ上申

○ 一四五、海防

- 1 海防書類 一 墨書 一綴 弘化三・嘉永二海警関係書類写 朗廬写
- 2 海防書類 二 墨書 一綴 「海防八策」佐久間修理 天保一三年一二月 「海防策」山鹿素水 嘉永二年五月
- 3 夷狄を近付ヘからさる事 徳川斉昭 墨書 一綴 付、嘉永二年筒井紀伊守上書 海防掛目付進達
- 4 海防書類 墨書 一綴 「御戒策」安積信 「審夷情」他 「献芹微衷」 「海防策第一」赤井巖三
- 5 海防策 墨書 一綴 一一五漢文
- 6 海防問答・泰西録話 墨書 一綴

7 問策 失名氏 墨書 一綴 外夷対策

- 8 露土戦争戦報 嘉永六年一〇月三〇日 墨書 一通
- 9 探辺日録 三島毅 安政元年 写 墨書 一綴 ペリー浦賀再航探索記
- 10 異国船一条 安政元年二月 墨書 一通 米給与 アメリカへ贈品
- 11 魯船対馬滞泊事件 写 墨書 一枚 宗対馬守稟請三月一四日付 宗対馬守へ指令
- 12 三奉行上書 文久三年五月六日 墨書 一綴 攘夷・鎖港二対スル寺社奉行・町奉行・勘定奉行連署上書
- 13 馬関日記 文久三年五月 墨書 一綴 山口藩英蘭艦攻撃観戦記 筆者不明
- 14 下関砲台蘭艦メチュサ号砲戦 文久三年五月二六日 墨書 一枚
- 15 長州下ノ関戦争新聞 文久三年五月 墨書 一綴 蘭国総領事ポルスブルーク手記 米艦ワイオミング船客ペンス君手記
- 16 薩英戦争一件 文久三年七月 墨書 一綴 英国軍艦乗組水先案内人尋問申口 横浜臨時新聞記事 薩州英船へ返書並二公
辺届書
- 17 薩州戦新聞 墨書 一綴 日本交易新聞 文久三年七月六日、七月一三日記事
- 18 横浜新聞書抜 元治元年八月一八日 墨書 一綴 四国連合艦隊下関砲撃
- 19 別段日刊新聞 墨書 一綴 元治元年八月二二日（一八六四年九月二二日） 神奈川開板写 開成所 下関戦争関係記事
- 20 関東州探索 肝付兼武 慶応元年五月 写 墨書 一綴 樺太・千島・東北・関東・北越各地事情

○ 一四六、外事

- 1 韓賈姜讓漂客於暎夷而寄其故旧書 墨書 一綴 天保九年韓人漂流譚
- 2 土州人漂流記 天保一一年 墨書 一綴 中浜万次郎等漂流記
- 3 外番略表 大概清禎〔西磐〕 写 墨書 一綴 寛永一二年一嘉永六年 外事略表
- 4 唐土風和解 安政元年閏七月 墨書 一綴 太平天国騒乱一条 唐船々主江・楊二氏
- 5 外事風聞 安政三年七月 墨書 一綴 和蘭船風説米船渡来 安中侯（板倉勝明）ヨリ松山侯（板倉勝静）宛書翰抜書
- 6 王干洪（文衡正総裁）檄文 太平天国庚申年（一八六〇）五月 墨書 一綴 一八五九年文衡正総裁洪仁■ 副総裁陳玉
成・蒙徳恩
- 7 支那風説蘭文漢訳 川本裕軒訳 一八五九（安政六）年九月 墨書 一綴
- 8 支那新報 一八六〇年八月二六日付 墨書 一綴 英仏連合軍天津攻撃 太平天国風聞 訳文
- 9 倫敦新聞紙抄訳・蘇州落城達書 万延元年 墨書 一綴 倫敦新聞紙（一八六〇年六月一六日）抄訳 第一回遣米使節華盛
頓着報道（津田真一郎訳） 程家堂談話（太平天国難民）
- 10 太平天国難民間書 万延元年五月五日 墨書 一綴 船主程家堂談
- 11 家原重五郎書翰 写 万延元年二月一五日 墨書 一綴 遣米使節随行ポーハタン号乗組家原重五郎ノホノルル港ヨリノ
書翰
- 12 外事記録 写 墨書 一綴 魯西亜国書 琉球来航船応接 カピタン上申外事私議
- 13 上崎陽鎮台書 徐正邦 墨書 一枚
- 14 洋学洋教問答録 墨書 一通 中国人対談者不明
- 15 中外新報 第一二号写 一八六一年一月一日刊 墨書 一綴 中国各地情報及ビ日本ソノ他国情
- 16 小笠原島在留外国人 文久元年 墨書 一枚
- 17 上海新聞 武富定筆記 明治三年 墨書 一綴 納富良上海再遊帰国談
- 18 在米国長谷川維新書翰写 明治四年五月一日 墨書 一綴 紡績器械所見学 越前藩雇米人教師日本報告 曲馬団 ビスマル
ク 日本評判

一四七、宗教

- 1 安德帝実記 墨書 一綴 摂州能勢郡若宮八幡宮由来
- 2 私葬式 大崎濠平 明治元年九月 墨書 一綴
- 3 皇漢学合併二関シ上書 境栄蔵他二〇名 明治二年九月一七日 墨書 一綴 积典廃止反对意見
- 4 学神壇私議 阪谷希八郎 明治三年 墨書 一綴 内題大中小学神壇建議
- 5 孔子像創設ノ問二答フ 阪谷素 墨書 一綴
- 6 阪谷素意見書 明治一三年五月 墨書 一綴 孔子廟保存
- 7 敬神論稿 墨書 一通
- 8 葬祭考 藤原芳樹述 墨書 一綴 筆者ハ近藤芳樹力
- 9 西学凡 艾儒略 (Giulio Aleni) 墨書 一綴 支儒略著 江戸幕府禁書ノ一
- 10 西学十誠 墨書 一綴 江戸幕府禁書「天主十誠解略 王豊肅著」ト同一カ
- 11 逸題書 墨書 一綴 原題、著者トモ不明 天地創造二起筆 キリスト教史略述 アジア布教太平天国二及ブ 漢文
- 12 擬泰西人上書 明治 年 墨書 一綴 西教解禁ヲ論ズ

○ 一四八、学術・学事

- 1 初学課業 林衡 (述斎) 力 佐藤坦 (一斎) 記 文政四年 墨書 一綴
- 2 忍岡塾規抄録 墨書 一綴 昌平坂学問所忍岡塾
- 3 読書矩・別集摘要 古賀■庵 墨書 一綴
- 4 塾生罪業程課 墨書 一枚
- 5 教訓之状 斎藤馨 [竹堂] 弘化四年一月 墨書 一綴 先主伝家ノ遺誠応囑写贈
- 6 福山藩学制改革告示 明治 年 墨書 一綴 告示 学制論 学則
- 7 会津学校制法 墨書 一綴 日新館 課業次第 考試次第
- 8 徳川家陸軍医学所規則 沼津西ノ条 陸軍医局 明治二年三月 墨書 一綴
- 9 大阪医学館規則 明治二年一一月 墨書 一綴
- 10 漢学寮 (京都) 職員名簿 明治 年 墨書 一通
- 11 学制 明治年墨書一綴 学体 学科 (大学学制案力)
- 12 大学規則・中小学規則 明治三年二月 墨書 一綴 付、三科必読書・学課・舎中条規 大学 明治三年三月
- 13 考試法 明治三年二月 墨書 一綴 洋式兵法学校
- 14 洋学弁 江木■ 明治五年 墨書 一綴
- 15 続日本史編輯体例御下問二付略答 川田剛 墨書 一綴 明治六年四月文部省川田剛へ修史事業ヲ依囑ス ソノ際ノ答書 ナラン 阪谷素写
- 16 教育ノ管見 墨書 東京学士会院原稿紙 一綴
- 17 法学訓導 墨書 一綴 法学概論 明治一〇年頃ノ訳書力
- 18 春街学舎仮規則 明治一三年九月 墨書 一通
- 19 当世名家評判記 後編 墨書 一綴 学者見立

○ 一四九、華族

- 1 教養ノ資ヲ華族ニ募スル議 広瀬進一 明治五年二月 墨書 一綴
- 2 牧材会社趣意書 阪谷希八郎立案 明治五年三月 墨書 一綴 華族子弟教育機関設立ノ趣意
- 3 記大原老公之嘆 阪谷素 明治九年八月 墨書 一綴 華族規則二対スル大原重徳所見

4 告諭書 明治九年 墨書 一綴 華族学校告諭

○ 一五〇、地変

- 1 地震報知 安政二年墨書 二通 江戸大地震
- 2 江戸大地震井出火場所調書 安政二年一〇月二日 墨書 一綴 被害範囲 聞書
- 3 江戸大地震出火書付 安政二年一〇月二日 墨書 一綴 類焼区域 類焼諸侯 江戸書翰写
- 4 大坂大雷 堂島美濃太 明治元年八月一二日 墨書 一枚 落雷調べ

○ 一五一、雑

- 1 賽嵩石記 墨書 一枚 江原永祥寺汝揖愛石記 ふしはらのまさとし 和文
- 2 高野山敵討 墨書 一枚
- 3 鳥羽三右衛門子弟への訓え 墨書 一枚
- 4 勤王護国有志会案内 高松実村 明治 年 墨書 一通
- 5 流行悪病除法 安政五年 墨書 一通
- 6 コロリ薬法 安政五年八月一三日 墨書 一通 問部老中下渡シ
- 7 御製写 墨書 一通
- 8 道歌 墨書 一通

• 諸家詩文

○ 一五二、序・跋

- 1 祝河野子絢子元服倭歌并序 竹内履謙 天保七年一二月 墨書 一枚
- 2 送子絢昌谷君序結城弘 天保一二年墨書 一枚
- 3 送昌谷君子絢序 速水昭 天保一二年 墨書 一枚
- 4 送昌谷君子絢帰期於郷序 植木約 天保一二年 墨書 一枚
- 5 送子絢阪谷君帰郷序 中村庸 弘化四年 墨書 一枚
- 6 奉送昌谷君士絢還備中序 安藤知忠 弘化四年 墨書 一枚
- 7 義喪私議自序 山田球（方谷） 嘉永二年九月一八日 墨書 研香堂葳罽紙 一綴
- 8 吉備国歌集序 山田方谷 墨書 一綴
- 9 送傑士植原生序 昌谷碩（精溪） 安政二年一〇月 墨書 一綴 付、贈美作植原君公平序（藤森大雅）
- 10 朗廬文鈔序 川田剛 墨書 一綴 付、書蕭何追韓信函後他四篇 南摩綱紀力
- 11 和州武功頌并序跋 斎藤正謙（拙堂） 墨書 一綴 付、亡友阪井公実墓銘 快字説（篠崎小竹）
- 12 恭寿慈母藤田孺人七〇序 藤田淵 墨書 一綴 塩谷世弘評
- 13 奉寿伯父八木先生第二序 寛 墨書 一綴 付、賀安東翁重復旧職書 日本刀説
- 14 贈橋本翁序 筆者不明 墨書 一綴
- 15 書評註東■博議後 細川潤二郎 明治一二年一二月 墨書 一綴
- 16 評註東■博議跋 三島毅 明治一二年一二月 墨書 一枚

○ 一五三、墓誌

- 1 鈴木春山墓表 塩谷世弘（宕陰） 嘉永二年 活版 一綴
- 2 斎藤子徳墓表 大槻清崇（磐溪） 嘉永五年二月 墨書 一綴 付、竹堂遺稿
- 3 孝女阿米碑 安積信（良斎） 万延元年一二月 墨書 一綴
- 4 故中納言従三位水戸烈公墓誌 墨書 一枚

■ 5 臥牛翁墓銘 石川章（関藤藤陰） 墨書 一綴

■ 6 小阪山墓田碑〔関藤藤陰〕 墨書 一綴

○ 一五四、行・紀伝

■ 1 原城紀事 卷之一 河北重喜（温山） 墨書 一綴

■ 2 原城紀事 卷之二 河北重喜（温山） 墨書 一綴

■ 3 原城紀事 卷之三 河北重喜（温山） 墨書 一綴

■ 4 先考佩庵府君行述 古賀増 墨書 一綴

■ 5 松本奎堂伝 松林漸 墨書 一綴

■ 6 孝子烈婦伝 筆者不明 文久二年 墨書 一綴 津山孝子政太郎烈女阿仲ノコト 筆者柴原和力

■ 7 日光從輪録 塩谷世弘（宕陰） 天保一三年一月 墨書 一綴

■ 8 地震行 三島毅 安政元年 墨書 一綴 付、詩七首

○ 一五五、論・文集

■ 1 竹堂遺文 斎藤子徳（竹堂） 墨書 一綴 林子平伝 蘇秦論他

■ 2 拙堂文 斎藤正謙（拙堂） 墨書 一綴 山房観楓記 随斎詩抄序 海上試船銃記 陪観演放天炮記（弘化二年八月三日）

■ 3 精難先生文集 文政元年 墨書 一綴 戊寅帰省草卷上 阪谷碩（昌谷精谿） 天保六年写

■ 4 諸家文集 墨書 一綴 阪谷碩 奥之基 赤松鴻 赤松勲 賀屋敬

■ 5 桑梓景賢録 森田益（節斎） 墨書 一綴 上内藤県令書 三県令伝 中賢女伝 肅翁敬業 二先生伝 福島芳翁伝 西川懿伝 森田文庵墓碣銘

■ 6 九経談 卷之六 大田元貞（錦城） 墨書 一綴

■ 7 交易策・拓疆策 三島毅（中洲） 墨書 一綴

■ 8 養子論 大蔵経種 墨書 一綴 付 書本朝文粹後 賀辞（嘉永七年八月）

■ 9 得兼志 長文志 文久元年五月 墨書 一綴

■ 10 中庸欄外書 佐藤坦（一斎） 墨書 一綴

■ 11 皇学ヲ論ズ 草稿 明治二年一一月 墨書 一綴

■ 12 石風呂考 木原籍之 墨書 一綴

■ 13 巖瓮考 墨書 一綴 天保一四年吉備国出部出土髪考

■ 14 羽中山文庫記 羽倉用九（簡堂）・斎藤馨（竹堂） 嘉永三年 墨書 一綴

■ 15 答鶴翁書（不完） 墨書 一枚

■ 16 朗廬記 森祐之 弘化二年 墨書 一枚

■ 17 朗廬記 河添行充 弘化二年 墨書 一枚

○ 一五六、詞藻

■ 1 諸家詩文 一 墨書 九綴 秋月墨水 安積良斎 荒井保命 五十川訊堂 井上竹陵 生田胆斎 石川松塘 石井南橋 今井晦堂

■ 2 諸家詩文 二 墨書 八綴 江木鱈水 大給敬 大館霞城 大槻磐溪 大野梁村 大村桐陽 尾形惟明 尾池松湾

■ 3 諸家詩文 三 墨書 九綴 門田朴斎 鎌田博 川田甕江 神吉桐隠 木下逸雲 木下犀潭 木原桑宅 久我笛秀 久坂玄機

■ 4 諸家詩文 四 墨書 八綴 草場佩川 草場船山 日柳燕石 僧月性 古賀■庵 小早川正命 河野鉄兜 河野小石

■ 5 諸家詩文 五 墨書 八綴 佐藤裕 斎藤竹堂 昌谷精溪 重野安釋 篠崎小竹 柴秋村 柴原和 十文字栗軒

■ 6 諸家詩文 六 墨書 一一綴 首藤通 菅晋賢 鱸松塘 進鴻溪 関藤藤陰 曾根坦 田中謙 武富坦南 玉田永建 長海外 鶴田皓

■ 7 諸家詩文 七 墨書 九綴 中沢鴻州力 成富信中 錦織晚香 東沢潟 広井赤水 福田清水 藤井竹外 細川十洲 本城素堂

8 諸家詩文 八 墨書 七綴 松島徳之丞 松田迂仙力 丸山雁 三島中洲 宮原海宇 宮原節庵 森中和

■ 9 諸家詩文 九 墨書 五綴 山田方谷 結城香崖 吉山秉 渡辺明 渡辺保

■ 10 諸家詩文雜 一 墨書 一綴

■ 11 諸家詩文雜 二 墨書 一綴

■ 12 諸家詩文雜 三 墨書 一綴

■ 13 諸家詩文雜 四 墨書 一綴

■ 14 諸家詩文雜 五 墨書 一綴

■ 15 諸家詩文雜 六 墨書 一綴

○ 一五七、中国儒家

■ 1 湯睡庵太史論定一見能文 卷之一 墨書 一綴 付、帰震川先生論文章体則 読經史要論（註、湯睡庵ハ湯賓尹力 明代ノ人 睡庵集アリ 帰有光 号震川 明代ノ人）

■ 2 祭大湖神文 韓愈 墨書 一綴

■ 3 晁錯論 他 墨書 一綴 漢武帝論 李広論 霍去病論 魏論 司馬仲達論 都立論 郭崇韜論

■ 4 九成宮醴泉銘 魏徵 歐陽詞書 拓本 六枚

■ 5 漢陽軍漢川県令陳君墓誌銘 墨書 一枚 墓誌銘文例力

■ 6 骨董説 董其昌 墨書 一綴 董其昌「骨董一三説」 少異アリ

■ 7 陳軍門小伝 雷華亭 道光二二年六月 墨書 一綴

■ 8 魏叔子安選拾遺 墨書 一綴 魏禧 字叔子 清寧都ノ人 康熙中博学鴻詞二挙ゲラル

■ 9 清同治癸酉科 刀永佑 浙江郷試■卷 同治一二年（一八七三） 活版 一冊 郷試答案・当人族譜

■ 10 胡二齋先生評選横山初集 殷玉甫 墨書 一綴

■ 11 日本国考略 薛俊 墨書 一冊

■ 12 所見鉛 墨書 一綴 中国諸家文集

■ 13 蘇文忠公詩鈔 墨書 一綴

■ 14 頼評韓古詩鈔 墨書 一綴 韓昌黎詩 頼山陽評

■ 15 ■北古詩鈔 卷一 趙翼著 頼襄選 墨書 一綴 趙翼 字雲松 号■北 陽湖人 乾隆進士

○ 一五八、諸家詩

■ 1 丁卯夷寇 永代橋 作者不明 文化四年 墨書 一綴

■ 2 和某生所寄之韻 作者不明 安政四年 墨書 一綴

■ 3 米行詩記 北条煥（竹潭） 万延元年九月 墨書 一綴

■ 4 詩作秘訣 森田節翁 阪谷素識 万延元年九月一〇日 墨書 一通

■ 5 五家村雜詠 作者不明 墨書 一枚

■ 6 松山懷古 日柳政章（燕石） 墨書 一枚

■ 7 節齋摘稿 墨書 一綴 節齋詩

■ 8 読撰西六家詩 筆者不明 墨書 一綴 篠崎小竹・広瀬淡窓・草場佩川・頼春草・広瀬旭莊・阪井虎山ノ詩ヲ論ズ

■ 9 東京襟詩三〇首 大沼枕山 墨書 一綴 明治二年 津田信全跋

■ 10 招魂詩 増田貢 明治三年 墨書 一綴 横山正太郎諫死ヲ紀ス

■ 11 諸家詩書画寄書 墨書 一卷

■ 12 獄中雜題 安楽国主人 墨書 一綴

13 古今名詩選 活版 一綴

- 14 榎本釜次郎詩一首 明治 年 墨書 一枚

○ 一五九、その他

- 1 結城氏聯芳遺墨 天保九年 活版 一綴 結城宗広夫妻書翰 斎藤正謙序並二附考
- 2 朗廬撰関藤君達碑銘諸家評 墨書 一綴 宮原竜・江木■・小野愿・三島毅・川田剛・宮原寿三郎評
- 3 黄庭内景経略注 中山鷹（城山） 墨書 一綴 嘉永元年十一月一八日 阪谷素写
- 4 楠公手簡 墨書 一綴 観心寺中院宛 五月一六日、五月二一日付 延元元年
- 5 其角之状写 墨書 一綴 文憐宛 赤穂浪士打入当夜ノ消息 山陽跋

• 自家詩文

○ 一六〇、書

- 1 献芹書 阪谷素 嘉永四年二月二九日 墨書 研香堂蔵野紙 一綴
- 2 揭示上言 阪谷希八郎 慶応二年一二月 墨書 一綴
- 3 上大原源老公書 阪谷素 慶応三年一二月 墨書 一綴 大原重徳へ建言
- 4 上大原老公書 阪谷希八郎 慶応三年一二月 墨書 一綴 大原重徳へノ上書
- 5 与森春濤書 墨書 一枚
- 6 明治元年二月与友人書 墨書 一綴 友人岡山藩井上千太郎

○ 一六一、論

- 1 後藤基次論 墨書 一綴

○ 一六二、序

- 1 廉斉岡田翁寿序 明治元年三月 墨書 一綴
- 2 河野小石萱堂七〇寿序 明治二年 墨書 一綴 山田浩評
- 3 三家合寿序 明治一二年四月 墨書 一綴 川田剛・三島毅・中村正直・細川潤次郎評
- 4 大村敦軒六〇寿序 明治一一年四月 墨書 一綴 川田剛・鷲津宣光・重野安鐸評
- 5 精谿先生文集序 安政四年 墨書 一綴
- 6 安藤生送別卷序 元治元年一〇月 墨書 一枚
- 7 蘇長公論策序 明治元年秋 墨書 一綴
- 8 西洋聞見録序 墨書 一綴
- 9 竹外二八字詩遺稿序 明治三年 墨書 一綴
- 10 海軍図識序 明治三年七月 墨書 一綴
- 11 香坡西遊稿序 明治三年 墨書 一綴
- 12 仏山堂詩第三集序 明治五年 横山郡・重野安鐸・川田剛・亀谷行・武富■南評
- 13 懐山詩抄序 明治五年 墨書 一綴 横山郡・岡千仞評
- 14 韻華帖序 明治一一年八月 墨書 一綴
- 15 西征戦死姓名卷序 墨書 一綴
- 16 開化詩抄序 明治六年 墨書 一綴 重野安鐸評
- 17 文恭公実録序 明治三年六月 墨書 一綴
- 18 英国議事実見録序 明治八年五月 墨書 一綴 中村正直・三島毅評（「英国議事実見録」布蘭著安川繁成訳 明治八年刊）

- 19 学古■議序 墨書 一綴
- 20 蓮塘唱和序 墨書 一綴 海南評
- 21 瓶花挿法序 明治一〇年 墨書 一綴
- 22 続近世詩史序 明治一〇年一二月 墨書 一綴 三島毅・南摩綱紀評
- 23 不知也翁詩卷序 明治一一年一一月 墨書 一綴
- 24 漢文階梯序 墨書 一綴 川田剛・三島毅・鷺津宣光・中村正直評
- 25 刑法論綱序 明治一一年三月 墨書 一綴
- 26 明治鉄壁集序 明治一一年三月 墨書 一綴 重野安鐸・三島毅・岩崎維憐評
- 27 纂評唐宋八家読本序 墨書 一綴 中村正直・川田剛・三島毅・鷺津宣光評
- 28 纂評増注文章軌範序 明治一一年八月 墨書 一綴 川田剛・鷺津宣光・三島毅・中村正直評
- 29 彼得大帝偉績序 墨書 一綴
- 30 続日本政記序 明治一一年一二月 墨書 一綴
- 31 近世偉人伝第三編序 墨書 一枚
- 32 助語新編序 明治一二年二月 墨書 一綴 川田剛・三島毅評
- 33 史記読本序 墨書 一綴
- 34 鶴鳴詩序 墨書 一枚 鷺津宣光・三島毅・川田剛・中村正直評
- 35 日本外史前記序 明治一二年九月 墨書 一綴 川田剛・中村正直評
- 36 現行民事成文律類纂序 墨書 一綴
- 37 追遠小録後序 明治一三年四月 墨書 一綴 川田剛・重野安鐸評
- 38 皇朝史略摘解序 明治一二年九月 墨書 一綴
- 39 香崖遺稿序 墨書 一綴 重野安鐸・鷺津宣光・岩崎維憐・三島毅・川田剛評
- 40 〔斎藤竹堂村居三〇律〕序 墨書 一綴
- 41 詩学維新序 墨書 一綴
- 42 文章叢話序 明治一三年五月 墨書 一綴
- 43 西洋教児源論序 稿片 墨書 一枚
- 44 近世先哲叢談序 明治一三年一〇月 墨書 一綴
- 45 生理養生論序 明治一三年一二月 墨書 一綴 川田剛・三島毅評
- 46 警察一斑序 墨書 一綴
- 47 警察集成序 明治一〇年一〇月 墨書 一綴
- 48 送三島遠叔序 (不完) 墨書 一枚
- 49 送宮原久卿序 墨書 一綴
- 50 贈柴緑野序 墨書 一綴
- 51 送姪丈序 墨書 一枚
- 52 送糸井子敏序 墨書 一綴
- 53 送荒井生序 墨書 一枚
- 54 送僧超順序 墨書 一綴
- 55 送二生序 明治元年 墨書 一綴
- 56 送師範学教官古屋士強赴任広島県序 明治七年七月三十一日 墨書 一綴

- 57 送洋行諸君序 明治一二年二月 墨書 一綴
- 58 送友人某遊清国序 墨書 一枚 川田剛・岩崎維謙評
- 59 送弁理公使花房君赴朝鮮序 墨書 一綴
- 60 日芳橋銘井序 安政四年 墨書 一枚
- 61 綱鑑論策序 明治二年 墨書 一綴
- 62 江木鱒水六〇寿序 明治三年 墨書 一綴
- 63 〔水藩烈士事跡〕序 明治六年十一月 墨書 一綴 古屋矯・那珂通高・宮崎愚評
- 64 仏国行政警察新法序言 明治一一年八月 墨書 一綴 川路利良ノ代作 岩崎維謙評
- 65 俱氏仏国治罪法講義序 明治一二年一月 墨書 一綴 川路利良ノ代作
- 66 治罪法註解序 明治一三年九月 墨書 一綴 石井邦猷ノ代作
- 67 近世偉人伝統編序 墨書 一綴
- 68 〔中山政陽古今名家史画〕序 墨書 一枚
- 69 送序 墨書 一綴
- 一六三、引
 - 1 皇統略表引 明治四年 墨書 陸軍省郵紙 一枚
 - 2 纂評唐宋八家讀本引 墨書 一綴
- 一六四、記
 - 1 未央宮瓦研記 墨書 研香堂藏箋 一綴
 - 2 積善堂記 墨書 一綴
 - 3 独笑軒記 墨書 一綴
 - 4 白■楼記 墨書 一綴
 - 5 木仮山記 墨書 一枚
 - 6 孝明天皇御遺扇記 明治三年七月 墨書 一綴
 - 7 竜骨記 墨書 一枚
 - 8 記蛇足 墨書 一枚
 - 9 記■工 墨書 一枚
 - 10 乗空翁牽馬図記 明治三年 墨書 一綴 付、碧潭廬記
 - 11 仰之館記 明治七年一月 墨書 一綴
 - 12 古硯堂記 明治七年八月 墨書 一綴 岩崎維謙評
 - 13 吾園記 墨書 一綴 三島毅評
 - 14 一步楼記 墨書 一綴 川田剛・岩崎維謙評
 - 15 旧雨吟社記 明治七年八月 墨書 一綴 川田剛・田島・南摩綱紀評
 - 16 高島秋帆翁書幅記 墨書 一綴 三島毅・川田剛・中村正直評
 - 17 春岳桜記 明治一二年十一月 墨書 一枚
 - 18 甲寅春不言漢觀桃記 安政元年 墨書 研香堂藏箋 一枚
 - 19 挿策板記 万延二年二月 墨書 一綴
 - 20 一円吟社記 明治七年二月二日 墨書 文部省郵紙 一綴
 - 21 新潟県土寇記（不完） 明治五年 墨書 陸軍省郵紙 一綴 明治五年四月新潟県漆山村・河間村一揆

22 紀拿破倫入俄羅斯旧府事 墨書 一枚

○ 一六五、說

- 1 種花說 墨書 一綴
- 2 白鹿洞說 文久二年六月 墨書 一綴
- 3 和而不流說 墨書 一枚
- 4 文天祥遺硯說 明治八年九月 墨書 一綴
- 5 瓢說 墨書 一枚 岡千仞評
- 6 作詩古文詞說 墨書 一綴
- 7 題快說 墨書 一枚 川田剛評
- 8 抑压說 墨書 警視局野紙 一綴
- 9 人身表的說 明治九年一月 墨書 一綴 修身処世ノ說
- 10 稱謂說 (不完) 墨書 一枚

○ 一六六、讀

- 1 讀淮陰侯伝 墨書 一枚
- 2 讀米國政治訳本 明治六年一月 墨書 一綴

○ 一六七、書後

- 1 書東湖先生手書詩後 慶応二年冬 墨書 一枚
- 2 書眉詮文鈔後 墨書 一枚
- 3 書西洋窮理書後 明治三年 墨書 一綴
- 4 書西洋聞見録後編後 明治三年七月 墨書 一綴
- 5 書西洋沿革図説後 墨書 一綴
- 6 書■南先輩書画帖後 明治六年 墨書 一綴
- 7 書養蚕新論後 墨書 一綴
- 8 書後 明治六年八月 墨書 一綴 坦南画論跋
- 9 書翻譯弥留氏利学書後 墨書 一綴 中村正直・三島毅評
- 10 書盧忠烈手書掛幅写真後 墨書 一枚
- 11 書有栖川二品親王西征八品記後 明治一〇年一二月 墨書 一枚
- 12 書旧夢詩史後 明治一二年 墨書 一枚
- 13 書鶴■余音後 明治一二年三月 墨書 一綴
- 14 書嫩■翁詩卷後 墨書 一枚
- 15 書山陽旧知書順後 (殘欠) 墨書 一枚

○ 一六八、題

- 1 題画 墨書 一枚
- 2 題画 墨書 一枚
- 3 書画帖題言 墨書 一枚 岩崎維憐評
- 4 五弓士憲師友書牘題言 墨書 一枚
- 5 題■視投子図 明治三年 墨書 一枚
- 6 題柳士煥皇国千字文 明治三年 墨書 一枚

- 7 新令字解題言 慶応四年 墨書 一枚
- 8 声調集題言 明治一〇年七月 墨書 一枚
- 9 昌代名流録 墨書 一枚
- 10 題佳人伝第二編後 墨書 一枚
- 11 字書題言 明治一二年 墨書 一綴
- 12 近世偉人博二編弁言 明治一〇年十一月 墨書 一綴
- 13 文章軌範評説三則代題言 明治一〇年十一月 墨書 一綴
- 14 評注東萊博議例言 明治一二年七月 墨書 一綴
- 15 皇国靖献遺言題言 墨書 一枚
- 16 題消暑卷後寄五弓士憲 墨書 一枚
- 一六九、跋
 - 1 音訳筌跋 明治五年二月 墨書 一枚
 - 2 文家金丹跋 明治一三年一月 墨書 一枚 土屋弘評
 - 3 海防臆測跋 明治一三年三月 墨書 一枚 三島毅・川田剛評
 - 4 訓蒙叢談跋 墨書 一綴
- 一七〇、贊
 - 1 石松翁画像贊并序 明治一二年二月 墨書 一綴
 - 2 佐藤一寿翁画像贊 墨書 一枚
- 一七一、紀伝
 - 1 紀出部孝婦事并論 墨書 一綴 備中後月郡上出部村孝婦栗 付、書春齋印譜後
 - 2 鱒水江木先生略伝 活版 一枚
 - 3 藤陰先生碑文 明治一一年三月 刻版 一綴 関藤藤陰碑文 阿部正桓跋
 - 4 関藤藤陰小伝稿 墨書 一枚
- 一七二、碑
 - 1 蓆山先生碑 慶応元年 墨書 一綴
 - 2 克齋先生〔烏越吉孝〕碑 墨書 一綴
 - 3 有煤居士〔田辺満広〕墓碑銘 墨書 一枚
 - 4 誓不二井川碑 墨書 一枚
 - 5 檢校藤島君招魂碑 墨書 一枚
 - 6 阪本生墓碑 墨書 一枚
 - 7 石井文輔墓碑銘 墨書 一綴
 - 8 仁木寿輔墓表 墨書 一枚
 - 9 高間壯士碑 明治三年 墨書 一綴
 - 10 小林竹処墓碑銘 明治二年冬 墨書 一綴
 - 11 湯川静齋翁墓碑銘 墨書 一綴
 - 12 研堂緒方先生碑 明治六年 墨書 一綴
 - 13 霞外山人墓碣銘 墨書 一綴 付、霞外山人碑〔墓碣銘草稿〕 鷲津宣光・川田剛・三島毅・中村正直評
 - 14 五十川敬甫墓表 明治六年五月 墨書 一綴

- 15 神吉主理墓碑銘 墨書 一枚
- 16 鶴洲佐沢先生墓表 墨書 一綴
- 17 伴士毅墓表 墨書 一枚
- 18 舟里寺地先生碑 明治一〇年八月 墨書 一綴 三島毅・岩崎維謙評
- 19 故一等少警部杉田成章招魂碑 明治一〇年一二月 墨書 一綴
- 20 三等少警部陸軍少尉川上君碑 明治一一年七月 墨書 一枚 岩崎維謙・川田剛・鷺津宣光評
- 21 藤陰関藤先生碑 明治一一年三月 墨書 一綴 川田剛・三島毅・宮原竜・小野原心評
- 22 橋本香坡妾氏碣記 墨書 一枚
- 23 植原六郎左衛門碑 墨書 一綴 中村正直・鷺津宣光・川田剛・三島毅評
- 24 赤塚権少警部碑 明治一二年 墨書 一綴
- 25 村松七士碑 墨書 一綴 川田剛・中村正直評
- 26 宮城県西討戦死士碑 明治一一年 墨書 一綴 川田剛・中村正直・鷺津宣光・三島毅評
- 27 正四位大原重実君墓表 明治一三年四月 墨書 一綴 三島毅・鷺津宣光・中村正直評
- 28 丹羽正濟墓碑銘 明治二二年五月 墨書 一枚
- 29 中警視安藤君母夫人碑 明治一一年 墨書 一綴 川田剛・三島毅・鷺津宣光・中村正直評
- 30 和蘭国医学博士設乙越尔蔑噠斯先生碑 明治一三年 墨書 一綴 重野安鐸・鷺津宣光・川田剛・三島毅・中村正直評
- 31 名和長年書碑文 慶応三年八月 墨書 一枚
- 32 新建楠祠題名碑記 明治四年 墨書 一綴 大原重徳ノ代作
- 33 宇多源氏始祖神道碑 明治一〇年九月 墨書 一綴 川田剛評
- 34 弔魂碑 明治一一年一〇月 墨書 一枚 西南役警視隊戦死弔魂
- 35 臥雲末松翁碑 明治一二年 墨書 一枚
- 36 笠井金三郎墓碑 墨書 一綴
- 37 糸山翁碑 草稿 墨書 警視局罫紙 一枚
- 一七三、文
 - 1 祭武富■南文 明治八年四月 墨書 一綴
- 一七四、文集・文稿
 - 1 文集 墨書 一綴 論説・序跋・墓隅銘
 - 2 文稿 墨書 一綴 送序・送二生序・贈柴秋村次進干達韻
 - 3 文稿 第二卷 墨書 一綴 記・序・論他 安積良斎・後藤松陰・奥野小山・篠崎小竹・野田笛浦・林雲達評
 - 4 朗廬文稿 第三卷 墨書 一冊 記・序・碑他
 - 5 文稿 第四卷 墨書 一綴 序・碑他 川田剛評
 - 6 文稿 第五卷 墨書 一綴 記・序・論・贊他
 - 7 雜稿 第六卷 墨書 一綴 著作文集 序・記・説・碑他
 - 8 文稿 第七卷 墨書 一綴 後・記・序他
 - 9 文稿後編 第一卷 墨書 一綴 墓銘・序・題言他（芳郎注記 此分ハ朗廬全集二載セタルモノ多シ後日校正印刷スヘキモノナリ 明治二六年八月一三日）
 - 10 朗廬先生文稿 控 墨書 一綴
 - 11 朗廬文稿（未定） 墨書 一綴

12 朗廬文稿 雜 墨書 一綴

- 13 稿第八卷 墨書 一綴

○ 一七五、詩

- 1 朗廬五絶 墨書 一綴
- 2 朗廬七絶 墨書 一綴
- 3 朗廬五七律 墨書 一綴
- 4 詩集 墨書 一綴
- 5 朗廬古詩 墨書 一綴
- 6 朗廬詩稿 未定稿一〔ミセケチ〕 墨書 一冊
- 7 朗廬詩稿 雜 墨書 一綴

• その他著作

○ 一七六、儒学

- 1 詩伝参観 一 墨書 一綴
- 2 詩伝参観 二 墨書 一綴
- 3 詩伝参観 三 墨書 一綴
- 4 詩伝参観 四 墨書 一綴
- 5 左説私抄 上 墨書 一綴
 - 隠、桓、莊、閔、僖、文公
- 6 左説私抄 中 墨書 一綴
 - 宣、成、襄公
- 7 左説私抄 下 墨書 一綴
 - 昭、定、哀公
- 8 左伝講義 第三回 墨書 一綴
- 9 孟子講義 第三号 黒書 一綴
- 10 孟子講義 第四回 墨書 一綴
- 11 校正謝氏原本文章軌範凡例 明治元年一〇月 墨書 一枚

○ 一七七、論説

- 1 体育論 明治一二年一二月一五日 墨書 一綴
- 2 随筆二則 墨書 一枚
- 3 碑話二則 墨書 一綴
 - 岩崎維憐評
- 4 皇学質疑 墨書 一綴
 - 皇学ノ称和学ト称スベキカ
- 5 質疑一則草稿 明治七年 墨書 一通
 - 明六雜誌一〇、一一号所載
- 6 妄説ノ疑草稿 明治八年 墨書 一通
 - 明六雜誌第三二号所載
- 7 蝶■轉換説 明治八年五月 墨書 一綴

- 明六雜誌第三八号所載「轉換蝶■說」草稿
 - 8 条理離合ノ說 墨書 一綴
 - 9 觀菊說 墨書 明六社箋 一枚
 - 10 苦熱漫想記 明治 年 墨書 明六社箋 一枚
 - 11 スピーチ習ヒ試ニ付講義 明治八年一月 墨書 一綴
 - 明六雜誌第二七号所載「民選議院變則論」草稿
 - 12 管見三条 明治一二年九月一五日 墨書 一綴
 - 学士會意見
- 一七八、地誌
- 1 大地志編輯意見 明治六年二月 墨書 一綴
 - 2 再訂略誌 雛形書試 墨書 太政官野紙 一綴
 - 地誌錄上要項
 - 3 地誌編輯意見 明治六年二月一〇日 墨書 一綴
 - 4 地誌編纂意見（殘欠） 明治五年 墨書 一通
 - 5 若狹國草稿 一 明治五年 墨書 大史局野紙 一綴
 - 6 若狹國草稿 二 明治五年 墨書 大史局野紙 一綴
 - 7 若狹國草稿 三 明治五年 墨書 大史局野紙 一綴
 - 8 加賀國草稿 明治五年 墨書 大史局野紙 一綴
 - 9 越前國草稿 明治五年 墨書 大史局野紙 一綴
 - 10 越中國草稿 一 明治五年 墨書 大史局野紙 一綴
 - 11 越中國草稿 二 明治五年 墨書 一綴
 - 12 能登國草稿 明治五年 墨書 大史局野紙 一綴
 - 13 越後國草稿 一 明治五年 墨書 一綴
 - 14 越後國草稿 二 明治五年 墨書 太政官野紙 一綴
 - 15 佐渡國草稿 明治五年 墨書 太政官野紙 一綴
 - 16 北海道琉球藩提要 墨書 一綴
 - 17 北陸道七國提要 第二稿 墨書 太政官野紙 一綴
 - 18 北陸道七ヶ國略志 墨書 太政官野紙 一綴
 - 北陸道七國提要草稿力
 - 19 琉球國誌 墨書 文部省野紙 一綴
 - 20 地誌草稿 明治六年 墨書 文部省野紙 一綴
 - 畿内 東海道 東山道
 - 21 日本地理啓蒙 草稿 明治六年 墨書 文部省・太政官野紙 一綴
 - 日本略図稿及ビ錄上骨子案
 - 22 日本地理啓蒙 北海道ノ部例言草稿 明治六年 墨書 文部省野紙 一枚
 - 23 北海道詩稿 墨書 文部省野紙 一綴
 - 「小学地誌」草稿
 - 24 琉球藩誌稿 墨書 文部省野紙 一綴

「小学地誌」草稿

- 25 小学地誌 北海道及琉球之部 明治六年 文部省罫紙 一綴
 - 一稿
 - 26 小学地誌 北海道及琉球之部 明治六年 墨書 文部省罫紙 一綴
 - 二稿
 - 27 日本地理啓蒙 草稿 墨書 文部省罫紙 一綴
 - 日本略図及七国勢概略
 - 28 日本地理啓蒙 草案一端 明治六年五月 墨書 文部省罫紙 一綴
 - 例言 日本略図 北陸道
 - 29 地誌略稿本 墨書 一綴
 - 北海道 琉球
 - 30 地誌編輯備用書籍大要 畿内ノ部 墨書 太政官罫紙 一綴
 - 山城国 大和国 河内国 和泉国 摂津国
 - 31 地誌編輯備用書籍大要 北陸道ノ部 墨書 太政官罫紙 一綴
 - 若狭国 加賀・能登・越中国 越後国 佐渡国
 - 32 小学地理誌 日本之部 上 明治七年 墨書 文部省罫紙 一綴
 - 一稿 「小学日本地理書」上 明治八年刊
 - 33 小学地理誌 日本之部 上 明治七年 墨書 文部省罫紙 一綴
 - 二稿 「小学日本地理書」上 明治八年刊
 - 34 山陰・山陽・南海・西海地誌 草稿 墨書 文部省罫紙 一綴
 - 小学地理誌 下巻草稿
 - 35 小学地理誌 日本之部 下 明治七年 墨書 一綴
 - 一稿 「小学日本地理書」下
 - 36 小学地理誌 日本之部 下 明治七年 墨書 文部省罫紙 一綴
 - 二稿 「小学日本地理書」下
 - 37 小学地理啓蒙 日本之部 草稿 墨書 文部省罫紙 一綴
 - 38 地誌草稿断片 墨書 一綴
- 一七九、学会
- 1 学士院議案草稿（残欠） 墨書 一通
 - 2 文会演説 明治八年 墨書 一綴
 - 洋々社談 第一号所載原稿
 - 3 結社〔東京修身社〕 趣意書案 明治九年 墨書 明六社箋 一綴
 - 東京修身社明治九年西村茂樹發起 最初二阪谷二諮ル
 - 4 文稿廻評条約 明治一一年五月 墨書 一綴
 - 文会（三島中洲・鷲津毅堂・坂谷朗廬・中村敬宇・川田襄江）申合セ
 - 5 明六社寄附金応募二ツキ照会 明治一三年一月一〇日 墨書 一通
 - 講談会社講談堂建築費応募二ツキ社員意向照会
- 一八〇、代筆

- 1 温知館開校祝文 浅野長勲 明治一一年六月 墨書 一綴
 - 朗廬代草
 - 2 祝辞及祝辞答文 明治一一年二月 墨書 一綴
 - 鮫島全権公使等渡仏ヲ送ル
 - 3 祝文・祝文答書 明治一二年一月 墨書 一綴
 - 警視局諸員及ビ大警視川路利良 朗廬代作
 - 4 三島毅名代作跋文稿 墨書 一枚
- 一八一、雜録
- 1 凡例録 墨書 一冊
 - 古今諸事書留嘉永頃ノ作
 - 2 雜録 墨書 一綴
 - 道中記（広島ヨリ赤間関） 不朽社記 墓銘 筆談記録 詠草ソノ他
 - 3 雜録 一 墨書 一冊
 - 教育雜誌ソノ他書キ抜キ
 - 4 雜録 二 墨書 一冊
 - 明治七、八年正院政表課 司法省出仕当時手控
 - 5 雜録 三 墨書 一綴
 - 諸本書拔 ■庵語言他
 - 6 雜録 四 墨書 一冊
 - 新聞書抜 欧州諸国事情 西哲諸言
 - 7 雜録 五 墨書 一冊
 - 時事書留 覚書
 - 8 雜録 六 墨書 一綴
 - 時事書留
 - 9 聞録 一 墨書 一冊
 - 雜記帳（醉談 柳士煥詩 門田朴齋詩 日高儀一郎詩他）
 - 10 雜記帳 明治一〇年頃 墨書 一冊
 - カナマジリ文草稿 他
 - 11 雜記 三 墨書 一冊
 - 民刑法 要録 清律用語
 - 12 雜記 四 墨書 一冊
 - 治罪法要録
 - 13 日記 墨書 一冊
 - 益智新録摘録他 略白紙
- 一八二、紀行
- 1 北遊放情稿 天保一二年 墨書 一綴
 - 二月北陸經由帰郷 同行江木■
 - 2 偷間小記 東遊雜録 未定稿 弘化元年 墨書 一綴

3 東遊日記 弘化三年 墨書 一綴

- 八月二三日出發東北紀行日記

▪ 4 鎮西発気稿 文久三年夏 墨書 一綴

- 文久二年九月一三日出発肥・筑・豊二遊ブ

▪ 5 鎮西游稿半集 文久三年 墨書 一綴

○ 一八三、日記

▪ 1 日記 墨書 一綴

- 弘化四年四月七日一六月二〇日 師■庵歿後歸郷日記

▪ 2 出雲行往復日記 墨書 二綴

- 四月一〇日一二六日

▪ 3 日記 墨書 一綴

- 文久二年九月一三日一三年二月一〇日 九州紀行

▪ 4 雜記一 墨書 一冊

- 明治一一、一二年書留 西欧百事要覽

▪ 5 雜記二 墨書 一冊

- 明治一三年四月一二月 日記

○ 一八四、抄録

▪ 1 〔経余鈔説〕 墨書 一綴

▪ 2 髮櫛緝貫 墨書 一綴

- 語句出典・書目控 雜記帖

▪ 3 防逸編 墨書 一綴

- 弘道館記 頭断場 沈痾絶句 性善説

▪ 4 防逸編二 墨書 一綴

- 魏伯子論文 魏禧文集附録 読醉翁亭記戯賦 津山侯詩賦 杉田紀行 他

▪ 5 雜記集 墨書 一綴

- 学校考序 職官考序 五雜俎 ソノ他拔書雜文

▪ 6 間録 墨書 一冊

- 雜記帳 (恐懼神論 松山学政 時習館 学制大略他)

▪ 7 諸事書拔 墨書 一綴

▪ 8 書拔帳一 墨書 一綴

- 確言 諺 譬喩 訓詁 字句 事实

▪ 9 書拔帳二 墨書 一綴

- 故事 地誌 博物

▪ 10 書拔帳三 墨書 一冊

- 諸書書拔

▪ 11 書拔帳四 墨書 一冊

- 詩文書拔

▪ 12 書拔帳五 墨書 一冊

詩文書拔

- 13 先師余抄 墨書 調神館塾棗 一綴
 - 論語問答摘録ソノ他
- 14 課間塗鴉 墨書 調神館塾棗 一綴
 - 諸書書拔

○ 一八五、雜

- 1 林阪筆語 文久二年一二月 墨書 一綴
 - 阪谷素・林雲達問答録
- 2 報知新聞所載叛乱説中村敬宇評読後感（未完） 明治 年 墨書 一通
- 3 編輯人員二ツキ愚案 明治八年一〇月一八日 墨書 一通
 - 大審院御用掛時代力
- 4 江木高遠子米国行ノ送言 明治一三年 墨書 一綴
- 5 病氣休暇届見本 第一号・第二号 墨書 陸軍省用箋 一綴
- 6 運動術健康法 墨書 一通
- 7 名簿 墨書 横小本 一冊
- 8 病中規則 墨書 一通
- 9 大原重徳写真 一枚
- 10 雜資料 墨書 一綴

• 伝記・その他

○ 一八六、伝記

- 1 阪谷希八郎へ一橋家達書覚書 慶応二年 墨書 一通
- 2 本国帰農入籍願書 阪谷素 明治七年一二月 墨書 一綴
- 3 朗廬先生行状 明治一五年一月七日 墨書 一綴
- 4 朗廬阪谷先生墓碣銘 三島毅 墨書 一綴
- 5 阪谷希八郎身上書 墨書 一通
- 6 阪谷素履歴書 墨書 二綴
- 7 辞令 墨書 二一枚
 - 正院 陸軍省 文部省 司法省 内務省
- 8 行政官達 明治元年四月 墨書 一通
 - 学校御用御雇出京スベキ旨
- 9 阪谷素写真 明治一三年 一枚
- 10 先考朗廬先生遺稿目録 墨書 一冊
- 11 賞・礼状 墨書 七枚
- 12 香典目録 墨書 二枚
 - 東京学士会 明六社
- 13 姓名并居処録 墨書 二冊
 - メモ帳 明治七一九年
- 14 住所録 墨書 一冊

- 15 吊詩 小野湖山 明治一四年一月 墨書 一枚
 - 16 朗廬先生履歷 墨書 一冊
 - 付、渋沢翁六〇年史編纂メモ
 - 17 阪谷朗廬事歴・朗廬先生伝記寄贈控 大正五年一月十三日 墨書 一綴
 - 18 和歌 墨書 一綴
 - 自作・他人作
 - 19 和歌 阪谷京子 墨書 一綴
 - 20 朗廬先生全集目録 墨書 一綴
 - 21 阪谷朗廬先生五〇回忌記念 昭和四年一二月二八日 活版 一冊
- 一八七、天竜峡
- 1 天竜峡 上柳■ 明治四五年 活版 一冊
 - 阪谷朗廬 天竜峡記所載
 - 2 天竜峡碑関係 関島周一書翰 大正八一—一三年 墨書 四通
 - 3 天竜峡碑関係 原九右衛門書翰 大正二年 墨書 二通
 - 4 天竜峡碑関係 田中太三郎書翰 大正三、四年 墨書 七通
 - 5 天竜峡碑関係 林経明書翰 大正三、四年 墨書 三通
 - 6 天竜峡碑二関スル書類 大正四年 墨書 一綴
 - 7 奇勝天竜峡 栗岩英治 大正二年 活版 一冊
 - 阪谷朗廬天竜峡記所載
 - 8 天竜峡関係 名刺二枚
 - 9 天竜峡碑関係 写真二枚
- 一八八、家族
- 1 蚕桑集成 南部陳撰渋沢栄一閱 墨書 一綴
 - 此書亡児礼之介上毛遊寓中手写スル所云々 明治六年九月一日阪谷素ノ識語アリ
 - 2 阪谷礼之介五〇周年忌記録 大正一一年八月二三日 墨書 一綴
 - 3 阪谷礼之介五〇年忌記念 一枚
 - 明治五年写真複製 大正一一年阪谷芳郎識語
 - 4 達三五〇回忌一件 昭和一〇年 ペン書 一綴
 - 法要通知控 名刺
 - 5 達三五〇回忌関係 牛窪第二郎書翰 昭和一〇年四月一六日 一通
 - 6 達三所蔵写真 四四枚
 - 7 建言 浅野長勲宛 阪谷次雄 明治一九年五月一日 墨書 一綴
 - 8 文陣錦袍余談一件書類 〔阪谷次雄〕 明治一四年 墨書 一綴
 - 9 阪谷次雄衛生局辞令 明治一六・一七年 一綴
 - 10 阪谷次雄結婚関係書類
 - (イ) 婚姻届控 一枚
 - (ロ) 南摩氏親族系統略表 一枚
 - (ハ) 三島毅書翰 阪谷次雄宛 明治一五年 七通

11 阪田文平書翰 阪谷次雄宛 明治一七二〇年 二一通

▪ 「朗廬文鈔」編集刊行ニツイテ

▪ 12 貧民ノ疾病及ヒ其死亡病名ニ関スル儀ニ付具申 阪谷次雄 墨書 一綴

▪ 13 立憲帝政党ニ忠告ス〔阪谷次雄〕 明治 年 墨書 一綴

▪ 14 建言 阪谷次雄 明治一五年 墨書 一綴

▪ 15 議宜早設資政民会書 阪谷次雄 明治一五年六月九日 墨書 一綴

▪ 原題「憂国新論又上今上皇帝書」

▪ 16 阪谷達三備忘録 明治一三・一四年 一冊

▪ 17 阪谷達三辞令 一四枚

▪ 三重県・起立工商会社

▪ 18 阪谷達三ノート 一冊

▪ 19 阪谷達三旅券 明治一八年三月 一枚

▪ 20 阪谷達三書翰 阪谷次雄宛 八通

▪ 21 阪谷素書翰 阪谷達三宛 二一通

▪ 阪谷恭子書翰 一通

▪ 22 議宜早設資政民会書 阪谷次雄 明治一五年六月九日 活版 一冊

○ 一八九、興讓館

▪ 1 狂簡詩集 自庚申（万延元年）至壬戌（文久二年） 興讓館 墨書 一綴

▪ 2 狂簡文集 自庚申（万延元年）至辛酉（文久元年） 坂田丈介 墨書 一綴

▪ 3 狂簡集 坂田丈介 墨書 一綴

▪ 4 興讓会報 第三一號 活版 一冊

▪ 朗廬略年譜 阪谷恭子（朗廬夫人）上京旅行報知書翰所載

▪ 5 興讓館中学校 同維持会書翰 阪谷芳郎宛 各一通 明治四二年

▪ 6 興讓館沿革概要 活版 一冊

▪ 7 興讓 第一四號 創立七〇周年記念号 大正一二年七月一〇日 活版 一冊

• 阪谷朗廬略年譜

○ 阪谷素 字は子絢 幼名三平、素三郎 通称希八郎 後素（しろし） 号朗廬 一時期河野・昌谷姓

○ 文政五年十一月一七日 良哉次男として生る 備中国川上郡九名村家（くめう） 代々の造酒家

○ 文政一〇年 六歳 母と共に先考任地大阪に出る。初め奥野小山に師事、後大塩中齋に入門

○ 天保三年 一一歳 先考に従い江戸に移る 昌谷精溪（さかや）に入門

○ 天保八年 五月 一六歳 先考歿 母と共に備中九名に帰郷

○ 天保九年 三月 一七歳 再び江戸遊学、昌谷門間もなく古賀■庵に入門

○ 天保一二年 二〇歳 北遊放情稿

▪ 二月 江木■と北陸高崎、長岡、金沢を過り京都に入り 四月二四日備中に帰る

○ 天保一四年 二二歳 三度東遊、古賀■庵門に帰る

○ 弘化元年 二三歳 偷間小記 友人四名と房州鋸山に遊び 浦賀へ出て江ノ島、鎌倉、金沢を遊覧す

○ 弘化三年 二五歳 東遊雑録

▪ 八月 上毛に遊行 日光より会津、米沢、仙台に出て松島に遊ぶ

- 弘化四年 一月 二六歳 古賀■庵歿 四月備中に帰る 帰途天竜峡に遊ぶ
- 嘉永元年 三月 二七歳 山成直蔵次女恭と結婚、恭時に一七歳
- 嘉永二年 二八歳 洋学研究を志し、四度東遊せんとして大阪滞留中母発病により帰郷
- 嘉永四年 八月 三〇歳 家塾亦足軒（梁瀬村桜溪）、この時坂田姓より本姓坂谷と改称
- 嘉永五年 一月二三日 三一歳 長男礼之介誕生
- 嘉永六年
 - 三月 三二歳 一橋家代官角田米三郎西江原村寺戸に郡中教諭所設立、朗廬を聘す
 - 四月 母堂逝去
 - 九月 桜溪より移住
 - 一〇月 一日 開校、興讓館
- 安政元年 三三歳 春、古賀謹一郎長崎出張途次訪問
- 安政六年 九月三〇日 三八歳 朗廬三男誕生
- 文久二年 九月一三日 四一歳 寺戸発 西遊発途 門弟二名同行 肥筑豊を経 三年二月六日 萩に到らんとして果さず
 - 稿鎮西発気
- 慶応元年 六月 四四歳 渋沢篤太夫徳川慶喜の命により施政の要道を問う
- 慶応二年
 - 二月 四五歳 渋沢篤太夫再来
 - 二月 一橋家側用人黒川嘉兵衛来訪
 - 四月 一橋慶喜より召命
 - 五月 男子（時作）出生
 - 六月 上京 七日二条城に慶喜に謁見
 - 一二月 慶喜に「揭示上言」呈出
- 慶応三年一二月 一日 四六歳 大原重徳に上書
- 明治元年一二月 四七歳 興讓館督学を姪坂田警軒に托し、広島移住 広島藩客土 浅野長勲顧問 俸禄三〇〇俵
- 明治二年
 - 三月一九日 四八歳 藩公 京師にあり先生を呼ぶ
 - 四月 行政官より徴書あるも、病気を理由に辞退（六月）
- 明治三年 四九歳 夏 郷里に行く
 - 一二月 藩公東京に上る 朗廬従う
- 明治四年 七月一四日 五〇歳 廃藩置県の大詔、よって致仕す
 - 妻子を備中与井に帰らしむ
- 同年 旧雨社創立に参ず
 - 藤野海南、重野成斎、岡鹿門、小野湖山、鱸松塘
- 明治五年
 - 一月 五一歳 東京に家族を呼び寄す
 - 四月一四日 陸軍省八等出仕（秘史局分課）
 - 五月一八日 陸軍省参謀局分課地理図誌編輯掛
 - 一〇月二八日 陸軍省依願免

一一月一七日 正院八等（地理課）出仕

- 明治六年
 - 五月 五日 五二歳 文部省八等出仕（編書課）
 - 六月一三日 文部省（編書課）地理誌編輯専務
 - 八月二三日 長男礼之介死去
- 同年 明六社創立
 - 坂谷氏、鸞家二百三五金也（鱒水日記）
- 明治七年
 - 二月一五日 五三歳 中学地誌編輯に付正院地理課へ出勤
 - 一一月一三日 依願免出仕（文部省）
 - 一一月一五日 奉職満二年以上に付其賞金七〇円下賜文部省
- 明治八年
 - 一月一九日 五四歳 正院再出仕 政表課御用掛 月俸九〇円
 - 六月 洋々社創立
 - 九月二二日 政表課廃止に付免
 - 一〇月二二日 司法省大審院御用掛（編輯課長） 月俸九五円
- 明治九年
 - 三月二二日 五五歳 奏任官待遇 月俸九五円
 - 四月 七日 西村茂樹東京修身学舎創立
 - 九月二〇日 司法省七等出仕
- 明治一〇年
 - 一月一六日 五六歳 七等判事 大審院詰
 - 三月二九日 叙正七位
 - 六月一三日 御改正に付判事一同被免
 - 九月一三日 警視局雇書記課規則掛り拝命 月給八〇円
- 明治一一年 五七歳 東京警視局在職（平本希一郎書翰）
- 明治一二年
 - 二月一〇日 五八歳 内務省警視局御用掛（月俸八〇円 准奏住）
 - 九月 八日 拾円加増（内務省警視局）
- 同年 東京学士会院会員に互選さる
- 明治一三年
 - 一月 五九歳 交詢社創設に参加 常議員
 - 六月 斯文学会創立 文学（教授）選任さる
 - 九月 二男次雄、友人小林義直と房州に遊ぶ
- 同年 小石川春日町の邸中に私塾「春街学舎」を開設
- 明治一四年
 - 一月一五日 六〇歳 東京小石川区春日町四九番地の邸に歿す
 - 二月二三日 警視局奉職中格別勲励候に付祭糝料下賜

